

目次 キララ賞(かながわ若者生き活き大賞)設立 30 周年記念誌

ごあいさつ・キララ賞の紹介 2-16

- 2 キララ賞基金運営委員長 吉村 恭二挨拶
- 4 生活クラブ神奈川生活協同組合 理事長 篠崎 みさ子挨拶
- 5 福祉クラブ生活協同組合 理事長 大場 英美挨拶
- 6 キララ賞について
- 8 キララ賞 30 周年記念フォーラム

キララ賞	宣受賞者インタビュー	17-97
18	高城 芳之さん (NPO 法人 アクションポート横浜)・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	2011 年度受賞者
22	石井 利衣子さん (NPO 法人 アンガージュマン・よこすか)	2011 年度受賞者
26	藤田 靖正さん (NPO 法人 さんわーくかぐや)・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	2012 年度受賞者
30	天白 牧夫さん (三浦半島自然保護の会・NPO 法人三浦半島生物多様性保全)・・・	2012 年度受賞者
34	永岡 鉄平さん (株式会社フェアスタート NPO 法人フェアスタートサポート) …	2013 年度受賞者
38	福本 塁さん (株式会社ウイングベース・長岡造形大学 助教)	2013 年度受賞者
42	佐野 真吾さん (ふるさと侍従川に親しむ会 観音崎自然公園 学芸員)	2014 年度受賞者
46	岡 歩美さん (Marutto (旧:神奈川わかものシンクタンク))・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	2014 年度受賞者
50	Bejio Me Liga(ベージョ・メ・リーガ)	2015 年度受賞者
54	川岸 卓哉さん (NPO法人 原発ゼロ市民共同かわさき発電所 理事長)	2015年度受賞者
58	小川 杏子さん (「福島の子どもたちとともに」川崎市民の会)・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	2016 年度受賞者
62	加藤 功甫さん (NPO法人 Connection of the Children)	2016年度受賞者
66	学生団体 My Own Place ······	2017 年度受賞者
70	割田 大悟さん (ひき桜)・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	2017 年度受賞者
74	つばき学習会 (吉原 崇徳さん)	2018 年度受賞者
78	ひとりやないで! 加藤 枝里さん	2018 年度受賞者
82	親切ダンスカンパニー(現名称:スタジオ◎きのこ)品川 桃実さん	2019 年度受賞者
86	あすのち (乾さん)	2019 年度受賞者
90	百崎 佑さん (認定NPO法人 ミニシティ・プラス、コーヒーバリスタ)	2020年度受賞者
94	もりびと NOA ·····	2020 年度受賞者
	98 キララ賞の歴史	
	99 歴代受賞者一覧	

106 キララ賞を構成する各委員会について108 キララ賞実行委員長 桜井 薫挨拶

110 編集後記

キララ賞基金運営委員長挨拶





ものである。

・・ララ賞が創設されて三○年と聞いて、キララ賞が創設されて三○年と聞いて、キララ賞が創設されて三○年と聞いて、キララ賞が創設されて三○年と聞いて、

の項目を重視している。
このキララ賞は、神奈川県内で「平和・
このキララ賞は、神奈川県内で「
このキララ賞は、
このキラララ賞は、
このキララ賞は、
このキャラ賞は、
このキララ賞は、
このキララ賞は、
このキララ賞は、
このキララ賞は、
このキラ賞は、
このキララ賞は、
このキララ賞は、
このキラ賞は、
このキララ賞は、
このキラ賞は、
このキララ賞は、
このキラ賞は、
このキラ賞は、
このキララ賞は、
このキララ賞は、
このキララ賞は、
このキラ賞は、
このキララ賞は、
このキラ賞は、
このキララ賞は、
このキラ賞は、
このキララ賞は、
このキララ賞は、
このキラ賞は、
このキョグを含まりに、
このキラ賞は、
このキラ賞は、
このキラ賞は、
このキラ賞は、
このまりに、
このまりに、

- ・未来への志向性を持っているか
- 他の人たちが再現し実現できるかオルタナティブな生き方の提案があるか
- 広く世界の人々とつながる活躍か
- 自分たちの身近な地域を大切にしているか
- 大勢の人びとの参加と連帯があるか
- 持続性のある活動か

ものである。

「お動内容も同じように多彩でかつ多様な実に多様で多彩な若者たちであり、その実に多様で多彩な若者たちであり、そのである。

が一番大きな理由であろう。 若者を発見することを大切にしてきたこと 見してきたのかを考えると、生活クラブと このような若者たちをどのようにして発

いる。の若者たちを発見しやすい条件に恵まれてに点在して住んでいるわけなので、これらに点在して住んでいるわけなので、これら

力」を必要としたようである。 意識的に条件に合う若者を探していく「努しかし、過去の応募者の経緯を見ると、

多くあると伝えられている。地域に住んでいたんだ」と、気づくことがて初めて「こんな素敵な若者が自分たちの意識的に適応者を探していく努力を重ね

いっても過言ではなかろう。 キララ賞の特色の一つはここにある、と

この賞の対象者を地域社会の中で見出すこの賞の対象者を地域社会の中で見出するようである。この賞の対象者を地域社会の中で見出するようである。この賞の対象者を地域社会の中で見出するようである。

る。ただ単に賞の対象を見出すだけでなく、ここにキララ賞のもう一つの特性があ

見出していくプロセスの中で組合員自身が地域社会をもう一度見直してみることに意味があるのである。これは、過去の受賞者を見出した地域の組合員が口々に「こんなに素晴らしい若者が私たちの身近に住んでいることからも明確なことである。ただ残念なことに財源に限りがあるため、年度ごとに二件しか賞を授けることができないが、地味ではあるがしっかりと自分たちの活動をしている若者が多いことに励まされる毎をしている若者が多いことに励まされる毎年の選考時期である。

申し上げたい。
お後にこのように素晴らしい賞を今日は、ひとえに生活クラブ生協及び福祉クラブ生協が、賞金及びず生協及び福祉クラブ生協が、賞金及びまで継続できたのは、ひとえに生活クラまで継続できたのは、ひとえに生活クラー

村恭二

- マラヴ運営委員長となる。 NPO青少年団体として代表的な組織 のボランティアとして関わり、その後広らボランティアとして関わり、その後広らボランティアとして関わり、その後広のボランティアとして代表的な組織
- 事長を長く務めた。 の活性化を目指し、横浜ボランティア協 会設立に設立委員長として関わり、理

織に深く関わりをもつ。 様々な分野で市民組織と公共、行政組また横浜市教育委員を務めるなど、

- (公財)横浜市国際交流協会理事長、横浜市国際交流協会理事、神奈川県青少年也ンター議会委員、横浜市勤労青少年センター議会委員、横浜市勤労青少年を開題協交流協会理事、神奈川県青少年問題協議会委員長、横浜市国際交流協会理事長、横浜市国際交流協会理事長、横
- ていた。

 でいた。

 でいた。
- 金里事長現在、(公財)かながわ生き活き市民基

若者生き活き大賞(キララ賞)三○周年を記念して

生活協同組合理事長 篠崎 みさ子生活クラブ神奈川

も新しい試みだったり、未来に残したいも活きと輝いています。活動は、視点も実践して問題に取り組んでいる姿、活動への思して問題に取り組んでいる姿、活動への思贈呈式で報告される受賞者の活動内容を

このような社会にこそ、未来の人々の暮

にしています。 にしています。

今、気候危機とコロナ感染拡大によって、生命の危機に直面しています。異常気象による豪雨や台風により被害は人々の命象による豪雨や台風により被害は人々の命格差貧困は拡大し続けています。人が集うことが自粛され、息苦しさを感じたり、マスクで表情が見えないなど特に乳幼児のコスクで表情が見えないなど特に乳幼児のコミュニケーションや成長に影響が出てくるのではと心配されています。



りをすすめることが必要です。 大切にする一人ひとりの居場所や地域づくやアソシエーションを生み出し命や自然をらしや社会に向けて、多様なネットワーク

キララ賞の受賞は、自治体への表敬訪問やこれまでの受賞者との交流、つながりがあることで、活動の認知度やネットワークの広がりにつながっていて、そのことも大きな意味があると思っています。互いに地域づくりの担い手として連携を強め、人々の暮らしをより良いものにすること、だれもが暮らしやすい地域づくりを共にすすめもが暮らしやすい地域づくりを共にすすめていきましょう。

キララ賞三○周年に寄せて 未来にむけて光り輝く若者たちを応援します

福祉クラブ生活協同組合 理事長 大場 英美

す。心よりお祝い申し上げます。 キララ賞三○周年おめでとうございま

様な活動を実践している姿は、みなさん楽 やりたいこと、できることを考えて多種多 姿勢は、私たちに感動と元気を与えてくれ てその活動の想いや情熱、真摯に取り組む しそうでキラキラと輝いて見えます。 そし に向き合い、さまざまな分野で自分たちが いがありました。若者たちが、社会の課題 活動する若者たちの発見とたくさんの出会 この三○年間を振り返ると、生き活きと

ちを応援します。

団体)で、「平和・環境・福祉・文化・国 近な地域を大切にし、新しい人とのつなが 際交流」などの分野で未来を切り開き、身 キララ賞は、神奈川県内の若者(個人・

> 域とのつながりや絆を深め、活動を拡げた だきました。キララ賞受賞を機に、更に地 準を設けています。毎年、福祉クラブ生協 りをつくりだす活動として、七つの選考基 活躍を期待しています。 の組合員も選考委員として関わらせていた

しょう 流や連携を深めながら、共に地域を豊かに の同じ地域で活動している若者たちとの交 て、大ぜいの市民でつくりかえていこうと ビスを創ること。そして社会の課題に対し に必要な「あったらいいな」と思う、物やサー 地域コミュニティを豊かにすることや地域 し、住みやすい街づくりをすすめていきま いう街づくり活動を行っています。神奈川 福祉クラブ生協の活動も、地域に根ざし、



ラブ生協は未来に向けて光り輝く若者た 継続して受け継がれていくよう、福祉ク 魅力ある若者を発見し、このキララ賞が てくれる活動だと思います。これからも もたちの未来にも希望と夢と勇気を与え 次世代を担う若者たちの活動は、

キララ賞について

キララ賞について

個人は二二件、計五〇件になりました。 おうう賞と副賞五〇万円を贈呈しています。 おを開催し、二件の団体もしくは個人にお おを開催し、二件の団体もしくは個人にお で 一〇二〇年度まで贈呈した団体は二八件、 一〇二〇年度まで贈呈した団体は二八件、 一〇二〇年度まで贈呈した団体は二八件、 一〇二〇年度まで贈呈した団体は二八件、 一次 で おいま がわ 若 者生き 活き 大賞)

キララ賞の名前の由来

ララ賞としたからです。 ま記Kanagawa Young Right Alternative Livelihood Awardにあります。この表記に ある単語の頭文字(KYRALA)をとって、キ

Award)を受賞したことです。ト・ライブリフッド賞(Right Livelihoodけは、一九八九年に生活クラブがライけは、一九八九年に生活クラブがライ

ついてライブリフッド賞に

う革新的な事業地 球 社会を 救ブリフッド賞は、

ライト・ライ

に取り組んでい



ことから「もうひとつのノーベル賞」とも呼にライト・ライブリフッド賞の授賞式が行われるにライト・ライブリフッド賞が授与されています。ノーベル賞の授賞式の直前にライト・ライブリフッド賞が授与されていませんだちを支援することを目的として、

えます。 えます。 えます。 えます。 えます。 で、全七三か国の一八六団体・個人を数にで、全七三か国の一八六団体・個人を数点で、全の目がにも、平和に関する取り組み、社会的公正・も、平和に関する取り組み、社会的公正・も、平和に関する取り組みを進める団体・個人にも賞が授与され、授与数は二〇二〇年時にも賞が授与され、授与数は二〇二〇年時にも賞が授与され、授与数は二〇二〇年時にも賞が授与され、授与数は二〇二〇年時にも賞が授与され、授与数は二〇二〇年時にも賞が授与され、授与数は二〇二〇年時にも賞が授与され、授与数は二〇二〇年時にも賞が授与され、授与数は二〇二〇年時にも賞が授与され、授与数は二〇二〇年時には、原子力に対しています。

リフッド賞が授与されました。の女性の参加が評価され、ライト・ライブ

キララ賞と三〇周年記念誌

三○周年記念誌を制作することになりました。この制作にあたって、生活クラブました。この制作にあたって、生活クラブました。取材活動では、二○二一年度からました。取材活動では、二○一一年度からました。取材活動では、二○一一年度からました。取材活動では、二○一一年度からました。では活動では、二○一一年度からました。この記念誌を通じて、各受賞者の活動・キララ賞受賞後の変化、そして活めに対する思いなどを共有していきます。

(事務局 田中勇輝)

贈呈大

若者が活躍できる地域社会にむけて キララ賞と私たちができること

オンライン参加併せて二〇〇名以上が参加し 賞三〇周年記念フォーラムを開催し、実参加 タナティブ生活館・スペースオルタで、キララ 二〇二二年二月一二日、 新横浜にあるオル

として記念フォーラムを実施する運びとなりま 二〇二二年二月にキララ賞三〇周年記念事業 スの感染拡大が深刻な状況であったことから、 に三〇周年を迎えましたが、新型コロナウイル キララ賞は一九九一年に創設し、二〇二〇年

るのかを考えることの二点でした。 が活躍できる地域社会に向けて市民に何ができ から①キララ賞の意義を再確認すること②若者 フォーラムの目的は、キララ賞受賞者の活動

式を開催しました。 フォーラムに先立ち、 第三一回キララ賞贈呈

贈呈式冒頭、二〇〇三年度受賞者の和太鼓

西野博之さんは川崎市で不登校や引きこもり

さないための居場所づくり」を実施しました。

て考えていきましょう。

たまりば理事長)による記念講演「誰も取り残

ある西野博之さん(NPO法人フリースペース

ト・関係づくり」について議論を行いました。

この議論をヒントとして、具体的にどのように

して若者を応援することができるのか、

ました。受賞者が受けたサポート、そして受賞

者が考える「活動する若者への望ましいサポー

元キララ賞運営委員の城田喜子さんが参加し

る西野博之さん、井上昌代さん、百崎佑さん、 けて」を実施しました。キララ賞受賞者であ ション「若者がもっと活躍できる地域社会にむ フォーマンスは大好評でした。 さんによる和太鼓・ダンスパフォーマンスを実施 昇龍さんと二〇一九年度の親切ダンスカンパニー しました。共演は初の試みで、迫力のあるパ

指して全国の学校で講演活動を行ったり、身体 さんにキララ賞を贈呈しました。 露木志奈さんは、気候変動問題の解決を目 二〇二一年度は露木志奈さん、Plant Pitty

た。キララ賞の取り組みや居場所づくりを進め

ていくにあたってぜひご一読ください。

次に過去の受賞者を交えたパネルディスカッ

苦労、キララ賞受賞後の活動の変化を通じて、 ました。西野さんの活動をはじめたきっかけ、 になった人々の居場所づくりを行ってこられ

キララ賞の価値を再発見できる記念講演でし

取り組んでいます。生活クラブ、福祉クラブ組 にやさしい化粧品を開発したりしています。 合員で継続して応援していきましょう。 減、食料自給率アップ、有機野菜の普及などに Plant Pitty さんは茅ヶ崎市でフードロス削 フォーラムでは、まず一九九七年度受賞者で



昇龍・親切ダンスカンパニーに



2021年度受賞者 中:露木さん 左:Plant Pitty 瀬尾さん 右:Plant Pitty 田中さん

フリースペースたまりば理事長一 九九七年度受賞者 川崎子ども夢パーク所長

西野 博之さん

「誰も取り残さない



活動をはじめたきっかけ

活動を始めるきっかけになったのは六歳のしゅんくんとの出会いでした。入学を楽のしゅんくんとの出会いでした。入学を楽のかった。「僕は一段目の階段をふみはずしたった。だから父さん母さんのように大人をやった。だから父さん母さんのように大人

きそこないになった」と責められ、姑からもが夫に相談したら「お前が甘やかすからでた。彼女は学校に行けませんでした。母親の無理心中に巻き込まれ、命を取り留め

「学校に行かないのは嫁が悪い。嫁の血が「学校に行かないのは嫁が悪い。嫁がるの血が汚れた」と暴言を浴び悪い。我が家の血が汚れた」と暴言を浴び悪い。我が家の血が汚れた」と暴言を浴びました。「彼女が殺されなくて本当によかった」と感じました。

学校に行けなくなったら、道がふさがれてしまうのか。「そんなわけない」と誰もが思うのに、自分の子どもが学校に行けなくなると、親は焦ってしまう。「学校にいけない子なんてダメだ」と言ってしまう。「学校にいけない子なんてダメだ」と言ってしまう。こういったことがあって、多摩川のほとりに六畳・四畳半のアあって、多摩川のほとりに六畳・四畳半のアあって、多摩川のほとりに大畳・四畳半のアあって、多摩川のほとりに大いでは、道がふさがれて

ぶ場をつくりました。

名づけ、一緒に生きていく場、学校以外で学

天井裏に自分たちの居場所を

ただ最初に来た子たちがやったことにはたで、よりしました。子どもたちは来る日もびっくりしました。子どもたちは来る日もびっくりしました。子どもたちからの「ほっとした「ここが私たちの居場所よ」と笑っている。「ここが私たちの居場所よ」と笑っている。「ない」という訴えをうけてアパートを借りたはい」という訴えをうけてアパートを借りたはがったのに、来てみると入り口に学習ワークや教科書が置いてある。子どもたちから



アパートでフリースペースたまりばを運営して いた当時の様子

の迷惑」なのかもしれない。 れた気がしました。「大人の良かれは子ども 先生と同じ」というメッセージを突きつけら いったのに、あんたがやろうとしているのは 「私たちはほっとできる居場所がほしいと

たりして過ごしていました。 ろうと決めて、多摩川で遊んだりゲームをし る環境、大きなお世話をやかない場所を作 そこで子どもたちがやりたいことをやれ



川でいかだ遊びをしている様子

開設後七年間にあった バッシングの嵐

ばせるなんてお前たちは何をやっているん 人が視察に来て「早く学校に戻すべき」「遊 そうしていると校長先生や教育委員会の

> ばいけなくなりました。 用する子どもたちは増えて移転すること だ」「だから民間は信頼できない」と最初の ます」と言われるなど、大変ヒステリックな になった時も、移転先で「不登校がうつる」、 七年間はバッシングの嵐だったんですね。利 反対署名運動にあい、移転先を変えなけれ 「地価が下がる」、「ここに来られたら困り

もいいし、父ちゃん母ちゃんにお金がある人 はじけて、お金がなくなっていく時代に入っ 保証金二〇〇万円の場所。しかもバブルが は開け続けることはできないと宣言して。 かに毎月三〇万円たまらなくなったら、ここ はたくさん入れてほしい。でもガラス瓶のな れ、たまりばに来られなくなることもあった わずにすんだのに。外に出て働け」と責めら から「お前が学校にいけば無駄な金を支払 した。ガラス瓶のなかに、たとえ一〇〇円で んです。だから会費制を任意会費制にしま ていた。不登校の子は年齢が高くなると親 新たに決まった移転先は家賃二三万円

ボランティア制度は廃止して、居場所が必 ランティアが増え、子どもたちはその人たち に気をつかって過ごしている。いっそのこと るんだから感謝されて当たり前」というボ にも悩みはじめました。「ここに来てあげて その時、「支援する・される」という関係

> り合おうという話になり、ならばスタッフも 要ならば、みんなでお金を出し合ってつく き続けました。 をしたり、肉屋で働いたりして居場所を開 決断をしました。その間、市場の場内配送 ということで、四年間無給にして、場を開く

キララ賞との出会い 活動の転機と

きっかけになったようです。 検予備校に行っていることがわかり、びっ みると、なんと利用者の九割が高校とか大 か、報告するよう求めてきました。調査して 者がどのくらい学校や社会に復帰している 点を変えて、「居場所に鍵がある」と考える くりしました。この結果を受け、行政は視 活動を始めてから七年目、行政が、利用

開いているってたいしたもんだけど、このま ただいたんですね 伝えてくれた。受賞して当時、一〇〇万円い らキララ賞に応募しておいてあげたわよ」と ま活動を続けられるかどうかわからないか 金がないし、給料ももらわないで居場所を ララ賞に応募してくれました。「あんたたち たんですね。一九九七年に知り合いの方がキ ちょうどこの時期にキララ賞をいだたい

川崎市子どもの権利条例づくりへ県知事への表敬訪問、そして、

でも本当の成果は県知事と川崎市長へのでも本当の成果は県知事がいきなり訪ねて来られてその時の様子を県の便りに書いて来られてその時の様子を県の便りに書いていけないことを民間の団体が子ども・若者いけないことを民間の団体が子ども・若者いけないことを民間の団体が子ども・若者いけない」という涙の出るような記事でしたね。

その後、県青少年課長や教育委員会、そして川崎市も訪ねてこられて、バッシングを受けていた状況は大きく変わりました。を受けていた状況は大きく変わりました。人として、不登校生徒や障がいのある子たちの声を代弁してほしい」といわれ、条例づくりに関わることになりました。そして全国初の総合条例としてつくられた条例の二七条に「子どもの居場所」という条文が入りました。

川崎市子ども夢パーク・えん子どもの声を聴いてつくった

論して決めたんですね。
には山とか池をつくろうよ」と議りしました。そこで「ここに木を植えようよ」とが「ここには山とか池をつくろうよ」と議りしました。そこで「ここに木を植えようよ」とが「ここには山とか池をつくろうよ」と議して決めたんですね。

しかも、パークの中に不登校児童生徒のしかも、パークの中に不登校児童生徒の しかも、パークの中に不登校児行けないで苦しるという考えのもと、学校に行けないで苦しるという考えのもと、学校に行けないで苦しるという考えのもと、学校に行けないで苦しるという考えのもと、学校に行けないで苦し



ことになりま

民営でつくる

川崎市が公設

した。その後教

育委員会の秀

対し 対し 対し 対し 対し かまりばが運 の居場所を、

託を受けてこ

使うようになりました。
使わず、「将来的社会的自立」という言葉をでは文部科学省も学校復帰という言葉をの政策を二○年先取りしていましたね。今のの策を二○年ののでの取り組みは、国

楽スタジオ、乳幼児スペースもあります。がっていても怒られないスペース「ごろり」、音他に、全天候型スポーツ広場やゴロゴロ寝っ転夢パークにはプレイパーク(冒険遊び場)の

キララ賞の受賞を契機に子ども夢パーク、キララ賞の受賞を契機に子ども夢パーク、 おったい という は異質・異年齢の障がいをもつ子、やんちゃは異質・異年齢の障がいをもつ子、やんちゃは異質・異年齢の障がいをもつ子、やんちゃは異質・異年齢の障がいをもつ子、やんちゃは異質・異年齢の障がいる。

遊んで育つことの大切さ

す。「感情のコントロールができる」「困難からカラ、人間として生きていく力を育むものでれている「非認知能力」、数値化されないチのなかで育ちます。特に遊びは最近注目さ「ケアされて育つ」、この三つの輪のつながり

立ち上がる」「人とうまく関わる」力は教科立ち上がる」「人とうまく関わる」力は教外でもいつの間にか子どもたちの時間が削らでもいつの間にか子どもたちの時間が削られています。やりたいことよりもやらねばならないことが優先される社会、やってみたいということに挑戦できる環境を子どもたちが類さを出せない、安心して失敗できない、挑戦すら諦めてしまう、そんな社会になっている。だから安心して失敗できるような環境をつくることを大切にしています。

大切にしてきた取り組み

僕らが大事にしてきたのは自己肯定感を育むことです。「To do」よりも「To be」。「生育むことです。「To do」よりも「To be」。「生きれてきてくれてありがとう」を届けること。それが届かないから、毎月四〇名近い子と。それが届かないから、毎月四〇名近い子で「生きているだけでOK」を伝えることが大切です。

にできない自分を許すことができず、生きづえ方をする人が少なくないんですね。完璧

もいいんだよ」と伝えています。らくなっている。でも「できないことがあって

やってきたことはシンプルです。活動をはじめて三一年間、毎日お昼ご飯を作って食じめて三一年間、毎日お昼ご飯を作って食メンバーでメニューを決めてごはんをつくる。メンバーでメニューを決めてごはんをつくる。り、つくってくれた人に「ありがとう」の声があうんですね。ひとりではないことを感じたり、つくってくれた人に「ありがとう」の声がとびかったりして子どもたちが元気になってきます。

不登校とかひきこもりとみなされると、不登校とかひきこもりとみなされると、子どもたちは支援目標を決められて、「こういうふうにがんばりましょう」と言われたりします。また「かわいそうなあなたを救ってしたがる大人がいます。でも子どもたちはその「支援臭」をかぎ取り、逃げていきます。大の「支援臭」をかぎ取り、逃げていきます。大の「支援臭」をかぎ取り、逃げていきます。大の「支援臭」をかぎ取り、逃げていきる中間や空間です。

きる、楽器演奏・歌・ダンス・お芝居・科学実の一方で、子どもたちが自分で選んで参加での一方で、子どもたちが自分で選んで参加でか求められています。「何もしない」というこが保障されることを大事にしています。そ

を応援してくれています。おって、子どもたちに寄り添い、様々な学びわって、子どもたちに寄り添い、様々な学びいます。ここに学生ボランティアが加験などの講座、そして個別の学習支援を用

そして「誰かが誰かを放っておかない、気にかける」インクルーシブな場づくりも心がにかける」インクルーシブな場づくりも心がけています。筋ジストロフィーの子が車いすのけています。筋ジストロフィーの子が車いすのはってあげる。その時、「ありがとう」が交わされる。これだけでお互いが嬉しく、助けてされる。これだけでお互いが嬉しく、助けてされる。これだけでお互いが嬉しく、助けてされる。で、役に立ったと思い、つながりあうことができる。食事の介助をして、いろんな子とができる。食事の介助をして、いろんな子が交じりあって過ごすことが豊かなことなんだと思います。

大切にする教育へ子どもたちの自己肯定感を

のいろんな場所を塗り始めたんです。そのれて学校に行けなくなった子がいました。この子はいつも怒られて、怖い顔をしていた人の顔しか見ていなかった。その子がの子はいつも怒られて、怖い顔をしている大人の顔しが見て、学校不適用児」扱いをさ多動が原因で「学校不適用児」扱いをさ

の教育において大事なことだと思います。 びと育ちを保証する環境づくりが次世代 その子の背景やニーズに合わせた多様な学 人ひとりの得意なことに光をあてること、 下げることばっかりするのか。子どもたち きない子を問題児扱いして、自己肯定感を こそが課題です。なぜみんな同じことがで ひとりの子どもに適応できない学校教育 れたというのは本当に失礼な話です。一人 になったのですが、「学校不適応児」扱いさ 情緒が安定して、高校から学校に行くこと んなからニコニコ話しかけられて、この子は れるんじゃない?」と伝えるほどでした。み 方、おもしろいねぇ。将来アーティストにな と大人の目も変わっていく。「その色の使い 手渡すと、意気揚々と色を塗るんです。する かもしれない」と気づきました。板切れを 時、僕らは「この子は色に関心をもっている

今後目指していきたいこと

とする医学モデルではなく、その子らしくとつ」と言われました。「この人を治そう」部科学大臣から「未来の学校のモデルのひ私たちの取り組みは、視察に来られた文

生きられるように「社会や環境を変えよう」とする社会モデルの視点が大切です。たとえば、車いすの人に階段を上れるように努力させるのではなく、その方が社会に参与できるようにエレベーターがある社会へと変わることでもあります。誰も取り残へと変わることでもあります。誰も取り残へと変わることでもあります。これでいることが気付きをもたらし、人と人とをつなぐと思います。

る」では、必要な人に必要な食料を届けるところにある「コミュニティスペース えんくちが増えてきました。夢パークから一五分の課題となり、ご飯を食べられない子どもた課題となり、ご飯を食べられない子どもた



コミュニティスペースえんくるの様子

スードパントリーや、子どもはジュース一杯 大、フードパントリーや、子どもはジュース一杯 でジュースを出したり、子どもたちの宿題 でジュースを出したり、子どもたちの宿題 でジュースを出したり、子どもたちの宿題 でジュースを出したり、子どもたちの宿題 でジュースを出したり、子どもたちの宿題 やゲーム、話し相手になってくれています。 また、生活保護・ひとり親家庭の中学生に 向けた無料学習会に学生たちが有償ボランティアで参加してくれています。そしてい つの間にか、元不登校だったメンバーが五 人、今たまりばで働いています。

労働者協同組合法によって、その人に 労働者協同組合法によって、その人に 若者たちと話し合って、労協法を活かした 若者たちと話し合って、労協法を活かした さまざまな取り組みを提案していきたい さる豊かな地域社会を目指していきたいきる豊かな地域社会を目指していきたいきる豊かな地域社会を目指していきたいきる豊かな地域社会を目指していきたい きる豊かな地域社会を目指していきたい きる豊かな地域社会を目指していきたい できる。支え合ってつながり合う、共に生 と思っています。行政に理解されず、七年間に及ぶ厳しいバッシングの時代にキララ賞に及ぶ厳しいバッシングの時代にキララ賞に及ぶ厳しいバッシングの時代にキララ賞と思っています。その人に 労働者協同組合法によって、その人に 対側者 協同組合法によって、その人に 対側者 協同組合法によって、その人に

バネルディスカッション

岩者が活躍できる地域社会にむけて」



1997年度キララ賞受賞者

西野 博之さん

NPO 法人フリースペースたまりばで不登校に なった子どもたちの居場所づくり、「川崎市子 どもの権利に関する条例」の制定(2000年)、「川 崎市子ども夢パーク」の設立(2003年)に取 り組む。

2006年度キララ賞受賞者 井上 昌代さん

神奈川県の二宮町で、有機農園つ・む・ぎを 開園し、有機農業を取り組む。この農園で収 穫した野菜につ・む・ぎ通信を添えて近隣地 域に自ら届け、地産地消・地域循環型コミュ ニティづくりに取り組む。



2020年度キララ賞受賞者

百崎 佑さん

NPO法人ミニシティ・プラス会員。子どもた ちが子どもたちだけで自分たちの町づくりを 行う「ミニヨコハマシティ」の取り組みを実 践し、子どもたちの中に市民自治の感性をひ ろげることに貢献してきた。その後コーヒー 業界へ就職、コーヒーを通じたコミュニティ づくりも行う2019年には横浜コーヒーフェス ティバルを開催(記事:90-93ページ)。



元キララ賞運営・選考副委員長 城田 喜子さん

かながわ生き活き市民基金副理事長。社会や 地域の課題解決や地域活性化などの活動を 推進する団体とそういった団体を支援したい 市民をつなげる活動をすすめる。



印象的なサポート、

あったらよかったと思うサポート

うなことがあったら教えてください。 こういったサポートがあったらよかったと思うよい象に残っていることはありますか。また、逆にました。その過程で受けてきたサポートの中でました。その過程で受けてきたサポートの中で

百崎 ミニシティ・プラスの活動に子どもの頃から参加していましたが、活動にかかるお金についいち、周りの大人たちが助成金を集めたり、支援者を集めたりしているのを見て、こういった地援者を集めたりしているのを見て、こういった地援者を集めたりといるのを見て、こういった地方なサポートによって活動が成り立っていることを知りました。がんばってくれる大人がいたので自分でプロジェクトをすすめるのには抵抗があり自分でプロジェクトをすすめるのには抵抗があり自分でプロジェクトをすすめるのには抵抗があり自分でした。

のサポートが足りない現状があると思います。かれた一般的な状況を考えてみたとき、若者が「こういう活動をしたい」「こういうイベントをかれた一般的な状況を考えてみたとき、若者があったらよかったサポートについて、若者が置

れに活動実績を記載しなければいけなかったりな、若者が一人で制度を利用することも難しいです。若者が使いやすい制度だったり、お金のサポートがあったり、若者が活動する上でノウハウを教えてくれるコミュニティがあったらいいと思いを教えてくれるコミュニティがあったらいいと思いればいけなかったり

制度があったとしても申請書類を書いたり、そ

城田 地域にはそれぞれに得意分野を持ってい が若者をサポートしてくれることがあったらいい がおるとがたくさん暮らしてます。そういった人

西野 たまりばが活動し始めたとき、地域の人に呼んでくれて人のつながりが広がっていきました。それをきっかけに市民が僕たちの活動の助た。それをきっかけに市民が僕たちの活動の助た。それをきっかけに市民が僕たちの活動の助た。それをきっかけに市民がでためです。大って「学校に行けなかったらこういうところがあるよ」とたまりばをいろんな人に伝えてくれたんです。僕たちの活動をポジティブに受け止めたんです。僕たちの活動をポジティブに受け止めたんです。僕たちの活動をポジティブに受け止めたんです。僕たちの活動をポジティブに受け止めたんです。僕たちの活動をポジティブに受け止めたんです。

井上 私は、つ・む・ぎで作った野菜を食べてくださる方々の共感とボランティアに支えてもらってきました。三・一の放射能汚染以後、食らってきました。三・一の放射能汚染以後、食ください」とつ・む・ぎ通信に書いて販売を継続すると、いろんな人たちが口コミで私の野菜を勧めてくださったんです。そのおかげで利用者の数は震災前の水準に戻ってきました。感謝しかありません。農地を貸してくれる地域の地主の方も私の取り組みを理解して農地を無償で貸してくれました。

城田 地道に活動を続けていることはありま添って応援してくれる人たちが出てくることは素晴らしいことですよね。たまりばでも活動が素晴らしいことですよね。たまりばでも活動があると思います。印象に残っていると、活動に寄りすか。

てもらうようになりました。活動していくたび居やダンスの披露にスペース・オルタを使わせりでした。活動をきっかけに、子どもたちの芝動でした。活動を続ける過程は本当に出会いばか

るときに参考にしていたりしたんですよ。 二○二一年度受賞者の露木志奈さん、Plant 下まニシティヨコハマのモデルであるドイツ・バイエ たミニシティヨコハマのモデルであるドイツ・バイエ たミニシティヨコハマのモデルであるドイツ・バイエ たミニシティヨコハマのモデルであるドイツ・バイエ ルンでのミニシティの取り組みを、夢パークをつく ないときに参考にしていたりしたんですよ。

城田 地域で活動している人たちをつなげていくことができたらいいですよね。活動が点ではなくつながりをもっていくと地域がより豊かになっ合員はネットワークづくりを得意としていると思うので、さらにキララ賞の活動と連携させていければ素敵だと思います。

市民にできること

城田 最後にこれからの若者へ、ひと言メッセー

百崎 活動を始めるうえで誰かに頼ることを難

いいなと思っています。と思うことしく感じて、「自分で調べてやろう」と思うことも多いと思うんですが、周りの人に相談してみると手伝ってくれる人がいます。僕はこれからもると手伝ってくれる人がいます。僕はこれからも

井上 オンライン社会になってリアルのコミュニティやコミュニケーションが失われていると思います。ただそんな状況でも畑をやっていると小中高生があいさつしてくれたり、近所の方が「何をつくっているの?」と声をかけてくれたりすると「私はここで受け入れられている」こと「ここで畑をはここで受け入れられている」こと「ここで畑をしていていいんだな」と感じますし、がんばりたいと思います。近所付き合いは面倒だと感じることもあると思いますが、ちょっとしたコミュニケーションがお互いに「そこにいていいんだよ」と自己肯定感を感じられる関係性につながると思います。そういったことを大切にしてほしいです。

一人ひとりにあった働き方、例えば一日二時間と思います。労働者協同組合法ができることで、い日本社会をどうしていくのかが問われている西野 今、自己肯定感や精神的な満足度が低

につながると思います。る。これは従来の働く枠組みを崩していくことが難しいとされている人も働くことが可能になしか働けない人やこだわりが強くて人と働くの

暖化を止めるために大人たちは動いているのか 展していくことを楽しみにしています います。若者たちの声をしっかり受け止められ す。むしろ若者の声をしっかり聴ける大人にな 思えない日本社会の中で、私たち大人が何を取 当に変えようとしているのか。自殺者をたくさ のではないでしょうか。私たち大人は社会を本 できる大人でいられるのかどうかが問われている 環境活動家として日本中を周っている。大人は と本気で訴えています。そして露木志奈さんは る社会づくりにむけて、キララ賞がますます発 ること。子どもが意見をしっかり出せる社会に り残しているのかを考える必要があると思いま ん出してしまう、子どもたちが生きていたいと います。逆に若者のメッセージを受けとることが 彼女たちの生き方から学ばないといけないと思 の問題で活躍しているグレタさんは「本当に温 つけられていると思います。例えば、気候変動 これからの若者へのメッセージということです それを聴ける大人であることが大切だと思 大人は若者にメッセージを送れるのか、

受賞者インタビュー

2011~2020年度

□○周年記念誌編纂委員が、 三○周年記念誌編纂委員が、 三○周年記念誌編纂委員が、

高城 芳之さん

まちにたくさんの主人公を! 大学生と地域をつなぐ架け橋となる

NPO法人アクションポート横浜の代表理 活動を経て、現在、横浜市に拠点をおく 体、企業とのプロジェクトなどさまざまな タートした高城さん。 立場から、学生と地域をつなぐ活動をス ながりができたことをきっかけに、 大学祭で横浜市戸塚区の活動団体とつ NPOや地域の団

さい。

入学して大学祭の実行委員になりまし

そこで「何でもやっていいよ、

あなた

事として活動を続けておられます

「コロナ禍で、学生たちは人とのつなが

活動を始めたきっかけを教えてくだ



高城 芳之さん

贈呈当時の活動

ということをあまり考えてこなかったこと ても楽しくて。それまで「自分がこうしたい

に気づいたんです

現してみて、

いろんな人の話をきくのがと

ごく新鮮で、思ったことや感じたことを表 はどうしたい?」と言われたことが当時す

い」という高城さんにお話を伺いました。 NPO双方との関係を築き、力になりた す。つながりづくりを行いながら、学生 りや実践的な学びの場を奪われていま

学生時代、大学祭の実行委員をきっかけに地域に出会い、 その魅力に気づきます。地域に興味を持つ若者がたくさ んいる一方で、若者が地域に定着していないことに課題 を感じ、若者と地域とをつなぐ活動を始めました。卒業 後も NPO の世界に飛び込み、何かしたいと思っている 社会人や学生向けに NPO や地域の活動に関わるきっか けを作る「YOKOHAMA ACTION PLANNNER (YAP) | を立ち上げるなど、若者が地域で活動する多様な場づく りに取り組んでいます。2009年から NPO 法人アクショ ンポート横浜の事務局長、2018年から代表理事。

贈呈理由

学生時代から地域と学生のつながりに注 目し、人と人とを繋ぐことを重視して活動 されています。「つなぐ」ことは、地味で すがとても大事な活動です。若者の立場 でそこに気付き継続的に取り組み、地域 のニーズと社会人になっても地域の役に 立ちたいという若者をコーディネートする 中間支援的な新しい取り組みをふまえ、 キララ賞を贈呈しました。

子が多く、 いに楽しくやってました。 大学の友だちも来てくれて、サークルみた と聞いて、休日に遊びに行ってたんです。 個別級の子たちは、学区外から越境する 級とつながってその先生と出会いました。 大学祭の関係で戸塚中学校の個別支援 地域に友だちがあまりいない

あるならうちにも来てほしい」と要望を そうすると「障がいをもつ子に興味が



(第3回の様子) キララ賞をきっかけに創設した横浜アクション

くるのですか? 人をつなぐアイデアはご自分から出て

れて。 とか言ってもらって若者は特別扱いしてく いろ教えてもらいました。「よく来たな く通ってて、そこのスタッフさんたちにいろ 当時はケアプラザや社会福祉協議会によ

-小さい頃からを振り返って、今につな

がることはありますか?

と考えていました。一年生が多いからこん くて。だから一年生から六年生までどうし カーを始めちゃうと全員がやらざるを得な 校庭がすごく狭かったんです。一人がサッ るにはどうしたらいいか、とか当時から話 なハンディをつけようとか、 たら楽しめるかを、そこにいるみんなでずっ し合ってましたね。 小学校で校庭開放をしていたのですが、 女の子が楽しめ

うまくつながらないとわかりました。ま

つながったでしょ」ってそんな形では

うことになって仲良くなる交流会をしまし ず人間関係をつくらなきゃだめだ、とい ど最初は大失敗でした。ただ会わせて「ハ

を集めてマッチングする会をしたんですけ

ニーズがあるならと、地域の団体と学生

たくさんいただくようになって。そんなに

業を広げていますね。心がけていることは ありますか? ―受賞当時よりNPOインターンシップ事

塚にあった市民活動センター戸塚プラザのス 塚でもう少し活動したいと思って、当時戸 くてもっと勉強したい、できるならこの戸 を知りました。人をつなぐことも奥が深

そのご縁でNPOという仕事があること

ンターの本部スタッフになったのが二〇〇六 タッフになりました。その後、市民活動セ

とのつながりが深いNPO法人を選ぶこと 地域に学生が居着いてくれるようその地域 やる気を引き出すきっかけになるんです。 を心がけています。 実施しています。単位になるので、 横浜にある一一大学でインターンシップを

とをしているのですか? ―NPO法人との関わりはどのようなこ

若手をどう巻き込むかというワークショッ 近いところですと、今はWE21さんと、

時に相談にのったりします。でその団体の性質が見えてくるので、そのつくっています。学生の受け入れをする中会を行って団体どうしが仲良くなる機会もプをしています。受け入れ団体向けの研修

若い頃からの悩みなんですけど、NPO 若い頃からの悩みなんですけど、NPO をなかなか言いづらい。でも若者を送りこ となかなか言いづらい。でも若者を送りこ となかなか言いが若いことが強みなので、 そこを切り口に関係性をつくって、いろい そこを切り口に関係性をでくって、いろい を支援の形だと思っています。

キララ賞受賞は影響がありましたか?

受賞当時、すごく嬉しかったです。市長ではたことは嬉しかったですね。やめそびた。実は受賞の一年くらい前、結構しんどくてやめようと思ってたんです。旅に出たりして。そんな時期だったので励みになりりして。人をつなぐ活動というのはなかなました。人をつなぐ活動というのはなかなだけたことは嬉しかったです。市長では、

*すか? ―高城さんご自身が影響を受けた人はい

やはり戸塚で関わった方々です。活動やはり戸塚で関わった方々です。活動はいてもらったことがすごく助けられました。今もその人たちとつながってお仕事できていることがすごとのながってお仕事できていることがすごく嬉しいですね。

実はキララ賞に感銘を受けまして、自分で賞をつくっちゃったんですよ。「横浜アクションアワード」と言いまして、地域と学生が連携している事例を表彰しています。今年で三回目ですが、学生は代わっていくので活動を続けていくのが難しい。そこを支援しようと思っています。受賞団体の発表をしようと思っています。受賞団体の発表を間いた参加者たちが寄付するしくみと、キララ賞では行政への表敬訪問など、本来行けないところに行けることが受賞者の強みだなと思ったので、企業や学校にお願いしてプライスレスな支援を受賞特典としています。将来、ここからキララ賞受賞者が出ます。将来、ここからキララ賞受賞者が出ます。将来、ここからキララ賞受賞者が出ます。

言葉はありますか?―高城さんが、特に伝えようとしている

活動していこうじゃなくて「関係性をつながる関係の略で「ツナカン」なんですけど、インターンシップのキャッチコピーが、つな

は活動もつながる。関係性がつながっていれよく言っています。関係性がつながっていれよく言っています。で、言いたいことを言える、そういった関係づくりを大事にしています。そこからセーフティネットとか細やかな話ができたり、ボランティアに「来る、来ない」じゃなくて「困ってる時は助けてよ」と言えるといいなと思います。

すか?──年経って変化はありま

思いはあまり変わりませんが、学生との関わり方は変わりました。一〇年前は年が近かったのですが、今は三人の学生スタッフが僕の言葉を伝えてくれます。その学生スタッフの面倒は、卒業した子たちがそのスキルれています。卒業した子たちがそのスキルを活かしてNPOに関わることができる活を活かしてNPOに関わることができる活動も立ち上げています。

できますか? ―一〇年前にもしやめていたら…。 想像

支えてもらったりしたからなんですね。一きたのは、いろんな人に教えてもらったり想像はできませんが、僕がこの仕事がで

つひとつにストーリーがあるというか。



学生スタッフの皆さんと

このアワードでケア

緒につなぐ活動を

には、 プラザさんや社協さんに、 に増やしたいです。 具体的 したいと思える人を地域

サポートいただけるよう コーディネーターを広げら 地域に住む若い人たちを れたらなと思っています。

る力も、 ポートのNPO法人を担当していて、そこ コンひとつとっても、 けなので。代えがたいキャリアだなと思い なと思ったことを、 で鍛えられました。 地域の人の話を聞いて自分がいい 今、 人をコーディネートす 新卒の頃にパソコンサ 学生にしているだ

取り組みたいことは何ですか?

手を増やすのはコーディネートする活動が コーディネーター仲間を増やしていきたい 町に若者を増やすとか、 いのでそこを高めたいです なか認知度が高まっていな 大事なんですけど、なか 地域の担

団体からのお知らせ

● NPO インターンシッププログラムの運営 維持のための寄付を募集しています。 地域の担い手不足や高齢化が課題とな る中、若者の地域参加の一歩を作るべく、 若者と地域団体のマッチング事業をおこ なっています。活動を維持すべくぜひ応 援してください。

詳細は WEB サイトより https://intern.actionport-yokohama. org/

●アクションポート横浜の会員となって、 若者の地域参加を応援してください。 僕らが目指すのはキララ賞に選ばれるよ うな若者を発掘・育成することです。人 材育成なので持続可能な運営が必要で すが、資金獲得は難しく、寄付や会費 にて運営をしています。ぜひとも会員に なり、活動を継続的に応援してください。 http://actionport-yokohama.org/ about/support.html

ワードの受賞団体が、一緒に取材した原さんの地元 が私の子どもの母校であったり、横浜アクションア すが、それさえ「話すきっかけができて嬉しいこと」 団体であったり、思いがけないつながりが嬉しいイ て地域の協力団体へお詫びをすることもあるそうで 大きな要素であるように感じました。 と笑う高城さんの魅力ある人柄が、人と人をつなぐ ノタビューでした。 学生の支援中には、学生に代わっ 高城さんが活動を始めるきっかけとなった中学校

をさらに広げていってもらいたいと思いました。 をおくことをよしとするコロナ禍を乗り越え、活動 さんに大変お世話になっているそうです。

人と距離

のこと。お子さんができた今は子育て支援団体の皆

意外にも学生時代から、

お住まいはずっと東京と

NPO 法人アクションポート横浜

〒 231-0023

横浜市中区山下町94横浜中華街パーキング内

TEL 045-662-4395

FAX 045-662-4395

HP http://actionport-yokohama.org/

代表理事:高城 芳之



石井 利衣子さん

生き方を見つける自分にフィットするほっとする居場所で

京急横須賀中央駅から歩いて一二分。 京急横須賀中央駅から歩いて一二分。 京急横須賀中央駅から歩いて一二分。 京急横須賀中央駅から歩いて一二分。 おしたり、勉強したり、商店街で社会と いっしたり、勉強したり、商店街で社会がしたり、勉強したり、商店街で社会 かいきこもりの子どもたちが通い、ゆっ 京急横須賀中央駅から歩いて一二分。

けを教えてください。 知り、活動に関わるようになったきっか一石井さんがアンガージュマンよこすかを

屋の話を聞いた時、 きたい、 社会復帰を焦る気持ちはあまりなく、 ひきこもりの期間が長かったこともあって、 頃から本が好きだったので魅力的でした。 ていたのですが、そこで就労支援事業とし みたい」と感じ、就労支援を利用するとい かに関わろうかな」と思っていました。 て本屋を開くことを知りました。 私も不登校・ひきこもりで居場所に通 社会と関わりたいと思ったら、 「本屋だったら、 働いて 小さい 働 何



思いを語る石井利衣子さん

贈呈当時の活動

所の在り方について伺いました。

ンよこすかでの活動、

子どもたちの居場

験をもつ石井利衣子さん。 アンガージュマ

アンガージュマンよこすかで事務局長を

かつて自身もひきこもりだった経

石井さんは自身も不登校になった当事者として、不登校と社会的 ひきこもりの子ども・若者の社会参加を進める NPO 法人「アンガージュマン・よこすか」と出会いました。この法人の就労支援店舗「はるかぜ書店」の立ち上げから利用者として従事し、その後スタッフとして子ども・若者を支援する活動を始めました。2011 年度より、「アンガージュマン・よこすか」の事務局長に就任。書店販売の店長もしています。モットーは「無理せず、自由に」です。

贈呈理由

自らのひきこもり体験を生かして、ひきこもりの若者たちを支援していること、不登校・引きこもりの若者に当事者として寄り添い、そして一歩先を歩く石井さんの姿は、現代の若者たちの生き方の1つのモデルになることをふまえ、キララ賞を贈呈しました。



書店の中に居場所がつくられている

とがよかった。 とっても、社会と関わろうと思えるタイミ もりになった人にとっても、 ればよいか、わからない。だからひきこ という話ではありません。本人もどうす その状態が解決したり、改善したりする きるのか」と聞かれることがよくありま ングを待つ力が大切だと思います。 す。しかし、周囲の大人が環境を整えれば たらひきこもりの状態を変えることがで その子の周囲にいる大人から「なにをし 自分自身に対して待つことができたこ 周囲の大人に 。私の場

思います。 ていることにつながっているんじゃないかと がなかったことがこの場所で活動を継続し から変わらないといけない」といった焦り することになったんです。「ひきこもり状態 うかたちでアンガージュマンよこすかを訪問

感覚があります。 と開き、今の活動へ自然とつながっていった 自分が好きな本と携わることで心がすっ

の気持ちが整うのを待つことが大切なん せたりする話をよく聞きます。でも本人 無理やり学校に行かせたり、社会復帰さ 不登校・ひきこもりになった子どもを

> います。 に良い方向へつながったのではないかと思って が当時から強くありました。それが結果的 もうまくいかないのではないか」という思い ただされたこともありました。ただ私は「ひ り」という言葉が社会で登場したばかりで ら追い立てられるように社会に出たとして きこもりになった人が家族や周囲の人々か 「これからどうするつもりなのか」と問い した。私の親も理解があったわけではなく、 私がひきこもりになった時、「ひきこも

りますか。 先生との関わりで印象的だったことはあ **-不登校・ひきこもりのご家族、** 学校の

けです。その気持ちをなおざりにして、 という思いがあってその場所を離れているわ 楽しく生活したいけど、うまくいかない_ になった子には「学校に行きたいけど行け でもあります。実際、不登校・ひきこもり の気持ちがないがしろにされるということ ことが二つあります。一つ目は子どもが学 るというのは、学校に行きたくない子ども 剰に不安になることです。過剰に不安にな 校に行かなくなることによってご家族が過 ない」という子が多いんですね。「みんなと ご家族との関わりの中で印象に残っている

問題だと思います。 族が「学校に行けばよいのだ」と思うのは

二つ目は「人に迷惑をかけてはいけない」という規範に縛られていることです。「子育という規範に縛られていることが多いよう心理的に難しい状況にあることが多いように感じます。学校の先生たちも「子どもたちを社会に送り出すのが責任だ」というプレッシャーにさらされ、子どもたちを無理に学校に復帰させることもあるようです。こういった現状に対して学校に地域の大人たちが入り、子どもたちの居場所をつくるような仕組みがあると先生たちの負担も少なくなるし、子どもたちの心もすっとも少なくなるし、子どもたちの心もすっとも少なくなるし、子どもたちの心もすっと楽になるのではないかと思います。

ここにくる子どもたちに対しては「学校なんて行かなくても大人になれるよ」、「自分が行きたいと思うときに行ける場所があれば行けばいいよ」と伝えています。家族や先生以外の人たちからのさまざまな意見にふれること、そのためにも家庭や学校できれば、子どもたちも自分でしっかりができれば、子どもたちも自分でしっかりができれば、子どもたちも自分でしっかりずできれば、子どもたちも自分でしっかりずできれば、子どもたちも自分でしっかりないできるからです。逆に、家庭や学校で同じような意見にさらされることができれば、子どもたちにとってもつらいことです。

るのでしょうか。 に来る方々はどのように社会参加をされも意味します。アンガージュマンよこすかーアンガージュマンよこすか

ことが大切だと思います。たとえば、私も きなように過ごすから、みんなも好きなよ ことがあります。こうすることで「私も好 たちに伝えて、フリースペースで仮眠を取る 眠くなったら「眠いから寝るね」と子ども に来て、働いているスタッフもゆったりする こういった場では、アンガージュマンよこすか 習支援には大学生ボランティアも来てくれ 軽にそうできるようになります。 うに過ごしてね」と伝え、子どもたちも気 て、子どもたちが一緒に勉強しています。 たりできる場づくりを心がけています。学 ます。居場所はここに来た子どもたちがゆっ くり、学習支援、就労支援などを行ってい アンガージュマンよこすかでは、 居場所づ

商店街の方々との関わりがあることも活めてて、「いろいろな子どもたちがいるかけではとの商店街の企画のお手伝いをしたりしています。この商店街の企画のお手伝いをしたりしています。この商店街の全画のお手伝いをしたりしています。この商店街の方々は「この子たちがいる」というわけでは不登校の子たちだから」というわけでは、本では、いるからな子どもたちがいるかなくて、「いろいろな子どもたちがいるかなくて、「いろいろな子どもたちがいるかなくて、「いろいろな子どもたちがいるかなくて、「いろいろな子どもたちがいるかなくて、「いろいろな子どもたちがいるかなくて、「いろいろな子どもたちがいるかなくて、「いろいろな子どもたちがいるかなくて、「いろいろな子どもたちがいるからない。」

自然に関わることができます。子どもたち自然に関わることができます。子どもたち自分が「不登校の子」として扱われないこと、良い意味でそんなことを気にしない近所の人々とのつながりによって心がほっとする側面もあります。大人が「支援する」という立ち位置になってしまうと子どもたちは「支援される」関係になってしまいます。商店街の人たちは日常的にいろんな人と関わっていると、さりげなくフォローしてくれる。のも慣れています。私たちが何かに手間取っていると、さりげなくフォローしてくれる。そういった商店街の雰囲気は、子どもたちと

をどのような場所としていきたいですか。た。石井さんはアンガージュマンよこすか―キララ賞受賞から一○年が経ちまし

ここを利用する方やスタッフも含めて、ここを利用する方やスタッフも含めて、ここを利用する方やスタッフも含めて、ここを利用する方やスタッフも含めて、ここを利用する方やスタッフも含めて、ここを利用する方やスタッフも含めて、ことですっていきたいですね。

ばに居てくれることがどんなに さんのように理解してくれる方がそ

有難

いことだろうかと思いました。

(加藤恭子)

のような居場所がどこの町にも

あれ

ばいいのに…と思います。

そして石井

攻していたことがこの名前の背景に ルトルがよく使った言葉でもありま あるようです。 で社会参加、 トン engagement」 感しました。 での社会参加の取り組みに心から共 くることが大切であること、 ひきこもりになった方への対応につ 創設者の方がフランス文学を専 本人が自分で考える時間をつ ちなみに「アンガージュ 参与なども意味し、 は、 フランス語 商店街 サ

とがとてもいいなと思いました。 で地域にごく普通に存在しているこ この場所が本屋さんというかたち

事務所にはキララ賞の賞状が

認定特定非営利活動法人 アンガージュマン・よこすか

〒 238-0017 神奈川県横須賀市上町 2-4 TEL 046-801-7881

HP http://npoey.com/

事務局長:石井 利衣子



団体からのお知らせ

不登校・ひきこもりの子ども・若者が自分らしい生き方で社会参加す ることを目的に、居場所・学習支援・就労支援・個別相談の各事業 と就労支援店舗「はるかぜ書店」を運営しています。また、生活保 護受給世帯の学習支援も行っています。

オンライン書店で本を購入して「はるかぜ書店」の運営に ご協力下さい。全国どこでもご利用頂けます。

「e-hon はるかぜ書店 | で検索!

また、Amazon にてほしいものリストを公開しています。 フリースペースや学習支援で使用する物品の寄付にご協力下さい。



藤田 靖正さん

めざし そして地域の当たり前の顔になることを と福祉を結び地域につながる、

て鶏小屋などもあります。住宅街の一角の坂の途中に小さな平屋が現れます。そこがNPO法人さんわーくかぐやです。 食べたり、お話ししたりする空間があり、 屋に入ると利用者のみなさんがごはんを 屋べたり、お話ししたりする空間があり、 屋でたり、お話ししたりする空間があり、 不屋を抜けて奥のほうに行くと創作活動 を行うアトリエや、段々畑、竹林、そし を行うアトリエや、段々畑、竹林、そし を行うアトリエや、段々畑、竹林、そし

品が数十万から数百万円で売れたこともされていたそうですね。
一○代のころから木彫家をめざし、二○一○代のころから木彫家をめざし、二○本にのたるうですね。

囲気につつまれています。 アート活動と福

とは思えないほど、自然豊かな温かい雰

祉を結び付けて活動している藤田靖正さ

んにお話を伺いました。



活動の経緯を語る藤田靖正さん

贈呈当時の活動

障がいを持つ方と一緒にアートを通じて新しい社会づくりを行っています。「オリジナルを楽しむ」「個性を楽しむ」「想像するところから生きる楽しみを生み出したい」そんな思いを持ち、農作業、食品加工、竹林活用、生き物飼育、料理、創作活動など様々な活動を障がいのあるなしにかかわらず、皆で一緒に行っていることが特徴です。活動を通じて地域でのコミュニケーションを図り、地域にいるアーティストと地元商店街を繋げる活動を生み出しています。

贈呈理由

障がいのあるなしにかかわらず、活動に 集う人々がアートを通じて自分の生き方を みつけ、地域とのつながりをつくる活動を 展開していること、成果や効率重視の資 本主義とは違い、芸術活動や様々なもの をみんなで手作りするなど「人間本来の 生き方」ができる空間を創出していること をふまえ、キララ賞を贈呈しました。 していましたが、どれだけ思いを込めて作品を作っても手元に残るのは、お金という 紙切れだけ。そしてまた木を彫り作品作品作品である。 アトリエを改装して作ったさんわーくかぐやの外観

活動の軸は農業とアートです。春は筍が

りの毎日。命を消耗してお金を手に入れることが虚しく感じるようになって…。お金のために命を削るのは、違うんじゃないかと気づいたんです。自分のアートでお金を得ることを目的とするのではなく「その人の個性を表現する」ための活躍するしていた妹の居場所として、さんわーくかぐやを立ち上げました。

ありました。納期に追われる日々を過ご

ださい。一さんわーくかぐやについて聴かせてく

事にした活動を支援しています。 ティア、スタッフと一緒にその人の個性を大 会で生きづらさを感じる中、ここで体を動 業所」を設立しました。藤沢市の単独事業 はそのままにセルフビルドした作業所を構 た。始まりは家族会です。自生していた竹 継いだ土地をアトリエとして使っていまし かすことを心地よいと感じた人や、 なので自由に活動を組み立てられます。社 日の利用者を一〇名とし「日中一時支援事 合わせて「さんわーくかぐや」と命名。 をかいて働くことと、月と竹のイメージを もともとは、 活動の場としました。 祖父母の代から母が受け 太陽のもとで汗 ・ボラン

> 販売を行います。 販売を行います。米や味噌も作り、味噌づくり に必要な塩は海水を汲みに行って作り出す のです。時には、近隣農家の手伝いや地元 のです。時には、近隣農家の手伝いや地元 がします。米や味噌も作り、味噌づくり

組みで活動しています。自分で売り上げ、すべて手にするという仕動として、本人が積極的に地域に飛び出し動として、本人が積極的に地域に飛び出し

じがしますね。 ―さんわーくかぐやは地域に開かれた感

もともとは障がいのある人や親御さん もともとは障がいのある人や親御さん が、気軽に訪れてほっとできる場にできたらと願い、作りました。開かれた感じがするのは、メンバーの個性を活かし、ゆるやかに地域とつながる活動がいっぱいあるからに地域とつながる活動がいっぱいあるから を地イベントのお手伝い、地域をきれいにする美化活動も定期的に行っています。

を開催し、地元はもちろん全国各地かられるんですよ。毎年秋には「かぐや祭り」かりではなくて種をちゃんと持ってきてく換コーナーがあります。持って行かれるば事務所である母屋の入り口には、種の交

ります。一年間の集大成のような濃縮した アーティストやパフォーマー、出展者が集ま 日ですね。

スピードや経済性が求められますが、ここ くことができる場所ですね。 ら一日を過ごし、笑顔で楽しく暮らしてい する…。こういったことに幸福を感じなが では生産効率は問わず、必要な分だけを採 どたすけあえる感覚を学びます。社会では 「コミュニティの中で何らかの役に立つ」な **- 負荷を共にしていくことで喜びを味わう_** お金に換えない。米を作る、筍を収穫

新たな゛なにか゛が始まるのですか? - 事務所をリフォームされていますが、

です。 商店街を開拓し地域社会の中で働く。思い くために、お店とマッチングさせたいんです。 があれば受け止めてくれる地元の人も多い ことになりますね。彼らが地元商店街で働 てます。実際には、かぐやのメンバーもいく して広く活動ができるようになります。 六○年の八百屋の二階を借りて事務所を立 別棟だった貸家が空いたので、リフォーム 来年の四月からは、善行の駅前にある築

的に行い当たり前の顔になることで、 福祉は実践なので、地域での交流を日常 地域

意図がわからない。だから反対運動が起き

を建てているのは企業などで、

顔が見えず

と反対運動が起きることがあります。施設

また、地域の中でグループホームができる

とができる。そのために職員も新たに増や 賃金でも働けたら一定程度の収入を得るこ る。 ですよ 表だった甲斐さんの事業ともコラボするん 年受賞者の学生団体 My Own Place)の代 します。新しい事業ではMOP(二〇一七 意なことを仕事として取り組むことができ も広げたい。週に一日だけでも、本人が得 の人たちとの職業体験やお出かけサポート 地元のお金をもらって働く。例え最低

前に暮らすためには何が大切でしょうか。 -障がいを持つ人たちが、地域で当たり

よって福祉の捉え方は違うと感じます。人 たちの思いを伝え、当事者たちが使いやす とされている側面もある。だから、当事者 うという課題があります。それでも、必要 クでつなげられないかと考えています。 動は弱いです。当事者活動の会をネットワー いるのでその問題を動かしていきたいです くすることが必要なのです。また、地域に ない、利用者に様々な制限がかかってしま で言えば、一度制度利用をするとやめられ かしいと思います。例えば、成年後見制度 人のことを決めるのに、本人がいないのはお ね。特に、知的障がいの人たちの当事者運 当事者運動が大切ですが、下火になって

いきたいです。

ように、当事者会のエンパワーメントをして

ます。当事者たちが政策に参画していける ワークを形成するのに重要なことだと思い 差異を汲み取ることが、地域の中でネット



畑で野菜も育てている

権思想に対する地域差、 年代による認識の



の中で働くのではなくて、 思うんです。それには、 てしまう。 働くことで地域の顔になること。そして、 ていくことが地域福祉の役割ではないかと ならば、 顔が浮かぶ関係を作っ 障がい者が事業所 地域社会に出て

> 切ですよね。 が地域にいることが当たり前になるのが大 そういった場を開拓することで、

ています。 ザインしていけたらいいのではないかと思っ 幸福に対するニーズも変わってきています 稼ぐというモデルが大きく変わってきてい を当事者たちも疑わない。 対価重視がロールモデルになっていて、 働き方に関しても、 そういった「暮らしの豊かさ」をデ 対価も変わってきている。 施設の中で成果や 今は、 私たちの 働いて それ

団体からのお知らせ

2008年より"障がいがあってもなくても" をコンセプトに生き辛さを抱えた方の支援を 行って参りました。無農薬の畑や田んぼ、有 機農家さんのお手伝いや、陶芸や木工、シ ルクスクリーン印刷、田島征三さんの巨大作 品制作のお手伝いなど、様々な活動を通じ て"生きる力"を育んできました。

2018年「藤沢市表彰」、2019年「かな がわ福祉サービス大賞 | 特別賞受賞。

2022年4月地域福祉の拠点「駅前かぐや」 オープン!津村和比古監督作品ドキュメンタ リー映画「かぐやびより」も2022年公開です。

NPO 法人さんわーく かぐや

〒 251-0875

奥のアトリエには利用者が描いた絵が飾られている

藤沢市本藤沢 6-12-1

TEL/FAX 0466-77-8610

HP http://www.sunwork-kaguya.com/

代表:藤田靖正



障がい者

組みだと思いました。 と地域をつなげる活動は本当に大切な取り いた場所にしていく事業にむけて、 藤田さんの言葉です。 うことができました。 |暮らしの豊かさ」をデザインしたいという 温かい雰囲気の中、 特に印象に残ったのは 今後さらに地域に開 (田中勇輝) 利用者

域で生き生きと働き暮らしている街を想像 とても良いタイミングでした。 続けていこうと思います。 事業についてじっくり話を伺うことができ、 今回の訪問取材は、 藤田さんとさんわーくかぐやを応援し 新たにチャレンジする 藤田さんのお話を伺 障がい者が地 (加藤恭子)

天白 牧夫さん

市民を啓発する地域の自然を守り、育て、現代版の百姓として

活動を担ってきました。天白牧夫さんも能後日本の自然保護運動で重要な役割です。この会では、NHKテレビ「茶の間です。この会では、NHKテレビ「茶の間です。この会では、NHKテレビ「茶の間た柴田敏隆さんが活動を展開。その柴田た柴田敏隆さんが活動を展開。その柴田た水田敏隆さんが活動を展開。その柴田た水田敏隆さんが活動を展開。その柴田が後日本の自然保護運動で重要な役割

その一人です。この会の事務局長として、

の蛙が自分の近所の道端にいる。

んなくなっていきました。

2いる。それを見野山にいたはず

長するにつれて、

開発が進み野山がどんど

ると「自分の世代でこういったことをやって

しまった」と思い、本当に悲しかったですね。

野山を駆け回って遊んでいました。

ただ成

幼少期から自然と生き物が好きで近くの

様性保全の代表として活動している天白そして自身が立ち上げた三浦半島生物多

さんにお話を伺いました

ではどうすることもできない」と感じてい状況はさらに悪くなる一方でした。「自分

ました。 島自然保護の会に入会されたとお伺いし 島にお住まいで、中学生のときに三浦半 ―天白さんは生まれたときから三浦半



笑顔で活動の魅力を語る天白牧夫さん

贈呈当時の活動

里山保全活動を通して生物多様性の保全に貢献する地域社会づくりを進めています。三浦半島の自然は元々人間が作った里山でしたが、 里山に育まれた多様な生き物が絶滅の危機に瀕しています。里山を 保全することで、様々な生き物が棲める環境を作り、三浦半島の自 然を再生させたいと思い活動しています。また、それらの活動を通 して環境教育にも力を入れています。生物学を専攻する大学生を中 心に NPO 法人三浦半島生物多様性保全を立ち上げ、当時 7 か所 の谷戸を管理していました。

贈呈理由

子どものころから、取り組んできた地域の里山保全活動が自然保護につながり、地域の多世代の人々との交流を生み出していること。生物多様性保全の専門家も集め、これからの自然保護を担う人材づくりにも力を入れている点をふまえ、キララ賞を贈呈しました。

柴田の家に押し掛けたんですね (笑)。そこで、 ですよ。プロの仕事として自然保護に取んですよ。プロの仕事として自然保護に取ることに感銘を受けました。その組んでいることに感銘を受けました。その非田が近所に住んでいることもわかって、



―三浦半島自然保護の会は日本の自然会に入会することとなったんです。

たそうですね。 保護運動で大きな役割を果たしてこられ――三浦半島自然保護の会は日本の自然

会の活動は戦後直後から始まりました。会の活動は戦後直後から始まりました。

う観点を大切にしていました。自然、類まれなる自然を大切にしようといに反対する取り組みが活動の原点。尾瀬のに反対する取り組みが活動の原点。尾瀬の戦後直後からある代表的な団体は日本戦後直後からある代表的な

きか否か」、意見が対立していたようなんきか否か」、意見が対立していたようなんです。この活動を最初には固で展開しています。この活動を最初にはじめたのは三浦半島自然保護の会のメンバーが自然観察会を日本自然保護協会に売り込んだわけです(笑)。この活動が導入される前、環境保護を取り組むうえで「昆虫採集するというない。

んですね。 一自然を保護することが大切だということな 触れることだけではなく、地域にある自 にある自 がな観察することが大切だということな

りません。自然との関係でもそうです。ことがないと、それがどういうものがわかことなく、自然を見るだけだと不十分なことなく、自然を見るだけだと不十分ないを採集できません。ただし、虫に触れるかつては虫をたくさん採り、親しむことかつては虫をたくさん採り、親しむこと

る経験をした方がいいと思います。というたのですが、今では地域の自然は「塩漬けん。私としては自然に働きかけて、自然環の緑」になっていることが珍しくありませかつては百姓が地域の自然を管理していかつては百姓が地域の自然を管理してい

です。を大切にする思いは出てこないと思うからのも、自分が楽しかった経験がないと自然

ことが特徴です。関誌の発行を行っています。小さい子もいる三浦半島自然保護の会は主に観察会と機

れているそうですね。 ―NPO生物多様性保全での活動もさ

こちらでは里山保全、外来種対策、教育活動に取り組んでいます。里山保全につ門が流れ、段々になっているのですが、こには豊かな生物多様性があります。そこには豊かな生物多様性があります。そこには豊かな生物多様性があります。表に、里山を再生させる取り組みも行っまた、里山を再生させる取り組みも行っています。

五○年くらい人が空接に関わってできた生たを開墾し、地図、そして昔の写真を見なたいたい復元されます。里山を守る活動はだいたい復元されます。里山を守る活動はだいたい復元されます。里山を守る活動はだいたい復元されます。里山を守る活動はだいたい復元されます。

の関わり方が変わってきます。るか、過去の手法を取り入れるかで里山と物の多様性に対して、今の手法を取り入れ

とえば「この山ではこういう歌を歌いなが が残念です。 コロナ禍で参加できない状況が続いているの ティアとして協力してきてくれたのですが の社員の方々が私たちの取り組みにボラン というフェイスマスクになりました。ラッシュ のラッシュに提供し、ドントルックアットミー 里山で作った玄米と稲わらをコスメブランド す。自然から人間の文化も見えてきます。 ら作業していた」とわかることもありま に方法が違うので、おもしろいんです。た できるということでもあります。地域ごと それはつまり、里山の歴史を調べて、昔の るために自然を破壊してしまいかねない。 もので重機も農薬もありませんでした。だ いましたが、自然にかける負担は穏やかな 人がやっていた方法をつかえば、自然保護 から自然と共存できた。でも、今では食べ 昔の人はただ食べるために自然に関わって

市は移住者が多く、どんな自然があるかわ教育活動です(笑)。私が住んでいる横須賀週一から二回くらい行っていて、午前、午後数方活動です。小学校と保育園にそれぞれあと、最近かなり力をいれているのは、

きました。 きました。 きました。 きました。 きました。 きました。 きました。 きました。 きました。 きは「自分たちの地域には自然がほとんど をい」と思っていることも珍しくないので、 と伝える という自然や生き物がいるよ」と伝える は今日も小学校に行ってきて「こうすれば は今日も小学校に行ってきて「こうすれば は今日も小学校に行ってきない。子どもた からない方も少なくありません。子どもた

-最後に今後の目標を教えてください

今まで人類は取返しのつかないかたちで自然を痛めつけてきたと思います。だから 自然を痛めつけてきたと思います。そのたかり浸透させたいと思っています。そのために現代版の百姓になりたいです。百姓とめに現代版の百姓になりたいです。百姓とは単純に農家のことではありません。その地域にあるものをつかって農家、大工、医地域にあるものをつかって農家、大工、医地域です。里山で生き物を守り、食べ物を育て、地域で啓発も行うのが現代版の百姓だと思っています。そういった存在になっていとって、地域で啓発も行うのが現代版の百姓だと思っています。そういった存在になっています。そういった存在になっています。そういった存在になっています。そういった存在になっています。

残っているのは一%に満たない。 ※三浦半島にかつてあった数と比べると、現



田んぼを復活させたキチジ谷戸

団体からのお知らせ

●NPO法人 三浦半島生物多様性保全では、会費、 寄付金、助成金などの資金をもとにして活動をお こなっています。

みなさまの応援は、三浦半島の里山保全、生態 系保全の活動のために使われます。

- ●ぜひ会員になってください。イベント、報告など各種案内をご連絡します。
- ■入会申し込みフォーム https://mbcn-m.com/?page_id=2343
- ■賛助会員 個人会員 年会費 3000円 家族会員 年会費 3000円
- ①ゆうちょ銀行

【店名】028 【店番】028

【預金種目】普通預金

【口座番号】5111160

トクヒ)ミウラハントウセイブツタヨウセイホゼン

きました。 (田中勇輝)つくりだすことを学ぶことがでがその地域に裾野が広い活動を子と大人が一緒に活動できる場子と大人が一緒に活動できる場のはにはいて、その大人について近くにいて、その大人について

NPO 法人三浦半島生物多様性保全

問合せフォーム https://mbcn-m.com/?page_id=2340

HP https://mbcn-m.com/hp2/

代表:天白 牧夫



永岡 鉄平さん

全ての子どもたちへ、 そして「フェアスタートサポート」も 公平な機会を作り出す「フェアスタート 社会に出るための

び取るのは自分。 (自分の選んだ人生を歩んで欲しい。 無限の可能性を秘めている子どもたち

見つけ、職業の選択肢を拡げる、 全体で育まれていくような機会創出に注 養護」の対象となる子どもたちが社会 めのサポートをしていきたい 力しながら、子どもたち自身が適性を 支援の充実が必要とされる「社会的 そのた

岡さんにお話を伺いました。 生をいただいた僕の使命です」と語る永 の公平な機会を作り出し「原石」 る社会を創り出すこと、これがこの世に る子どもたちの可能性が存分に光り輝け 「全ての子どもたちへ、社会に出るため 一であ

ださい。

のため退職していた二〇一〇年、

たまたま

三〇歳までに起業する目標を立て、



永岡鉄平さん

を始めたきっかけや思いについて教えてく 永岡さんがキララ賞を受賞した活動

贈呈当時の活動

養護施設出身の若者たちの就労支援活動を行ってい ます。就職先の斡旋だけではなく、施設の子どもたち を社会から必要とされる人材に育てる活動や、また就 職した後のフォローも行なっています。次世代を担う 子どもたちへ社会に出るための公平な機会を作り出す ため、2011年、横浜で株式会社フェアスタートを設立。 そしてキャリア教育とアフターフォローのため 2013年 にNPO法人フェアスタートサポートも立ち上げました。

贈呈理由

施設出身の子どもたちの離職率の高さ、その理 由を考え、施設にいる間に、やりたい仕事、適 性を見つけられるようにボランティアの人たちや 地域の企業からの協力を得て、パソコン教室や、 インターン、企業見学などを取り入れ、仕事の 選択肢を自分で選び取れるようにキャリア教育を 行っていること。子どもたちの未来に希望を与え ていることをふまえ、キララ賞を贈呈しました。

日にした新聞で子どもたちから「一八歳で施おがワーキングプアとなってしまう現実を知がワーキングプアとなってしまう現実を知りました。鎌倉にある養護施設出身の若者たちでお願いしてボランティアをさせてもらいました。そこの子どもと貧困に関するシン

なと思ったんです。

ちが多いな、という印象を受け応援したいる」という話を聞き、えらいな、いい子た校生活の傍らアルバイトをして貯金をしてい設を出なくてはならないので将来を考え高



した。そこの子ともたちから一一八歳で施

以前の職場で大学院生専門の就職支援会 社設立に加わり役員として仕事に携わって いた頃、高学歴の修士、博士課程の院生の 多くが「まだ学生でいたい」などと働くこ とにネガティブでした。「雇いたいけどやる 気のある若者が少ない」という企業の方か らの声がある反面、一八歳で養護施設を出 され、社会に出ることを余儀なくされる若 者、働かなくてはいけない宿命を持つ子ど もたちがいます。

業に紹介しようと思いました。 業に紹介しようと思いました。 ま。「やる気があって歯を食いしばって頑張るこういう子を欲しがるだろうな」と思ったその時、頭に浮かんだのはかつての営業たその時、頭に浮かんだのはかっての営業に紹介しようと思いました。

―どのような活動をされていますか?

にいる間に自分はこの仕事がしたい、自分に主に三つです。まず、子どもたちが施設

はこれが向いているという仕事を見つけられるように導く教育が必要と感じました。 高校を卒業する前に施設と企業が繋がるような環境を整えられれば、そこから始まることがいろいろあるのではないかと考えて、子どもたちの社会性の育成や、より手堅い就職サポートを始めました。会社見学、インターンのようなこと、適性検査、企業に出張してのパソコン教室など、キャリア教育が一つ目です。

居場所づくりを提供しています。と作り、交流します。つながりを絶たない開催して、支援した子どもたちが会う機会別が出して、就職後のサポート、アフターニつ目として、就職後のサポート、アフターニつ目は就労支援として就職先の斡旋、

〜支援した若者たちからの声はどういっ

間違っていることや、考え方の土台は社会の持っている人徳なのかな(笑)。 人間的にの持っている人徳なのかな(笑)。 人間的にの持っている人徳なのかな(笑)。 人間的にのだっている人徳なのかな(笑)。 人間的にのさいる人徳なのかな(笑)。 人間的に間違っている人をなのかな(笑)。 人間的に間違っている人をなのかな(笑)。 人間的に間違っていることや、考え方の土台は社会

は大きいです』といった声がありました。生きていかなきゃならない環境で得たものいて、怒られて嫌な思いもしながら、でもに出て教わりました。高校に入ってすぐ働

りますか? ―キララ賞を受賞して変わったことはあ

生活クラブの人たちと距離が近づいたことに変わっていません。もちろん生活をりしました。受賞前と受賞後でやっていたりしました。受賞前と受賞後でやっていたがいたいました。受賞がないただいたがしました。

―就労支援を行うことで苦労したことは

最初のころ、良かれと思って支援(斡旋)した人がすぐに辞めてしまって、企業の方ですが、職業理解が浅いために働くことですが、職業理解が浅いために働くことに対する課題も多く、親がいないということを言い訳にして辞めてしまった。

すか? 一続けてきて嬉しかったことはありま

面と向かっての感謝の言葉や、支援者として仕事の部分でより、人と人という関係で接してもらうことが嬉しいですね。時々の、恋愛相談などをされることもあったり、恋愛相談などをされることも嬉しかったです。

えることはどのようなことでしょうか? 現在の活動、やってきて良かったと思

何年もかけて築いたキャリア教育が生き何か大事なものが得られた気がします。企人の適性、やりたい仕事を見つけ出すお手伝い、そしての活動を多くの方に知っていただき、企業の受け入れ態勢もできてきて、今はすぐに仕事を辞めてしまう子どもたちがかなりに仕事を辞めてしまう子どもたちがかなりに仕事を辞めてしまう。

ドがありますか? ―最近の活動で印象に残っているエピソー

施設にいた自己肯定感を持てない高校生にキャリア教育の一環で障がい者向けの施設の子どもたちに慕われアイドルのような存在になって、自信を持ってもらえたこな存在になって、自信を持ってもらえたとがありました。

ありましたか?―コロナ禍で直面している課題や困難は

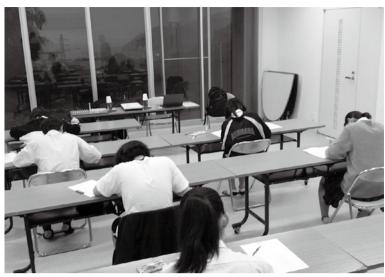
会社見学などができるようにしたすね。夏の時期に組んでいた計画をオンラすね。夏の時期に組んでいた計画をオンラウました。一日でも早く、会社に実際足りました。一日でも早く、会社に実際になる。

一今後の願い・伝えたい思いを教えてく

本人が自分の選んだ人生を歩んでほしい本人が自分の選んだ人生を歩んでほいいます。 下をしていきたいです。各地に同じような思いをもつ方がいますので仲間を作り、応思いをもつ方がいますので仲間を作り、応思いをもつ方がいますので仲間を作り、応思いをもつ方がいます。

養護施設だけでなく、定時制高校、

片親



向いている仕事を見つけるための適性検査を行っている

ると後書きにありました。

配慮した工場

「CO゚ゼロ印刷」

で印刷してい

で一〇号になりました。このYELLは環境にフェアスタートサポートが発行して二〇二一年

団体からのお知らせ

- ●児童養護施設応援企業情報サイト「フェアスタートパートナー」を 2021 年 11 月に立ち上げます。児童養護施設の子どもたちへ会社見学や仕事体験等の機会を提供したいと考えているおススメの企業があればご紹介ください。
- NPO 法人フェアスタートサポートでは、 ご寄付、賛助会員を募集しております。 お振込先口座は以下のいずれかになり ます。

この活動を持続可能なものにできるよう 応援してください。

詳細はこちらからもご覧いただけます。 http://fair-start.co.jp/supporting-team/ donation

①ゆうちょ銀行

【店名】028 【店番】028

【預金種目】普通預金

【口座番号】6287350

【記号・番号】10280-62873501

②三菱 UFJ 銀行

【店名】横浜支店

【預金種目】普通預金

【口座番号】3342325

創り出すこと」、これがこの世に生をいただ体で育まれていくような機会創出に注力し体で育まれていくような機会創出に注力します。
「全ての子どもたちへ、社会に出るための「全ての子どもたちへ、社会に出るためのます。

いた僕の使命です。

永岡さんがキララ賞を知ったのは二〇一一年 受賞の高城さんからと伺って取材担当の七戸さ たばかりでした。どちらも人との繋がりの活動 を今も継続しているのです。穏やかでどこか母 を今も継続しているのです。穏やかでどこか母 を今も継続しているのです。穏やかでどこか母 をうも継続しているのです。穏やかでどこか母 をうりにこと。どちらも人との繋がりの活動 をつから見据えてこれからの労働力を担う若者た ちへ、フェアなスタートが切れるよう応援して いきたいと思いました。

株式会社フェアスタート NPO 法人フェアスタートサポート 〒 231-0003

横浜市中区北仲通 3-33 関内フューチャーセンター 214

TEL/FAX 045-319-4675 HP http://fair-start.co.jp/

代表:永岡 鉄平



福本 塁さん

防災意識を風化させない防災トランプで

は意識が高いけれど、一○年したら風化解決していく姿勢や態度だそうです。今行動し、コミュニケーションを取って問題をことは、一人一人が自分から気づき、考え、ぶランティア活動をして学んだ一番大事ながら、東日本大震災の被災地で

ますか。 に行かれた経緯や、お仕事について伺え―長岡造形大学にお勤めですね。そちら

ナウイルスと、たて続けにいろいろ災害が 境デザイン学科に所属しています。 定がいただけたんです。 ていたので、 た。 を探しているのかっていうくらい自分に合っ 二〇一八年四月に専任教員になりまし 山形県沖地震、 募集要項を見たところ、 記念受験的に応募したら、 台風 自分は、 一九号、 これは自 新型コロ 着任以 建築環 内

でいいから防災について考える仕組みが作

親戚が集

する。その前に、地域のちっちゃい子から

こ年配の方までが取り組めて、一年に一回

トランプが生まれたそうです。

まってトランプをしているのを見て、れないかと考えていた年の瀬に、親



2020 年度キララ賞贈呈式にオンライン 参加した福本塁さん

贈呈当時の活動

2013年の受賞当時は、(株)ウイングベースの代表取締役社長で、東京大学大学院都市工学専攻の博士課程に在学中でした。2011年の東日本大震災直後に被災地の南三陸町に入り被災地医療緊急活動のコーディネーター(スーパー雑用係)を担った経験から、どうすれば防災意識を高めることができるのかという問題意識を持つようになりました。自分たちが住む地域を知り意識を高めるための防災教育活動を若者中心に展開しようと考えます。かながわ若者シンクタンクを立ち上げ、自分目線で防災を考える街歩きや勉強会を開催したほか、「防災トランプ」を開発しました。

贈呈理由

防災トランプは、普段は話題にしない防災の話をすると有利なボーナスがもらえるというルールを、通常のトランプのルールに追加したもので、多様な世代が楽しく交流できるトランプというツールを用いて、防災意識を高め、世代を超えて楽しく話し合う場をつくることをめざすものです。この取り組みが、市民主体での防災のあり方を地域でつくることにつながるとして、キララ賞が贈呈されました。



ている長岡造形大学の学生たちグル プ・MAKINDO

彰された理由がちゃんとあるのに感動 受けた人のことを語れたのがうれしかった ました。あと、自分のお世話になった人を 応募しようという感じだったんですね。 えない時期の真っ最中じゃないですか。 現地調査の時に、自分が本当に影響を 受賞式の時の賞状の文言に、自分が表 評価されない可能性が高いとは思っ 里 だ

起きて、防災研究者としての技量を試さ れるような日々が続いています。

呼んでいいっていうのが、ありがたかったで

ありますか ―キララ賞についての思い出は

ことにも出会えるので。 ちゃんと見てくれるんだなって驚いたんで 調べたら、自由な発想の活動を広い視点で なりました。キララ賞の過去の受賞者を 理した内容が、その後の防災活動の軸に で、自分が実はこう思っていたんだという 理しようと思ったんです。話を整理する中 応募することで、それまでの活動を整 応募の段階で整

山保全も大丈夫だから、自分もちゃんと たんですけど、アートも大丈夫だし、 二〇一三年当時は、 防災を不謹慎に扱

> 賞で学びました。 いう対外関連の動きが大事だと、キララ たです。それと、表敬訪問や新聞掲載と 育ててくれたんですけど、大学卒業の時も、 すね。自分の母親は、母子家庭で自分を んも来てくれた、呼べたのが、すごくよかっ たいな感じだったんです。そういう母ちゃ ―キララ賞の贈呈につながった 「防災トラ 「私なんか滅相もない、行けません。」み

ンプ」のその後について教えてください。

持しています。 教室を開いた事例があるんですけど、そ ね。だから、防衛手段として、商標を維 ういうことができなくなっちゃうんです が富士河口湖版を作って、小学生に防災 取ってしまうと、例えば、山梨県の高校生 さいということに。大企業とかが商標を 利益を上げる行為は、許可を取ってくだ 由に使ってよいことにしています。ただし、 防災トランプは商標登録をしていて、自

作りました。 オンラインワークショップで集 まってきた体験談を使って、いろんなバー 二〇二一年夏に防災トランプウェブ版を

ことを目指しています。防災トランプのプジョンをつくっています。防災トランプは体験程度にして、学生の興味関にできちゃっている状態です。今は、防災トランプは体験程度にして、学生の興味関心に基づいたツールを作って展開していくがヨンをつくっています。防災トランプのプジョンをつくっています。防災トランプのプジョンをつくっています。

すよね。子ども向けのものは作らないのでー防災トランプは、お題・質問が難しいで

作らないですね。やり方があるんです。のえば、質問の意味がわからない人には、「こういう意味だよ」って言ってくれいが読んであげる。要は、コミュニケーショかが読んであげる。要は、コミュニケーショかが発生することが大事なんです。頼ったり、教えたりというのが少しでも入っていり、教えたりというのが少しでも入っています。

活動をしているのですか。

リアルな最前線の防災に関する情報の

りとか。

「現化、見える化をやっています。空きずードマップ」の改訂版を作成委員長として作ったり。作って終わりでなく、その後、で作ったり。作って終わりでなく、その後、で作ったり。作って終わりでなく、その後、 はいいます。 空き りとか。

障がいをお持ちの方とか、自力で避難できないスペシャルニーズを持った方についても考えています。東日本大震災の時に手押しポンプで何とか呼吸をつなげて生き延びたという筋ジストロフィーの重い疾患がある方と出会い、その方からお話を伺いました。その方と一緒に『自宅で防災訓練をしたことがありますか』という本を書くしたことがありますか』という本を書くなってしまって。

まづいた者の責任として、代筆がどこま 気づいた者の責任として、代筆がどこま をは全部、筋ジストロフィー協会の方々に をは全部、筋ジストロフィー協会の方々に をは全部、筋ジストロフィー協会の方々に

ものは何ですか。 ―そのような活動の原動力になっている

> ひいてないか」みたいなことを言ったんで とは、一回もないです。自分でも、 たぶん、死ぬまで続くと思いますね。 無我夢中で今まで生きてきたし、それは て、社会貢献って何だ、地域に役立つって けてやってきたって感じがするんですね。 すね。そういう、死を目前にしての兄の て、文字盤を通してなんですけど、「風邪 瘍が全身に広がっていてもうしゃべれなく 三日前くらいに病室に行ったときに、 としては、兄の死が大きいですね。 ものはないと思っています。根本の原動力 があるし。こんなに自分を育ててくれ 休みを全部使ってウェブ版をつくった熱意 貴重だと思うし、つまらないと思ったこ とりの話が楽しいことですね。体験話は なんだとか、そういうのを模索しながら、 しい」っていう、謎のお題を出されてしまっ 兄から、「自分の分まで社会貢献をしてほ んですけど、そういう心の強さを追いか 強さに、自分は一生追いつける気がしない 防災トランプについては、参加者一人ひ 腫

事前に質問表を送り、

取材はリ



防災トランプの様子

団体からのお知らせ

福本研究室では、都市計画・まちづくり分野 を基盤とし「コミュニティデザイン」、「都市防災・ 防災まちづくり」、「教育方法・教材開発」、「空き 地・空き家・空き空間の活用・再生 | をテーマ に研究や実社会への適用を行っています。

教育面では、「好きをかたちにする」と「困り ごとの役に立つ」の観点を組み合わせることを 大切にして学生の指導にあたっています。コミュ ニティ形成に関する実践・研究およびそれを専 門とする価値はどの時代でも普遍だと考えていま す。何よりも、自分とは考え方、価値観が異なる 様々な世代・立場の方との関わりを通じて自分自 身の成長と可能性を広げる機会を得ることができ る分野です。

福本塁さん

公立大学法人 長岡造形大学 建築・環境デザイン学科 福本研究室 〒940-2088 新潟県長岡市千秋 4-197

TEL 0258-21-3539

HP https://fkmt-lab.jp/

代表:福本塁



う日は、 感想は、 だなということでした。 れる精神が、 の深い理解と新しいものを受け入 ていたのですが、取材を終えての 越後長岡が、「米百俵の精神」のお 話にある長岡藩の土地だとは知っ ートでさせていただきました。 福本さんのモットーは '残りの人生の初め」 だそうです。「いやなこと 長岡の方々の、 福本さんを招いたの 人づくりへ 「今日とい (ルソー

> があっても、 というのが、 は選べるので、そこは迷わず選ぶ べないけれど、自分の行動と態度 るし、自分に降りかかる問題は選 て考えれば、 んでくださる要因になっているのか 人よりちょっと早いんですよ、 それが多分、 どんな状況も楽しめ 今からスタートするっ 自分の生き方です。 世の中の人が喜 動き

なと思いますね」とのことでした。 佐藤英二郎

地域の人々・子どもたちとの出会い絶滅水生昆虫との出会い、

の配信などを行っています。 環境の魅力を伝えるYou 絶滅の危機にさらされていることを知 てきました。 の生物と関わり、環境保護にたずさわっ もたちと一緒に調査活動、 ある観音崎 クを作成しました。 と侍従川と親しむ会」に加入し、 佐野真吾さんは子どもの頃、 横浜市で水生昆虫のレッドデータブッ 調査研究活動を行いながら、 `自然博物館で学芸員を務 自分が好きな水生昆虫が 現在は横須賀市に t 生物や自然 u b 「ふるさ e番組 地域 子ど

にここ。んできた活動への思いなど、お話を伺いしむ会」との出会い、これまで取り組毛動してきた「ふるさと侍従川と親

学二年生の時、

小田原市にある生命の星

りをするのが生きがいの子どもでした。

物心ついた時から生き物が好きで、

虫

THE PERSON NAMED IN COLUMN 19 AND THE PE

インタビューに答える佐野真吾さん

教えてください。 虫が佐野さんの心を動かした原体験をとお伺いしました。昆虫との出会い、昆―子どものころから昆虫が大好きだった

贈呈当時の活動

小学生の頃から「ふるさと侍従川に親しむ会」*の会員になり、生き物に触れてきました。生き物がにぎやかに生きてゆける自然環境の保全を目指し、大学での研究、水生生物の保全活動、横浜市の水生昆虫のレッドデータブックの作成、ふるさと侍従川に親しむ会などで活動。また子どもたちへの環境教育にも取り組んでいます。

※ふるさと侍従川に親しむ会:横浜市金沢区を流れる侍従川。この川のクリーンアップ、生き物や水質の調査、アシの植え付けなどを行っている会。侍従川で子どもたちが昔のようにもう一度遊べる自然豊かな川として守り、育てていくことを目的として活動しています。

贈呈理由

子どもの頃から、環境保全活動、環境 教育活動など、意欲的な活動を展開してきたこと、そして子どもたちと一緒に 取り組む活動は環境保全の大切さを伝 えるとともに、子どもたちの居場所づく りにもつながっている点をふまえ、キラ ラ賞を贈呈しました。 した。

む会」に入られたそうですね。 ―小学生の時に「ふるさと侍従川と親し

地球博物館に行って、水生昆虫のゲンゴロウ

ました。 に入会したのは小学一年生のときだったん とは小さいころから知っていました。実際 なかったこともあって、幽霊部員になってい ですが、友だちと一緒に参加するわけでは 自分が住んでいる地域にその会があるこ

絶滅危惧種を守る仕事につきたいと書きま

た経験もあったので小学校の卒業文集には、

静岡で見つけることができました。そういっ

きに福島で、タガメは中学一年生のときに

とが難しくて、ゲンゴロウは小学四年生のと た。水生昆虫自体、横浜市では見つけるこ とタガメが絶滅危惧種であると知りまし

ことです。その際、職員室で僕の担任の先 に本格的に参加することになりました。 子に会いたい」と。「そんなことがあるのか のだった(笑)。その場で山田さんが「この た。そこにあったのが不思議なことに僕のも 生の机にあった文章にたまたま目が留まっ 田陽次さんが授業のために小学校に来た キッコロ森へいこうよ!」に出演していた山 ンバーであり、NHK教育テレビ「モリゾー と自分でも不思議に思うのですが、山田さ んと会って話したことをきっかけに会の活動 転機になったのは小学五年生の頃、会のメ

れた方で、今でも一緒に昆虫取りに出かけ 山田さんは自分の生き方に影響を与えてく 子どもたち向けに自然体験を行っている

すね。

多様な人々と触れ合う場でもあったんで

-昆虫取りをするだけではなく、

地域の

気がします。

輩たちや車を出してくれるおじさんと一 会には中学部・学生部があって、その先

遠足で博物館を訪問した小学生を案内

緒に出かけて自然観察に行き、 昆虫を取

輩たちと出会ったことがどこか固い部分の りました。そのメンバーは地元の人が多く、 にもなっていました。自然で自由に遊ぶ先 ちもいて、会はそういう人たちの居場所 中にはいわゆる「不良」や学校嫌いの人た あった自分を柔らかくしてくれたような

「たのしく虫取りしよう」という雰囲気で

そうですね。会は「勉強しろ」ではなく、

でいたんですが、みんな実のところ、飲み会を楽しみに来ていた(笑)。そのおじさん たちも元「不良」だったんですが、でも子たちも元「不良」だったんですが、でも子にはみんな優しかったですね。会に入って自由さを身につけられた感覚があります。おじさんたちは亡くなってしまいます。次の世代も育ってその会で活動しています。最初参加したとき、小学生だったと一緒に虫取り活動を担っています。世代と一緒に虫取り活動を担っています。と一緒に虫取り活動を担っています。と一緒に虫取り活動を担っています。と一緒に虫取り活動を担っています。と一緒に虫取り活動を担っています。と一緒に虫取り活動を担っています。世代と一緒に虫取り活動を担っていますね。

の大切さを伝えていきたいと考えています。 民虫取りは環境や生き物を自分でしっかり観察する必要があります。その過程でり観察する必要があります。これは実際に子どもたちが自分で自然の中に飛び込んで行って観察しないと学ぶことができないことです。デジタル技術が発達していて、デジタルで自然に触れ、自発達していて、デジタルで自然に触れ、自然を知ったとも思えてしまう今だからこそ、昆虫と自然を自分の目で観察する必要があります。その過程でり観察する必要があります。その過程でり観察する必要があります。

んは横浜市内の水生昆虫のレッドデータ―キララ賞を受賞された当時、佐野さ

ブックを作成されていました。

タ作成を進めています。でいる三浦市内でも水生昆虫のレッドデーでいる三浦市内でも水生昆虫のレッドデー博士論文で報告しました。今、自分が住ん横浜市での調査は終了し、二○一七年、

この活動を通じて、今後、自分の勤務 この活動を通じて、今後、自分の勤務 というです。さまざまな地域ごとにレッドリストをつくる必要があるのは、市や県というある程度大きな単位でレッドリストをつくる必要があるのは、市や県というある程度大きな単位でレッドリストをつくる必要があるのは、市や県というあるからです。

たとえば、水生昆虫のタイコオチは横浜 たとえば、水生昆虫のタイコオチは横浜 市の東部では絶滅してしまったのですが、 横浜市の西部では生息しているため、横浜横浜市のレッドリスト、神奈川県内のレッド リストを集められる博物館をつくりたいですね。 そのためにも、各地域で活動・調査 すね。 そのためにも、各地域で活動・調査 している方々と連携をとっていきたいです。

めていらっしゃるそうですね。物館で子どもたちと関わる取り組みを進―コロナ禍の状況ですが、観音崎自然博

います。 良かったですし、大切にしていきたいと思 調査を行ったりできたらいいなと思ってい 年、一〇年後、一緒に博物館をつくったり、 やHPで告知したところ、多くの応募が 物調査に行く取り組みです。 なって、僕と一緒に、月に一度継続的に生 居場所としても機能しているのでその点も 子たちも参加しています。子どもたちの ます。この調査隊には学校に行っていない きな子を継続的に育てる取り組みで、 あり、選考を行ったほどです。生き物が好 物調査隊」です。子どもたちが調査員と みが二つあります。一つ目は「ジュニア生 はい、コロナ禍に直面して始めた取り組 神奈川新

二つ目は「Youtube を始めたこと」です。 「観音崎自然博物館どたばた学芸ちゃん をっていくうちに心境に変化がありました。自然や生物を伝えることができる学た。自然や生物を伝えることができる学た。自然や生物を伝えることができる学た。自然や生物を伝えることができる学た。自然や生物を伝えることができる学た。自然や生を感じました。中学生の子どいく必要性を感じました。中学生の子どもたちと協力しながら、生き物を探しに行く動画などを配信しています。子どもたちからいろいろ教わっています。



観音崎自然公園前の海を解説する佐野さん

取材を終えて

取材では、研究されている水生生 物に対する情熱が、言葉の端々か ら伝わってきました。昨年からは、 たちと探索しながら"教える人と教 たちと探索しながら"教える人と教 たちと探索しながら"教える人と教 たちと探索しながらが表さる人と教 たちと探索しながらが表されている でも知っている頼もしい仲間」という でも知っている頼もしい仲間」という でも知っている頼もしい仲間」という でも知っている頼もしい仲間」という でも知っている頼もしい仲間」という でも知っている頼もしい仲間」という ていきたいですね。信し、学芸員が社会で活躍できる場を広げていくとともに、学芸員の価値を社会に発

が届くほどです。

が実現することを心から祈念します。 崎自然博物館を訪問していました。 を案内する佐野さんの姿が素敵でし を案内する佐野さんの姿が素敵でし を案内する佐野さんの姿が素敵でし を案内する佐野さんの姿が素敵でし を案内する佐野さんの姿が素敵でし をなことだと思います。佐野さんの とする子どもたちの楽し

観音崎自然博物館

〒 239-0813

(田中勇輝

横須賀市鴨居 4-1120

TEL/FAX 046-841-1533

HP https://kannonzaki-nature-museum.jimdofree.com/

館長:河野えり子、担当:佐野真吾



団体からのお知らせ

【調査・研究・保全】東京湾集水域・三浦半島の生物調査、国内外の生物調査、希少生物の生息域内外での保全、論文集の発行等

【展示】東京湾集水域・三浦半島の自然に関する展示

【観察会・イベント】一般向けに毎月数回観察会・イベントを実施 【体験学習】小・中学校他団体向けの自然体験プログラム

【子どもたちのグループ】ジュニア生物調査隊・キッズ海チーム等、 子どもたちのチームが活動

【博物館会員・ボランティア・寄付金】博物館を応援いただける 方はホームページをご覧ください。

出 歩美さん

笑って育つまちづくりを 虐待をなく_ 子どもが

岡さん。 読んだ本の多くがアメリカか けていると相談されながら何もでき る中で、 カウンセリングに興味を持った 中学校時代の友人から、 悔しさから児童虐待について調べ 虐待を受

ループホームで働く経験などもして帰 **うと思い、高校卒業後にアメリカに留** 非行に結び付いた少女たちが暮らすグ アメリカでは、 日本の大学を卒業した後、 虐待を受けた末に 神奈

ます。

んできました

川県の児童相談所職員としての勤務の

親子参加の地域活動に取り組

らのものだったことから、本場で学ぼ

ついて伺えますか。 現在の神奈川県職員としてのお仕事に

インタビューに答える岡歩美さん

後の砦と思ってやっています。 きていることを、サービスを提供すること 力を見極めて、 が利用できそうなサービスの情報提供など もならなくて来る方が多いので、ここが最 係の悩みごとの相談業務をメインでやってい がい担当の福祉司として勤務しています。 育児やしつけなど、家庭のあらゆる親子閏 行いますが、 現在は神奈川県中央児童相談所で、 あらゆる努力をしたうえで、 相談者の方が今持っている その方が自分の力でで 相談に来た方 どうに 障

贈呈当時の活動

Marutto (旧:神奈川わかものシンクタンク)代表理事。虐 待に対応した、地域での相談できる場、交流の場を持とうと、 2013年度キララ賞受賞の福本塁氏とシンクタンクを設立しまし た。

相模原地域を中心に親子や若者を対象に、普段の生活に役立 つ情報や技術の交換と交流がもてる「くらしのおやこ教室」や「ゆ るりんく」などのイベントを開催。地域、親、子どもそれぞれの 目線を大切にしながら、参加者自身がいずれは講師になり、親 子や若者が助け合えるコミュニティを作るなど、子どもが安心し て育つことのできる環境づくりに取り組みました。

贈呈理由

「くらしのおやこ教室」や「ゆるりんく」 などの活動が地域の子育て世代の孤 立化を防ぐとともに、たすけあえるコ ミュニティの形成につながっていること をふまえ、キララ賞を贈呈しました。



娘さんと一緒に松ぼっくりを拾う岡さん

が、子どもが生まれる前と比較して、考 虐待の予防に努めています。 出てしまうということも多く、その一生懸 事にしています。親御さんが子どもと向き しゃばり過ぎないけど、おせっかい」を大 命の背景をお話しの中で一緒に整理して 合う時に、つい一生懸命になりすぎて手が でできなくしてしまうことがないよう、「出 一児の母として子育て中とのことです

え方や行動に変化がありましたか。

しようと思っています。考え方は「ママパパ 大きく違ってくると実感していますので。 があるかどうかで、子どもとの関わり方が 職してよかったなと思っています。親に余裕 立しないよう、親同士が交流しやすい工夫 とも大事だと考えています。親御さんが孤 したが、今は、参加するママパパが楽しいこ マパパの注目を浴びられるかと意識していま したら子どもが喜ぶか、孤立しないか、マ 目線」になりました。また、以前は、どう なりました。地域活動は、そろそろ再開 した。職場でも、時間の使い方が効率的に も広げていきたいと思っています。出産で休 行動面はやはり「子ども中心」になりま

> 外留学を考えていた高校生の岡さんに いて話していただけますか。 一○○万円を渡したというお母さんにつ ママと言えば…、福祉を学ぶために海

ですが、すぐの留学は諦めるしかないと思 当に困ったときには守ってくれる母でした。 「でも、本人が留学したいと言っているん リカに海外留学することができましたが、 こともあって、卒業後すぐに奨学金でアメ 対応について海外で学びたいと思っていたの 高校卒業後は、カウンセリングなどの虐待 自立心を育てることが上手な人だったんだ だなと思いましたが、振り返ってみて、本 覚えています。そのころは、母を厳しい人 ですから。先生の人生も私の人生も、娘の 行ったらどうですか」という電話に、母親が なく奨学金も取れるから、日本の大学に 高校の先生からの「推薦で、学費の心配も 生支援機構の海外留学支援制度が始まった いました。ちょうど卒業の年から、 すのも、あなた次第よ」と言われました。 るお金はこれだけ。それを増やすのも減ら なと思います。私ががむしゃらにいろいろ 人生とは違いますよね」と答えていたのを ○○万円を渡されて、「あなたに渡せ 日本学



くらしのおやこ教室(受賞当時の写真)

だと学びました。トラブルに巻き込まれた また、自分一人で解決しようとするので 周りに相談すると、いろんな人が助け とにかく相談してみることが大切

います。 できたのは、母が厳しかったからかなと思

く印象に残っていることはどんなこと アメリカでの留学生活で、今でも強

現在の地域活動につながっています。 きたことに改めて感謝しました。それが、 たり前のことに気がついて、親から教わって てもらわないとわからないんだ」という当 ことも大切だと思いました。また、家事な た生活の心地よさを体験、実感してもらう と言ってやりたがらない子も多かったのです てもらった経験がないため、「面倒くさい びついた少女たちが暮らすグループホーム 底にあります。虐待を受けた末に非行に結 どの生活にまつわることは「誰かから教え ようにするお手伝いをしました。 アメリカで勤務した経験が今の自分の根 彼女たちの生活を支えるスタッフとし 掃除・洗濯・料理などを自分でできる 家事をやる意味を伝えるには、安定し 親にやっ



てくれました。

反映していますか。 -キララ賞は、現在のご自身にどのように

生活クラブの活動を通じて知り合った方を 去の受賞者の方と一緒に行ったイベントや、 ことはとても大きいことでした。また、過 していただき、「続けていいんだ」と思えた キララ賞では、活動してきたことを評価

インタビューの様子

松ぼっくりを使ったクリスマスグッズイベント

まいました。

(佐藤英二郎

ていきたいと思っています。 に恥じないよう、 嬉しい広がりがありました。いただいた賞 講師に迎えての「くらしの親子教室」など、 自分でできることを続け

とができますよ」ということを伝えていき で一緒にやると、それだけで楽しい。「こう らスタートしたんです。親子とか、みんな は、松ぼっくりでリースをつくるイベントか たいですね。 いう身近にあるものから、 親子で楽しいこ

事にしたいと思っています。 最初の親子教室

取材を終えて

組でも多く、親子で参加してもらうのを大

で続けられると思います。イベントでは、 もしろい」と思っているので、自身も楽しん ます。暮らしにつながるあらゆることを「お が持てる取り組みを行っていきたいと思い

○年後も二○年後も、暮らしに役立つこ 今は子育て世代の当事者としてですが、

地域の方々と一緒に学び続ける交流

今後の目標や展望を教えてください。

う話を伺うにつけ、ご健康を願わずには うです。お仕事が忙しいようです。 のお子さんもぬか漬けが大好きなのだそ けの話を本文に盛り込むことができな になります。岡さんから伺った、 るきっかけになっているのだと実感しま 職場に戻るようにとのメールが入ってし いられません。 動中におにぎりを食べたりしているとい の時間が五分あるかないかで、 母さんも岡さん本人も、そして、岡さん かったのが心残りです。 した。私たちは、 記念誌作成が、賞を受けた方々にとつ 振り返りと今後の活動について考え 取材中にも、 それに立ち会ったこと おばあさんもお 急用なので 車での移 ぬか漬 昼食

団体からのお知らせ

Maruttoでは暮らしに役立つ情報が得られる親 子向けのイベントを定期的に開催しています。

○イベント例

- ●まつぼっくりで作るクリスマスツリー
- ●紙コップでおひなさまづくり
- かんたんご飯でおにぎらず など

活動の詳細、お問い合わせはホームページから お願いします。

Marutto(旧神奈川わかものシンクタンク)

HP http://marutto.org

代表:岡歩美



Bejio Me Liga(ベージョ・メ・リーガ)

リレーのように続く想いのバトンが

Beijo Me Liga は東海大学湘南キャンパスのボランティア系の学生プロジェクトです。活動は在日のブラジル人学校などへの訪問、「マルチカルチャー・キャンプ」という母国と異なる文化や言語に戸惑い、日本の生活に馴染めていない在日ブラジル人の子どもたちに「楽しい思い出」作りをするキャンプを毎年三日間開催しています。県内外のブラジル人学校の子どもたちと交流して、学生たちは何を体もたちと交流して、学生たちは何を体もたちと交流して、学生たちは何を体もたちと交流して、学生たちは何を体

にお話を聞いてきました。 俊太さん、松本萌子さんを中心にみなさん 育費が払えない」「②日本語が難しい」 教室の黒板には問題「① 子どもたちの教 ちょうど週に一度の定例会で三〇人ほどが 語り合っていました。二〇二一年代表 小澤 いました。 まってしまい視野が狭くなる」と書かれて 集まり、ワークショップをしている最中で わり活動を続けています。取材をした日は ③文化の違いによってコミュニティにとど 大学のサークルとして、 参加者は問題の原因と解決策を 毎年代表者が変 (以下、 敬称略



2021年度代表の 松本萌子さん



2021 年度代表の 小澤俊太さん

贈呈当時の活動

想いがバトンリレーのように後輩たちにつ

ながっていました

験し感じてきたのか、

ボランティア以上の

動に携わり、2010年に帰国後、在日ブラジル人等の外国籍の子どもたちとの交流を目的とした団体を立ち上げ、現在にいたります。東海大学チャレンジプロジェクトに登録されているプロジェクトのひとつであり、主に東海大学湘南キャンパスの学生で構成されています。当時の活動人数は80名ほど。厚木市・愛川町他にあるブラジル学校等でのボランティア活動や、「マルチカルチャー・キャンプ」という母国と異なる文化や言語に戸惑い、日本の生活に馴染めていない外国籍の子どもたちに「楽しい思い出」作りをするキャンプを主催しています。

2009年に6人の学生がブラジルのコミュニティで半年間ボランティア活

贈呈理由

在日ブラジル人等の外国籍の子どもたちとの交流を中心にさまざまな活動を展開していること、地域での活動を通じて文化や言葉の違いを超えた交流とつながりを形成していることをふまえ、キララ賞を贈呈しました。

教えてください。 ―Beijo Me Ligaの活動の目的と魅力を

★澤 目的は小さいコミュニティの中で暮らしている子どもたちに、少しでも自分たちしている子どもたちに、少しでも自分たち

ボランティアな感じのプロジェクトですが、 松本 メンバーは様々な学部から集まり、

ところが魅力です。しいから、やりたいことを積極的にできる自分たちが楽しんでいることが重要で、楽

また、どんな問題を感じますか?―活動を通して、何を得ましたか?

暮らしていく上での学習環境の差が大きいて考えさせられたことです。問題は日本でても心でつながっているものがあると、改めて、のでのがあると、改めいことは、言葉を介さなく

ことです。日本は中学までは義務

教育で、高校に行くのも当然の世教育で、高校に行くのも当然の世

松本 問題はありますね。私た ちの活動の基になっていたのは、日 本に住む外国の子どもたちが色々 な事情で住みにくかったり、日本 人と話しづらかったりする壁を下

移住者は四世代になっています。…本当にびっくりしました。今、務教育の対象外であるのを知ってお外国ルーツの子どもたちは義む外国ルーツの子どもたちは義

一世代に働きに来ていた人たちのビザとか 保障はあるんですけど、その人たちが日本 に住み、子どもたちが産まれて二世代、三 世代のビザや保障はあるのですが、時が経っ て四世代まで出てきているのに、その子た ちの保障とビザなどは不安定な状況で、母 国に帰ったら、日本に戻って来られないなど の事情を知りました。

てしまうことです。ことによって、やりたいことができなくなっらしたりしていく中で、日本に馴染めないらー番の問題は教育で、日本で働いたり暮

なこと)があれば、教えてください。―メンバーに伝えている大切なこと(大事

小澤 自分は人を引っ張るタイプではなくて、どちらかといえば、幹部メンバーたちに助けてもらっています。実際問題、リーに助けてもらっています。実際問題、リーは、「みんな子どもたちのことを願って、子は、「みんな子どもたちのことを願って、子は、「みんな子どもたちのことを願って、子は、「みんな子どもたちのことを願って、子は、「みんな子どもたちのことを願って、子は、「みんな子どもたちのことを願って、子は、「みんな子どもたちのことを願って、子は、「みんな子どもたちのことを願って、子は、「みんな子どもたちのことを願って、子といます。

活動で訪問する学校は小さい子が多い



マルチカルチャー・キャンプ集合写真二〇一九年度

マルチカルチャー・キャンプの様子

堂々と活動ができ

ーに答える Bejio Me Liga メンハ います。 るようになったと聞いて 名前で受賞できたこと は、「Beijo Me Liga」の ます。先輩から伺ったの

ように続けていますか? ―コロナ禍の活動はどの

小澤 メンバーは毎週、 楽

> インで、できることをやっています。 しいことをやっています。各学校とはオンラ

に伝えたいことがありますか? ―Beijo Me Liga を通して、日本の社会

出すだけでも良い、みたいな感覚で、自由

で寛容さは上の代から変わっていないとこ

が好きなイベントや、行きたい学校に行け

メンバーも合う、合わないがあって、 いがあります。それぞれの学校に対して、

自分

日本語や英語がしゃべれる学校と違

れば行く。ミーティングも来たい時に顔を

壁を外せることを知ってもらい、少しでも ことが一番いいんでしょうけど、 小 澤 方が良いと思います。 ら当たり前に外国の子がいる社会を作った 増えれば嬉しいです。日本は小学校の時 ていける」と思えるような子が一人でも 日本人が関わることで、「日本の中で生き が違うから自分に関係ないじゃん」という 子どもたちと関わるって楽しいし、「国籍 らえればと思っています。あとは…外国の 子どもたちや環境があることを知っても Beijo に入って知ったので、まずはそういう こうした教育問題の解決に動く 自分も

小澤

受賞したことは正直、

自分を含め

なく、

今回、

このよう

全員が知っている訳でも

な記念誌のお話があっ

て、

周知できたと思い

さい

−キララ賞受賞後の変化を教えてくだ

やっていました。 友だちに誘われて、最 た。がっちり体型の男子学生は「自分は たちと関わりたい」など、さまざまでし ボランティアはしたことがなくスポーツを 内でのイベントを見て」「外国人の子ども 友人に誘われて」「Twitter をみて」「校 入ったきっかけを聞いてみると「先輩や ―メンバーの皆さんに Beijo Me Ligaに

> カルチャー・キャンプという大きなイベント 初の頃はついて行くだけでしたが、マルチ うちに楽しさを知って、続けていくきっか に参加し、向こうの学校の子たちと語る ―これから Beijo Me Liga はどうなって けになりました」と縁の下の力持ちの存 在になっているようです。

いくのが理想ですか?

ます。 小澤 良いようになることが理想かなと思ってい て、その子どもたちが少しでも良いことを もっと活動して、色んな子に触れあっ



ワークショップの様子 (黒板左側の男性は 1995 年受賞者の小貫大輔さん)



ブラジル人の子どもたちが通うひまわり学園 (群馬県) を訪問 した時の様子

を共有して、一緒に何かを学んだり作った 考えた時、 できる団体であってほしいと思います。 りしながら仲よくなれる活動がいつまでも ながりを感じてほしいので、お互いの文化 たち大学生と仲良くなって、日本に馴染め たい。Beijoのイベントに参加した時に、 たいし、 なくても楽しい思い出を作って、日本とのつ 他のメンバーからも以下の意見がありま 向こうの子どもたちの文化を知り 自分のルーツを私たちも見つけ

> 子どもたちの将来のビジョンを照らしてあ ます。 げられるサークルになっていければと思い

松本

Beijo がどんな場所だといいかなと

です。 今の先輩の雰囲気を引き継いでいきたい

異文化交流を通して Beijo のみんながよ り広い視野を持って、 うになったり、 を維持していきたいです。 しっかりと手助けできたりする環境 日本に住む外国人に対し 人と交流できるよ

取材を終えて

ラジル人」「親みたいな存在、 です。学生たちは「私が初めて会ったブ いくうえで、一九九五年キララ賞を受賞 が通じなくても共有できる何かが育ち、 らそれぞれのエピソードが生まれ、 知った学生たち。Beijo の活動の経験か て子どもたちと関わるうちに楽しさを 倒されました。Beijo に入ったきっかけは を抱いていました。ただ、一・二年生はコ いな人になりたい」とシンパシー(共感) した小貫大輔先生の存在は大きいよう 人種、 人それぞれでしたが、 キラキラ輝くおおぜいの学生たちに圧 国籍の垣根を越えた人物に育って イベントに参加 先生みた 言葉

団体からのお知らせ

私たちの主な活動は、日本に住む外国にルーツを持 つ子どもたちとワークショップやキャンプなどのイベン トを通した異文化交流です。言語や見た目にとらわれ ることなく一緒に「楽しい思い出をつくる」、「互いの文 化にふれあう | ことでつながりや学びを得ています。 他にも地域の学習支援サポーター、オンライン交流・ 勉強会への参加をしています。

私たちの活動に興味をもっていただけたら気軽にご連 絡ください!東海大生を中心としたメンバーでエネル ギッシュに盛り上げていきます!

スチューデントアチーブメントセ チャレンジプロジェクト Bejio Me Liga (ベージョ・メ・リーガ)

直接のご連絡は本プロジェクトの公式 SNS(Twitter や Instagram) のダイレクト メッセージにお願いいたします。

HP http://bml.challe.u-tokai.ac.jp/

2021 年度リーダー: 小澤俊太



を待ち望んでいる姿が印象的でした。 もたちと直に触れ合うことのできる活動 ロナ禍で活動が縮小せざるをえず、子ど

(髙橋多千美)

川岸 卓哉さん

エネルギー革命 市民のための 市民による

では、 に案内してもらいました。 梯子を上に案内してもらいました。 梯子を上に案内してもらいました。 梯子を上に案内してもらいました。 梯子を上に案内してもらいました。 「NPO法人原発ゼロ市民共同かわさき発電所」の発ゼロ市民共同かわさき発電所」の発ゼロ市民共同かわさき発電所」ので、生活クラブエナジーへ売電されています。この他にもさまざまな場所ています。この他にもさまざまな場所に二号機から四号機までの発電所設立へに二号機から四号機までの発電所設立へに二号機から四号機までの発電所設立へに二号機から四号機までの発電所設立へ

> れていたのですか? たということですが、どういう活動をさ ―東日本大震災の後、まず現地に行かれ

活動をしたりしていました。に発表したり、大船渡で災害ボランティアの災者について現地調査を行い、司法修習生だったんですが、岩手や宮城の被災地・被だったんですが、岩手の宮城の被災地・被



インタビューに答える川岸卓哉さん

贈呈当時の活動

福島にも行かれたんですよね

の道のりを創立者で弁護士でもある

川岸卓哉さんに伺いました

量が高くて、立ち止まることすら怖い土地

東北の中でも当時の福島は放射線

川崎合同法律事務所、弁護士。NPO法人「原発ゼロ市民共同かわさき発電所」理事長。地域の憲法カフェ等で講師を務めるなど市民・働く人の生活に寄り添った活動を進めています。

早稲田大学法学部卒業、日本大学法科大学院卒業後 2011 年より弁護士登録。司法修習中に福島第一原発事故が発生。被災地ボランティアに行き、弁護士になってからは、福島原発事故被災者の集団訴訟に関わっています。その後ドイツのエネルギー視察を契機に、2013 年夏から、「原発ゼロへのカウントダウン in かわさき」実行委員会の有志等と共に、「川崎自然エネルギー」を経て、「原発ゼロ市民共同かわさき発電所」を発足しました。市民発信という点に力をいれ、地域の課題解決に取り組んでいます。

贈呈理由

川崎市に根ざし、弁護士としてまた一市民として活動していること、若い発想で、多くの人を巻き込みながら活動を広めていることをふまえ、活動の継続性を期待し、キララ賞を贈呈しました。



発電所 1 号機

ン・・・かわさき」の集会を開かれましたが、

は被災地というより、入ることもできない でした。原発というのは当時の感覚として 恐ろしい場所だ、という経験をしました。

弁護団に入ったのですね。 ―そして福島の被災者による集団訴訟の

たちが、立ち上げた弁護団でした。 に対して強い問題意識をもっていた弁護士 ぐに入りました。東日本大震災、原発事故 済するかという弁護団ができて、そこにす てから、福島の原発被害者の方々をどう救 そういう経験があったので、弁護士になっ

―その裁判が今でも継続しているんで

責任を明らかにするところに一番重点をお も必要なんですが、裁判の意味としては、 ています。賠償もしつかりするということ いています。 任を認めるという判決が比較的主流になっ ています。国と東京電力の事故に対する責 たが、高等裁判所段階ではまだ判断は割れ そうです。今、最高裁判所まで行きまし

―二〇一二年に「原発ゼロへのカウントダウ

そこに一六〇〇人も集まったのですね。

ければならない、という市民意識が芽生え た大きなきっかけだと思うんですね。 はなく自分たちのことは自分たちで決めな 国のいうことを信じてはダメだ、国任せで 福島第一原発の事故は、 原発に対して、

りやりたい、という動きができました。 流れがあった中で、川崎でもそれをしっか 起きました。それだけの大きな市民運動の ないという人たちの、すごく大きなデモが めて、何かしたい、居ても立っても居られ なくて、市民運動などの経験のない人も含 それは今まで活動しているような人だけで もしれないという事はみな同じだったので、 放射能汚染で、自分たちの身が危ないか

てます。 いう一致点で広がった、大きな熱意のある う思いで、みんなで一緒にやっていこうと 方々の集会でした。それはもう一○年続い 多様な人たちが原発をなくしたいとい

という活動をしていたんですね -それで国会前と川崎駅前で訴えていく

思います。 でも少なくても月一回以上集まっていたと まず国会前では毎週金曜日に、 川崎駅前

「イツに再生可能エネルギーの研修に行く機会がありまして、それで、有名な映画「シェーナウの想い*」の舞台となった場所に行きました。ドイツはチェルノブイリ所に行きました。ドイツはチェルノブイリ原発事故の時、放射性物質が飛んできて、かなり汚染されたんですね。それで反原発の運動が盛り上がったのですが、反対運動だけだと続かない。だから市民で再生動だけだと続かない。だから市民で再生をひろめようという動きになりました。それによって再エネが広く普及していたので、福島原発事故を受けて、ドイツのメルケル首相はいち早く「脱原発します」と方が首相はいち早く「脱原発します」と言言できたんですね。

きになりました。同発電所を、川崎でもできないかという動同発電所を、川崎でもできないかという動ということを学びました。研修後、市民共方で、着実に再エネを増やす運動も大切だがイツでは、反対運動をひろげていく一

けだったんですね。 ―それが「市民発電所設立」のきっか

集会をやっていてもやはり風化を感じています。集会の参加者数が減る、また一方では再稼働の動きがある。どういう形でみなさんの想いを維持できるか、希望をつないでいくか。市民発電所で希望をつないでいてもやはり風化を感じて

というのはいつでしたか?れたそうですね。光明が見えてきた瞬間のキックオフ集会を各地でたくさん開かのキックオフ集会をの地でたくさん開か

何回か学習会をしている過程で、自分に声かけをしているとうことがひとつの光明でした。誰かはました。それをきっかけに団体を立ち上げたことがひとつの光明でした。誰かに頼るというか、いろいろと動いているうちに同じ思いの人と出会うことがある。 そういう人のつながりっていうのは常に学びがあるし、出会いがあって、その後のびがあるし、出会いがあって、その後のでがあるし、出会いがあって、その後のでがあるし、出会いがあって、その後のがあるし、出会いがあって、その後のでは、

ことも多いですよね。どうしてこんなにらとか、よくわからないとか、言われる一緒にやろうと言っても、時間がないか―つながり作りが重要なんですね。でも

集まったのですか。

声をかけた人が全員やってくれたわけがあると思うんですよね。

完成したんですね。──それで二○一五年一月に、第一号機が

川崎市は田舎と違って市街地ですから土地柄、発電場所が取りづらいんです。でもクオフ集会に参加してくれて、そのマンションの屋上を提供してくれることになったんです。なかなか場所を押さえられないなかです。なかなか場所を押さえられないなかしれないですね。

二○一五年から開催されていますね。 — おひ さ ま フェス× 星 空 上 映 会 も

再エネに無関心な方や関心はあるけどよ

再エネというのは大企業がメガ

てもらえればいいと思っています。を心がけています。なにか学びを持ち帰っくわかっていない方を対象とした場づくり

-キララ賞受賞後の変化はなにかありま

上舌クラブと全国を引催したり、上舌クました。もっとがんばろうと思いました。ました。もっとがんばろうと思いました。ましたね。というメッセージをすごく感じまず気持ち的に励まされました。「応援まず気持ち的に励ま

その後の活動に広いつながりができました。基金の選考委員を担当したりしています。ラブエナジーに売電したり、生き活き市民生活クラブと企画を開催したり、生活ク

※チェルノブイリ原発事故後、ドイツにあるシェー

くドキュメンタリー。住民たちは、「節電キャナウというまちで立ち上がった住民たちを描



の電力料金体制の導入を地元の電力会社に要

電力供給会社に原発に頼らない電力供給、エ

ンペーン」や「節電コンテスト」をきっかけに、

コ電力の買取価格引き上げ、節電を促すため

ちで電力会社をつくる」ことを決心したシェー請するも拒絶されてしまう。 そこで「自分た

力会社を設立する。

ナウの住民たちは、

自然エネルギー中心の雷

となってまた多くの人とつながって きたという川岸さん。活動を積み 普及活動イベントの三本柱でやって が参加するプロセスも大事だと考 です。エネルギー問題について住民 からは今日も太陽光の恵みが電気 して情熱が人を動かす。 重ね、求めて動けば出会える、 え、事業と政策提言と市民向けの そうという、二つの潮流があるそう 財産を市民が再エネという形で生か ソーラーを作るパターンと、 人の思いが詰まっている市民発電所 (荒井喜久美 たくさんの そ

団体からのお知らせ

〇会員募集

正会員5000円/年、サポーター会員1000円/年。 会員希望の方は、ホームページからお申し込み下さい。

○4号機の協力金を絶賛募集中 1口50,000円/5年後返済。 協力金にご協力いただける方は、ホームページを ご覧下さい。

NPO法人 原発ゼロ市民共同かわさき発電所

〒 211-0013

川崎市中原区上平間 184-1-1002

TEL 090-7948-6189 (川岸)

HP https://genpatuzero-hatuden.

jimdo.com/

理事長:川岸 卓哉

小

子ども・若者たちに寄り添 ろいろな環境の中にい

ちを伺いました にいる子ども・若者たちを想う気持 れました。小川さんの、 いう優しさの中に、 そのまんまの自分でいる、背伸びしな ちょっと年上の存在。高校生に対して、 ます。そこで活動している小川さんは、 運営している『ぴっかりカフェ*』で 由 な居場所となる図書館があり 横浜市のある高校では放課後、 飾らない等身大の姿で接したいと 思い思いのことをして過ごしてい そこは「NPO法人パノラマ」 放課後になると生徒が集まってき 熱い想いが感じら 様々な場所 が ŧ 自

*

高校の図書館「ぴっかりカフェ」 で活動する小川杏子さん

NPO 法人パノラマ(石井正宏代表理事は 多様な人が関わる事で、 フェを運営しています。 和東高校のラウンジで「BORDER CAFE」を キララ賞選考委員)では、二〇 活動をしています。小川さんは、パノラマに デルに出会い、 や放課後に生徒が気軽に来られる居場所カ オープンさせ、それぞれ週に一日、お昼休み カフェ」、二〇一七年六月には神奈川県立大 に神奈川県立田奈高校の図書館で「ぴっかり カフェでの支援に携わっています。 さまざまな体験を提供する 親や先生だけでない たくさんのロールモ |四年||月

贈呈当時の活動

寄付金・ボランティア参加はこちらから・・

https://npo-panorama.com

2011 年東日本大震災をきっかけに福島の子どもたちの保養活動を始 め、川崎市の様々な活動団体と連携し震災経験を風化させない活動 を行っています。これまでの主な活動は以下の3つが中心です。

- ●福島の子どもたちの保養活動(主催:「福島の子どもたちとともに」 川崎市民の会)
- ●イベント「おひさまフェス×星空の下上映会」の開催
- ●「工房えんかける」の運営(勉強会、読書会など)

上記3つの中でも、福島の子どもたちの保養活動が中心的な活動で す。小川さんの役割は、ホームページ/メーリングリストの運営と若 者の活動促進であり、その延長上にイベントの開催や工房の活動が あります。川崎市民の会では、20代から30代の若者世代と保養活 動をつなぐ役割を担っています。お茶の水大学大学院博士課程の研 究者として、トルコ民族問題の知見も深めつつ、この市民活動を継続 することでお互いに触発しあい、大学院卒業後もメッセージを発信し ていきたいと活動を続けています。

贈呈理由

福島の子どもたちの保養活動を小 川さん個人一人で進めるのではな く、小川さんが神奈川の各関連団 体との懸け橋になることで、いろ いろな思いをうまく繋げて形にして いること、周囲の人たちの意見・ 要望をまず受け入れ聞く耳を持つ 姿勢が、誠実な人柄としてその周 囲の人たちに受け入れられ、強い 信頼関係に繋がっていることをふ まえ、キララ賞を贈呈しました。

を教えてください。 ―最初の活動である、福島県の被災者の

で」という話とか、日立市にある従姉妹で「なにかよくわからないことが起きた私が小五の時に東海村の原発事故があっなが起きました。で「なにかよくわからないことが起きたのあとに原のでは、

の家が、警戒区域範囲内に入ったりする中



ぴっかり図書館の中にある「ぴっかりカフェ

こ。言われたことなどをすごく思い出しましまくわからないけど外に出ちゃダメと親にで、子どもながらに不安な気持ちになり、

福島でも、同じように子どもたちが外に出ちゃダメなど、いろいろ行動が制限されているんだろうなというのがとても気になり、原発事故が自分事になっていました。その後、原発事故による影響を家族から心配され、茨城から大学がある神奈川ら心配され、茨城から大学がある神奈川らない。地元に戻れなくなって家族と会えなくなるかもしれないと不安でした。人暮らしだったのであまり人とのつながりもありませんでした。

きっかけで保養というものを知りました。 その中で行きはじめたのが、神奈川県ユニセフ協会でやっていた本の仕分けのボラン うに通い詰めました。 それは不安を紛ら わすためでもあったんですが、やっている中で、夏に川崎の人たちとサマースクールやるからお手伝いしない?と言われたのが、神奈川県ユ

ての三・一一だから、小川さんの中での不一小さい頃の東海村の経験というのがあっ

かったんですね。安な気持ちが普通に考えるよりずっと重

原発が良い悪いとかその時考えたわけ原発が良い悪いとかその時考えたわけんだろうという感じのモヤモヤ感がありんだろうという感じのモヤモヤ感が起きではないんですが、また原発事故が起き

さい。一保養について、くわしく教えてくだ

美の行き先がないのです。 二○一一年七月から「川崎市民の会」と は子どもたちだけで来てもらって、外遊び などをしたりしていました。そこから数 年が経って若いボランティアさん同士で「自 分たちでも何か続けていかないといけない よね」という話をするようになりました。 小さい子ども向けの保養は多かったのです が、最初に来ていた小学生の子どもたちが 中学生や高校生になった時に、なかなか保 養の行き先がないのです。

ちょうどその頃、OurPlanet-TVの白石

草さんの取材で、甲状腺のがんの診断をでいまキャラバン』を立ち上げました。 ではり小さい頃保養していたから終た。 やはり小さい頃保養していたから終た。 やはり小さい頃保養していたから何かあった時に不安になったり、避難されてまた戻ってこられたりなど、いろいろしている中で、当事者が意外と気持ちを吐き出せないでいることを目の当たりにしました。「中・高校生世代がリフレッシュできるた。「中・高校生世代がリフレッシュできるた。「中・高校生世代がリフレッシュできるだがまキャラバン』を立ち上げました。

すね。 ―気持ちを吐き出せない子がいるんで

はい。友だちと離れて転校することに関して、「お父さんお母さんが、自分たちのためを思ってやってくれたから、嫌だとは言えないけど、どこかで、何で離れなきゃいけないんだろうとか、小さい頃、そういいけないんだろうとかで、何で離れなきゃいけないんだろうとか、小さい頃、そういいけないたんだよね…」という話を大きくなってから言う子もいます。

もあるのかなと思ったりはします。保養のなくても、大きくなったから話せることやはり時間が必要ですよね。すぐ話せ

場は、同世代とか私より下の年齢のボランティアさんもいるので、いろいろな出会いを通して自由におしゃべりしている中で、いを通して自由におしゃべりしている中で、いきに、同世代とか私より下の年齢のボラ

キララ賞の副賞で賄っていたんですね。―その大きくなった子どもたちの保養を

んですね。

はい、そうですね。

たか? ちょうどトルコに行かれている時でしーキララ賞にエントリーしている頃は、

大学院に入って、トルコのクルド人の問題大学院に入って、トルコのクルド人の問題なきゃいけないんじゃないか、記録を残していかなきゃいけないんじゃないか、記録を残していかなきゃいけないんじゃないか、記録を残していかなきゃいけないんじゃないか、記録を残していかなきゃいけないんじゃないかというないがありました。

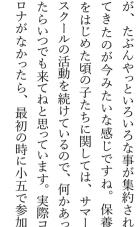
められて、家の取り壊しをされてしまうな地域でした。そこでは開発がどんどん進めに自分たちで家を建てて住んでいるよう

事に抵抗している人たちがいました。住んでいる環境や状況が安定しないと、そのしたいう目的で行ったんですが、結局気づいたら子どものことが気になっていました。お父さんお母さんは揉め事があった日はイライラしていたり、余裕がなかったりしたので、子どもたちに私から「遊びに行こので、子どもたちに私から「遊びに行こうよ」と連れ出すようなことをしていた

要だというのは、ずっと同じ想いとしてあ められたり、支えてくれたりする人が必 なと思います。 舵を切ったのはこうした経験が大きかった がたくさんあるなと思うので、こちらに でもその一方で現場じゃないとできない事 して社会に発信するのは大事なのですが、 だなと思いました。研究でまとめて発表 ります。やっぱり私が気になるのはこちら のは子どもたちになってしまう。そうじゃ 庭とか、子どもの置かれた環境がギスギス なくて、その子たちもどこかに助けを求 なかったりすると踏ん張らないといけない していたりとか、家庭に落ち着く状況が 自分たちじゃどうしようもないことで、家 は、根底では同じようなことが起きていて、 福島のこととか、ぴっかりカフェの活動

と尽くしていらっしゃるのですね それで小川さんが今できることをちゃん いろんな経験をされて学んで、 見て、

整理がついてないところも正直あるんです どうお話したらいいのか自分の中でも たぶんやっといろいろな事が集約され 実際コ サマー



それはぴっかりカフェの高校生に対しても ても嬉しいので、そういう風にゆるくつな ずっと続いていくっていうのは私にとってと してくれる予定だったんです。つながりが がっていけたらいいなと思います。 してくれた子が大学生ボランティアで参加 緒かなと思います。 たぶん



ぴっかり図書館に入りやすいように入口にあるイラスト

取材を終えて

を作って、 そして、 ロナで止まっていますが、その年齢だ う共通の想いがありました。保養は「 後が楽しみです。 ながら、前を向いて進む小川さんの今 めざしています。 な想いがあったのか記録に残すことを からこそのいろいろなことを話す機会 添って、支援のお手伝いをしたいとい ない環境の中にいる子どもたちに寄り 根底には、 たちに向き合っている小川さん。 ただいまキャラバンでは福島の子ども ぴっかりカフェで高校生に向き合い 福島での出来事の中で、どん 自分ではどうしようもでき 何らかの形で継続したい いろいろな経験をし (荒井喜久美

ただいまキャラバン

〒 214-0014

川崎市多摩区登戸 2258 ハウス 911 NPO 法人ぐらす・かわさき気付 (こちらを拠点として利用しています)

HP https://tadakyara-55.jimdofree. com/

代表:小川 杏子



団体からのお知らせ

ただいまキャラバンでは、サマースクールを毎年 開催しています。(※コロナの状況によっては中止) サマースクールのボランティア参加やご寄付とい う形で応援いただけますと幸いです。 どうぞよろしくお願いいたします。

○郵便振込

【店番】098 【預金種目】普通預金 【口座番号】3172116 【加入者名】ただいまキャラバン

加藤 功甫さん

地域のハブ拠点からミライへ多様性を受け入れ融合する

顔で出迎えてくれました。 横浜市西区、日の出町駅からランド 横浜市西区、日の出町駅からランド

CASAKOという 「居場所」を中心に立ち上げた NPO 法人 Connection of the Children 通称 C oC (ココ)を運営し、多彩な活動を展開しています。その活動の原点となるのは、二〇一一年に友人との原点となるのは、二〇一一年に友人という 「居場所」を中心を対した「ユーラシア大陸三一年に友人という」を関いています。

インタビューに答える加藤功甫さん

一学生時代に行った「ユーラシア大陸横断の旅」から活動につながった経緯を教
然てください。大学院に入った一年目を休学して世界を
えてください。

していたこともあり、

旅に出る前から、

何

贈呈当時の活動

多世代多国籍の地域交流拠点として 2016 年にオープンした古民家「CASACO」(カサコ)で、子ども、地域住民、旅人(海外から日本を訪れる方の総称)の3者をターゲットとし活動。1階部分で地域の方による日直制のカフェや放課後の子どもの受け入れを週5回程度行っています。また、2階は海外からのホームステイの受け入れを実施しています。世代や属性間でつながりのなかった地域活動のハブとして、異なる価値観、文化を受容し合い人と人が出会うことのできる場所を目指し活動を行っています。

贈呈理由

現在の若者に多く見られる SNS などのインターネット上での交流ではなく、町内会など地域の人と顔を合わせて時間をかけて信頼形成するなど直接的なつながりを大事にしていること、海外の方との交流をつくることで広く世界とつながっていること、町内会に何が必要かを丁寧に聞き取り地域を大切にすること、子どもが参加できることをふまえ、キララ賞を贈呈しました。

緒に旅をしてきます!」と。 緒に旅をしてきます!」と。 お子どもたちと一緒にプロジェクトができないか、何を伝えると面白いのかと考えていいか、何を伝えると面白いのかと考えていいかりを視覚化できないかと思ったのが『糸がりを視覚化できないかと思ったのが『糸がりを視覚化できないかと思ったのが『糸がりを視覚化できないかと思ったのが『糸がりを視覚化できないがと思ったのが『糸がりを視覚化できないがと思った。「みんなの結んでくれた糸と一緒に旅をしてきます!」と。

りの楽しさや、そのつながり作りを伝えどもたちに、旅から学んだ人とのつなが中で、現地での人との出会いや生き方がす中で、現地での人との出会いや生き方がすりの楽しさや、



糸つなぎの糸玉

Children の活動のきっかけになっています。その後、この活動に共感してくれた方がた募して「糸つなぎ隊」となり、現在も国内外を旅しながら「糸つなぎ」を行っています。また、糸つなぎのウェブサイトも制ます。また、糸つなぎのウェブサイトも制作中です。今は一万二六四五人(九三か国)がつながり、糸玉がこんなに大きくなりました(左上写真)。

プロジェクトに拡がったそうですね。と挑戦の基地ミライへのアソビバ』という一旅の報告会からさらに、『タビノバ』、『知

旅の後、いろいろな小学校で報告会をさせていただく中で、世界の話や子どもたちが海外に興味を持ってくれるようなプログラムをやらせていただきました。主に放課後の"はまっこふれあいスクール"や"放課後の"はまっこふれあいスクール》や"放課後れで開催しています。そこからもっとプログラム化した教育プロジェクトとして半年、一年というプランを作り、いろんな学校に届けというプランを作り、いろんな学校に届けるようになりました。

広げて挑戦できる場所ということで『知とは、学校での『タビノバ』からもっと世界を二〇一六年 CASACO がオープンしてから

ンのように旅に出て世界を知りに行こう

は世界を知るだけでなく、実際にインタービターン』という企画を行っています。これ

その他に、今はコロナで休止中ですが、『タ

よ!ということで、今まで東京の離島、



小学校での報告会の様子

挑戦の基地アソビバ』という名前の塾を立ち上げました。ここは勉強する塾ではなく 挑戦する塾です。親から促されて来るのではなく、自分が来たいという気持ちで入ることを尊重しています。二○二○年からはオンラインを整備して仲間を集められるようになりました。

子どもたちの世界を拡げていろいろなことを伝えるのがいいかなぁと思ってます。 みいという想いがあります。子どもの前で僕いという想いがあります。子どもの前で僕いという想に失敗していて、「失敗したらごめんね。僕も間違えるんだよ」と。子どもたちの世界を拡げていろいろなこ子どもたちの世界を拡げていろいろなこ子どもたちの世界を拡げているいろなこ

根島と、タイの二か所に行きました。

まつわるエピソードを教えてください。─二○一六年、CASACO オープンに

ここは、ランニング中に通りかかった時にみつけたご縁から、大家さんのご厚意で話みつけたご縁から、大家さんのご厚意で話みつけたご縁から、大家さんのご厚意で話の進みました。当時二階に住みながら一階間も集まってきたり、建築家の方とつながって改装までできてしまいました。とてもいい方で今は仲良くさせていたた。とてもいい方で今は仲良くさせていたにいていますが、最初は警戒されていたようです(笑)。東ケ丘は、代々長く住んでいるのが一番と考え、町内会長を訪ねました。とてもいい方で今は仲良くさせていたようです(笑)。東ケ丘は、代々長く住んでいるのが、大家さんのご厚意で話している。

の新聞「NOGEYAMA」を作成しました。二○一四年から毎月発行し、今は八八た。二○一四年から毎月発行し、今は八八た。二○一四年から毎月発行し、今は八八で始めました。少しずつ、我々がハブになって新規住民とつながり始めていることを体でが、まずは「いん」と作成しまして新規住民とつながり始めていることを体である。

からの企画について教えてください。一『タビノバ』、『知と挑戦の基地アソビバ』

子ども目線でまとめた「子どものための子ども目線でまとめた「子どものための「まちづくり」に関わっています。『夕でノバ』などでつながった横浜西口学区内の小学生にアンケートを取り、そこから編集者募集で手をあげた二〇人の子どもたちと一緒に。アンケート結果をもとに、自分が生まれた西口エリアにいろんなおすすめがあることを、生粋の横浜西口っ子たちが作った。子どもたちにとって安全な街だと感でき、子どもたちにとって安全な街だと感じてくれれば嬉しいですね。

女の子がCASAKOで毎月企画しているというレシピ本なんです。表紙に写っているきっかけになったのは、『世界の朝ごはん』話が前後しますが、ガイドブックを作る

課題と知り、その橋渡しができればと地域

ありません。新旧のつながりがないことがる方が多い地域ですが、新しい方も少なく



CASAKO が発行した 『世界の朝ごはん』

『世界の朝ごはん』のイベントが好きで遊びにきてくれていました。のちに『アソビバ』りたいと。彼女と当時高校生だったもう一りたいと。彼女と当時高校生だったもう一人の女の子で、一から全部取材をして記事をまとめ、朝ご飯だけでなく、その国の紹をまとめ、朝ご飯だけでなく、その国の紹の女の子で、一から全部取材をして記事

マネジメントと連携して活動しています。パートナーの一般社団法人横浜西口エリアに選ばれました。これがきっかけで、運営「神奈川県児童福祉審議会推薦優良図書」

事はなんでしょうか。 一今後やりたいこと、目指していきたい

トです。 ・です。 ・である。 ・でる。 ・で。 ・でる。 ・でる。 ・でる。 ・でる。 ・で。 ・で。 ・で。 ・でる。 ・で。 ・で。 ・で。 ・で。

横浜西口の汚い川が透き通っていて、水



CASAKO でのライブ風景



CASAKO 風景

取材を終えて

「もしも自分や子どもたちが、加藤さ

も時代を過ごせたかも」と、加藤さんに 明るい未来のために活躍していただき 溶かす人類愛。加藤さんの活動の源に触 なったと。多世代多国籍の見えない壁を があり、つらい体験を感謝できるまでに ました。その経験があったからこそ今 こんだりすることもあったとお聞きし たり、CoC運営の初期は人間関係で 途中で何度か死を感じた場面に遭遇し と感じました。そんな加藤さんも旅の 音に言う加藤さんの人間力(=旅力)は、 出会った人は皆、思うそうです。異口同 んに出会っていたら、もっと楽しい子ど たいと願います。 た取材となりました。子どもたちの oCの活動の魅力に反映されている

組みとつながっていこうかと考えています。 したいポジティブな未来を描いてもらう。 それを実現するために何ができるか考える。できることをやってみて小さな成功体験をかさね、自分の描いていた想いが実現していく。プロジェクトでそんなことが具していく。プロジェクトでそんなことが具しまうのですが(笑)。まずは、世界の仕しまうのですが(笑)。まずは、世界の仕れないかと思います。壮大すぎて笑われてしまうのですが(笑)。



特定非営利活動法人 Connection of the Children

〒 220-0033

横浜市西区東ケ丘 23-1

TEL 045-315-4137

HP https://coc-i.org

代表:加藤功甫



団体からのお知らせ

私ども Connection of the Children は、皆様の寄付により、活動を続けさせていただいております。心より感謝しております。認定 NPO 化や活動の幅を広げるためにも、ご支援をいただけますと幸いに存じます。

寄付はこちらからお申込が可能です(https://coc-i.stores. jp/ クレジットカード、コンビニ決済なども可能です)。

これからもよろしくお願い申し上げます。

学生団体 My Own Place(略称:MOP)

「ホッ」とできる居場所をつくる子どもたちとお母さんたちの湘南台・東勝寺で



MOP 代表理事 田島圭祐さん

昔から社会的活動、コミュニティ活動をMOPに活動場所を提供しています。 子どもたち、そして子どもたちを支える保護者の方にとって、この居場所はどのような場所なのでしょうか。活動のどのような場所なのでしょうか。活動の経緯、活動でのエピソードなど、お話を経緯、活動でのエピソードなど、お話を

り、ご飯をたべたりすることができる取もたちが学習支援を受けたり、遊んだ相南台にある東勝寺で月二回、子ど

みを進めるのが学生団体 MOP です。

外国人労働者が多く住む湘南台で、

り組みが行われています。

その取り組

贈呈当時の活動

学生団体 My Own Place (略称: MOP) は学習支援や子どもが遊べてご飯を食べられる居場所づくりに取り組んでいます。2016年7月から湘南台にある東勝寺で活動しています。現在は、大学卒業後も代表理事として関わっている立ち上げメンバーと現大学生のメンバーで月2回活動を行っています。2017年度にキララ賞を受賞しました。

贈呈理由

学生が主体となり、地域の人の応援、企業のサポートを受けながら地域を大切にして、おおぜいの人の参加と連帯をつくる活動ができていること。お寺や教会といった古くからあるコミュニティと大学生が協同する斬新でユニークな活動であること。自らの経験にも依拠しながら困難な家庭環境にある子どもたちに家庭や学校とは違った居場所を提供・支援していること。子どもと接するうえで、大人や友人とは異なる大学生という独自の立ち位置(ナナメの関係性)から支援できていることをふまえ、キララ賞を贈呈しました。

いを持つ仲間をどのようにして集めまし −二○一六年からの活動ですが、同じ思

使ってメンバーを集め、活動拠点が決定し、 メンバーは二人でした。フェイスブック等を 二〇一六年三月団体を立ち上げたとき、



学習の風景

子どもたちはどう過ごすのですか。

子どもたちは学習指導を受けたり、

遊

動をスタートさせました 二〇一六年の七月から一五名程の学生で活

うにして決まりましたか? -活動拠点となる東勝寺ですが、どのよ

きました。 関わる人々に私たちの活動を理解していた ミュニティづくりを行っていたこともあり、 るからです。住職の方が社会的な活動やコ 湘南台には多くの外国人労働者が住んでい 住職の方は、東勝寺で外国人のお子さん いうところも気に入っています。東勝寺の 掘りこたつで座りやすく、床暖房付きと た。正座に慣れていない子どもたちも だくうえでも、 だけることになりました。地域やお寺に 私たちの活動に賛同し、場所を貸していた 向けの日本語教室を開催していました。 や教会がとても多い地域です。お寺に一三 か所程電話をして、東勝寺に決まりまし んでいたのが湘南台でした。湘南台はお寺 立ち上げメンバーが大学一~二年の間 住職の方にご協力いただ

> 進んでいる子もいます。 てくれる子もいます。大人数でやる遊び ることは一七時にみんなで「いただきま んだり、自由に過ごします。唯一決めてい ます。中には料理に興味を持ち料理の道に 小学校高学年や中学生は、調理を手伝っ す」をして夕食を囲むことです。普段は 大学生と話しながらお手伝いをしてくれ などになかなか馴染めない子もキッチンで 二〇人分、多いときは四〇人分の食事を 四時からお寺のキッチンで調理します。

バーをどのようにして集めましたか? 立ち上げ当初のメンバーは、新たなメン

動のメンバーを増やしています。 学一年から活動に参加しています。松山さ 学生代表の松山さんは、立ち上げメンバー んも同じ学生寮の仲間に声掛けをして活 に作成したチラシを配布し熱心に声掛け 校に訪問した際、藤沢市のお子さん向け の佐藤さんの高校の後輩です。遠く離れた が広がっていくケースも多いです。 現在の していますが、学生の口コミでメンバーの輪 しました。チラシを見た松山さんは、大 北海道の高校ですが、佐藤さんが出身高 現在もフェイスブック等でメンバーを増や

てほしいことは何ですか?―子どもたちに伝えていること、大事にし

ほしいし、そういう場を作っていきたいな 生活する環境は主に家庭と学校ですが ちも成長したな」と感じます。子どもが を伝えることが大切だということです。 と思っています。 多様な価値観を共有できる場所であって ます。さまざまな人々と出会う場なので 支援する側は大学生から地域の方々もい ここでは、 ら挨拶をしている姿をみると「子どもた もたちが初めて会った檀家さんに自分か なんだ」ということを理解することにつ たくさんの人たちに支えられている場所 MOP を利用する子どもたちが「ここは 住職や檀家の方々に挨拶や感謝の気持ち ながっていると感じています。実際、子ど Ŧī. 年間の活動を通して思ったことは、 未就学児から高校生が参加し、

印象に残っているものはありますか?―子どもに言われてうれしかった言葉で

件に関心をもってくれたこと、自分がいるれたことがありました。社会で起きた事子どもが児童虐待のニュースを語ってく

家庭だけが社会の全てではないことを知る家庭だけが社会の全てではないことを知るたってです。また、「家の中では暴れて親にかったです。また、「家の中では暴れて親にた子が少しずつ他の子に思いやりを示す場を見つけたうえで進路を決定する場面に立ち会うことができたことも嬉しかったです。他には、中学校から通っている高校生す。他には、中学校から通っている高校生からに「私、大学生になったら MOP の子に「私、大学生になったら MOP の子に「私、大学生になったら がいエピソードで、「この先も続けていかなたいエピソードで、「この先も続けていかなたいエピソードで、「この先も続けていかなきゃ」という決意ができました。

とは多くありますか? ―活動の中で保護者の方と話をされるこ

「心が救われた」と話してくれた時、この小学校高学年以上の子は一人で来て、一角はるので保護者の方と話す機会はあまり多くありません。ただ、お母さんがおります。一三時から一九時までお子さんを別けると、お母さんもリフレッシュしてくれます。それは立ち上げたときは想像もしていなかった学びでした。お母さんが私たちにいなかった学びでした。お母さんが私たちにいがなかった学びでした。お母さんが私たちにいが救われた」と話してくれた時、この小学校高学年以上の子は一人で来て、一小学校高学年以上の子は一人で来て、一



東勝寺の入口には子どもたちが入りやすいよう 看板を設置している。

ことを感じ、嬉しかったです。
活動がお母さんにもプラスに作用している

動はありますか?かなか難しいと思います。今後やりたい活かなか難しいと思います。今後やりたい活ていますが、コロナ禍で以前のようにはなー二○二一年一○月から活動再開と伺っ

の再開を目標にしたいと思います。コロナ禍すのはすぐには難しいと思いますが、食事囲むことです。メンバーが調理したものを出この活動で大事にしていることが食卓を



東勝寺

団体からのお知らせ

当団体は、毎月第二・第四土曜日13:00~19:00^{※1}に藤沢市の東勝寺で子どもの居場所「湘南台MOP HOME~寺子屋~」を開催しております。18歳以下の方であれば、どなたでもご参加いただけます。

当団体は、みなさまからのご支援ご協力なしには成り立ちません。継続的な活動のために、ご寄付を随時募っております。 詳細は、下記HPをご参照ください。

https://congrant.com/project/ myownplace/1477

また、野菜等の食材提供**2もお待ちしております。食材のご寄付をお考えの方は、下記アドレスまでご連絡ください。 myownplace.329@gmail.com

※1:新型コロナウイルス感染症の状況により、中止または開催時間の短縮を行う場合がございます。最新の開催状況はHPをご確認ください。

※2:感染症の状況によっては、食事提供を中止する場合がございます。その場合、ご寄付をお断りする可能性があることをご了承ください。

けたらいいなと思っていますけたらいいなと思っています。この場所に来る子どもたちのもあります。この場所に来る子どもたちのもあります。この場所に来る子どもたちのもあります。この場所に来る子どもたちのに、非日

取材はオンラインで理事の田島さんといました。現地取材は田島さんに対応しいました。現地取材は田島さんに対応しも素敵な場所でした。取材当日も新しい手作りの食事の再開も少しのメニューからですが始まったそうで、とても嬉しくらですが始まったそうで、とても嬉しくらですが始まったそうで、とても嬉しくらですが始まったそうで、とても嬉しくらですが始まったそうで、とても嬉しくらですが始まったそうで、とても嬉しくらですが始まったそうで、とても嬉しくらですが始まった。東勝寺は静かでとてます。田います。田います。コロ

活動が戻ってくることを願っています。

ナがなくなりまたにぎやかな東勝寺での

学生団体 My Own Place

〒 252-0802

神奈川県藤沢市高倉258 東勝寺 HP https://mop-fujisawa.net 代表:李 紀慧 佐藤 彰恵 田島 圭佑



割田 大悟され

居場所づくりを続けて当事者だからこそのほっとできる空間を必要な方へ

ケアと同じように、 こもり当事者会などを調べ、 りを経験されました。 うことができ、 心の整理につながったそう たりするうちに、しだいに自分に向き合 極性障害と診断され、その後、 大悟さんは、 |○||七年度キララ賞を受賞した割田 多くの人に体験を話したり相談し 割田さんは一人ひとりに向き合う 東京の公立大学在学中に双 当事者同士が集う居 当時、 参加するよ 自身でひき ひきこも



インタビューに答える割田大悟さん

贈呈当時の活動

場所の必要性に気づいたと言います。

2015 年、当事者会で出会った 4 人と、横浜市内で『ひき桜』in 横浜を立ち上げました。その後、市内で『ひき桜』、東京都町田市で『ひき町』の 2 つの当事者会を開催するに至りました(現在『ひき町』は運営を他の方に引き継ぎ、コーディネーターとして活動)。場づくりの他に、ピアサポート*学習会『ひきこもりピアサポートゼミナール』を行っています。また、ひきこもり当事者以外の方からの要望で、だれもが参加できる『みんなのピアサポート』も開催。ひきこもりに関する理解の促進やピアサポートの普及啓発を行っています。

※ピアサポート peer support とは「似た経験を持つ人同士による支え合い」のこと。「peer」は「仲間」、「support」は「支え合い」。現在は、性的マイノリティの方、がん・難病患者、産前産後に悩む親なども取り入れている。

贈呈理由

ピアサポーターとして「ひきこもり」といった困難な課題を抱える当事者一人ひとりに寄り添い、当事者同士をつなぎ合わせ居場所を提供していること、既存の枠組み・価値観にとらわれず、互いが支え合う新しい社会のあり方、多様な価値観、オルタナティブな生き方を提示した活動であることをふまえ、キララ賞を贈呈しました。

の状況を教えてください。 ―キララ賞を受賞されるまでの割田さん

自分が「双極性障害」と分かったのが大学四年生の頃です。気分の波があったり、大学の人間関係に疲れたりして精神的にまたが、その一に行きました。そこでの診断により薬を処方されたのですが、その副作用でよけいにうつ状態が酷くなり、だんだん外に出られなくなってしまいました。季節により、育夏は比較的大丈夫なのですが、秋冬は活動できなくなるということを毎年繰り返していました。

いた時期もありました。てしまい、生きることをやめようと思ってな状態で生きていく意味があるのかと考えな状態で生きていく意味があるのかと考え

ような経緯があったのでしょうか。てみようと思えるようになるまではどのあったと思いますが、居場所を立ち上げあい出られない動けないつらい時期が

経験を持っている人は他にいるのかとずっとひきこもりだったり体調に波があるような自分のように精神疾患を持っていたり、

考えていました。同世代と比べて、同じようにはできないけれど、何か役に立てたりできる事はないかと思い、心理、社会学、福祉の本を読んだりしました。その当時、福祉の授業を聴講して出会った先生に「勉強したいならば、福祉に特化した大学で学んだ方がいい」と親身にアドバイスをいただき、福祉系の大学に編入することになりました。編入してからも体調の波があって思した。編入してからも体調の波があって思いう気持ちを話せるところがほしいなぁと自分が居場所を求めていました。

初めて東京のひきこもりの居場所に行ってみたら、和室で過ごしやすく、ゆったり所でした。横浜近辺のひきこもり経験者も所でした。横浜近辺のひきこもり経験者もがでした。横浜近辺のひきこもり経験者もがでした。な居場所を一度やってみませんかきるような居場所を一度やってみませんかきるような居場所を一度やってみませんかきるような居場所を一度やってみれている。

※『ひき桜』:ひきこもりの「ひき」と桜木町の「桜」

化はありましたか。 ―居場所を立ち上げてから気持ちの変

同世代が卒業して就職していく中で、そ

化していきました。

当事者会の参加者から「参加してとても当事者会の参加者から「参加してとてもなっています。今、会を開いてなっています。今、会を開いてはなっています。今、会を開いてはなっています。

伺いできますか。 ―『ひき桜』のあり方や理念についてお

『ひき桜』の共通認識として、「ゆるさ」を大事にしています。運営メンバーは支援者を大事にしています。運営メンバーは支援者ではなく、あくまで参加者の一人である。また、当事者会は自立を促す場ではなく、そこに居ることに意味がある場だということ。話をしたい人、一人でいたい人が自由に過ごせる居場所です。ここに参加する人はお互いに「ジャッジしない」ということも掲げています。最初は手探りでしたが、安村のようとのようというによっています。



割田さんが発行した「ひきこもりピア サポート学習会実施報告書」

会の報告書作成にあたり公益財団法人かた

することができました。

ピアサポート学習

二〇一九年から合わせて数回

先駆的な取り組みとしてメディアに 取り上げられたことも

りの会なので、素人なりに対応の難しさも ルは設けました。時には参加者同士でいろ いろな事が起こりますが、 あくまで場づく

ンバーのやりたい、やりたくないをシンプル 運営者の状況に合わせて、 にがっつり取り組んでいますが、忙しい他の 相手に寄り添いながら、 つことを心がけています。 試行錯誤をしながら、 程よい距離感を保 運営メンバーとも、 自分は『ひき桜 できる範囲でメ

> こもりピアサポートゼミナール』について きたいと思ってくれている方が少なくないの りますが、忙しいなりに、 います。運営メンバーの継続は課題としてあ でうれしいですね。 場づくりの他に開催されている『ひき 関わり続けてい

教えてください。

このプログラムは、もともと北米の精神

ひきこもり当事者以外の方からのご要望 うように内容をアレンジしました。 グループ活動のプログラムです。 られる作業は単純作業などに限られていた できる『みんなのピアサポート』も企画し で、だれもが参加でき体系的に学ぶことが という結論に至り、ひきこもりの実態に合 サポートの必要性を検討しました。必要だ れるのではなく、主体的に当事者が自分の ことから、社会に「できること」を決めら す。患者が病院のdayケアなどで与え 疾患の方のために開発されたプログラムで 人生を決めて生きることを目的にした自助 まずは『ひき桜』の参加者同士で、

に尊重して活動に関わってもらう形をとって

がわ生き活き市民基金さんから印刷費の 支援をいただいています。

ましたら教えてください。 -これからやっていきたい事などがあ

の大切さを感じ、 をもらっています。 援をいただき、 る不動産会社の代表との出会いです。月一 たのは、 います。また、地域を考えるきっかけになっ で地域に根差した拠点を作りたいと思って 者会を開催したいと取り組んできました お話につながっています。 にスペース提供していただけるありがたい なりました。『ひき桜』の活動に共感や応 していただき、 会、福祉関係、 キララ賞受賞当時は、 『街の相談所ネットワーク』という自治 物理的に難しいこともあり、 地元で地域活動も熱心にされてい 定期的に参加するように 議員などの集まりを紹介 複数の方から、 毎回アグレッシブな刺激 地域のつながり 様々な所で当事 空き時間 今は市内

取材を終えて それには二四時間待ったなしの いを語ってくれました。「ただ、 とは自死を考えている人のサイ ことを話してくれました。「実は しながら活動をされ、今も少 ら続けていけるとうかがいまし 仕事ではなくボランティアだか 経験から力になれればという思 ンに気づき、話をきいて見守る たんです」と。『ゲートキーパー んな割田さんは取材後にこんな た。アルバイトを二つ掛け持ち し体調に波があるそうです。そ 『ゲートキーパー』 をやりたかっ 人だそうです。自身のかつての 命の門番』と位置付けられる 『ひき桜』、

思います。 少なくないだろうと確信しまし んの活動で救われる方は決して た。心から応援していきたいと 情熱を感じると共に、 (眞壁尚子 割田さ

する方向で進めていきたいと思っています。

ことから、

これからも場づくりを長く継続

比べて四〇代以上対象の参加場所が少ない

者もいらっしゃいます。 一五歳から三九歳に

また、『ひき桜』では四○代以上の参加

団体からのお知らせ

今の自分には物 淡々と話す割

理的に難しい」。 対応が必要で、

田さんの深い思いに胸を打たれ

ました。

ひたむきな静かで熱い

ひき桜では継続的に活動するために、常設の拠点を持ちた いと考えています。空き家など拠点として利用できる場所(家 **賃無料)が横浜市内にありましたらぜひ教えてくだされば幸い** です。

また、ひき桜の活動を応援してくださる方を募集しています!

① 継続的に応援する(会員)

入会費0円、年会費1口500円

入会のお問い合わせ:hikizakura.yokohama@gmail.com

② 単回で応援する(寄付)

ゆうちょ銀行

【店名】 〇九八(ゼロキュウハチ) 支店

【預金種目】普通預金 【口座番号】1292576

名義:ヒキコモリトウジシャグループヒキザクラインヨコハマ

ひきこもり当事者グループ 「ひき桜」in 横浜

TEL 080-6653-8926 (割田携帯)

HP https://hikizakura.hatenablog.com

この

代表:割田 大悟



つばき学習会

学習支援を きめ細やかに 子どもたちへ届ける

てしまう子どもたちは少なくありませ 学校の授業についていけず、 の教え方が合わず、本当は学びたいのに、 とではありません。授業の進度、 子どもが学校で学ぶことは簡単なこ 取り残され

ています。その代表をつとめる吉原崇徳 うことができるわけではありません。 で、毎週土曜日、学習支援の場所をつくっ していることなどについてお話を伺いま さんに活動に至った経緯、 ための場所です。 ん。そしてすべての子どもたちが塾に通 つばき学習会はそんな子どもたちの 川崎市の川崎区・幸区 活動で大切に

> 活動を始めたきっかけはなんですか? ─二○一七年から活動されていますが

二〇一五年に最初に教職に就き、



つばき学習会代表吉原崇徳さん

贈呈当時の活動

の活動がつばき学習会の原点ですね 道具を詰め込み一人で始めたのですが、 とり、

数人の子に学習支援を始めることに

なったんですね。

その時はスーツケースに

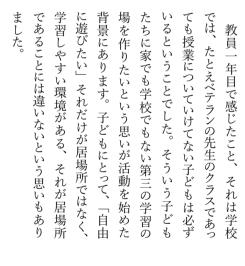
したい思いが募り、保護者の方と連絡を そこから自分の関わった子たちにサポート まくいかなかった」思いが芽生えました。 年目ということもあり、年度末になって「う 校三年生のクラスの担任になりました。

川崎市の川崎区、幸区の公共施設で 小学生に学習支援をしています。代表 の吉原崇徳さんは川崎市内で小学校の 教員をしており、土曜日に学習支援を 行っています。学習支援は、社会人大 学生メンバー約30人が行っています。 2017年に結成され、2018年にキララ 賞を受賞、2021年現在も活動を継続し ています。

贈呈理由

地域の問題 (格差や外国人の親を持つ子どもたちの問題等) に対して真摯に対応していること。教職という立場を活かしての 活動になっていること。本業の現場で気付いた地域課題解決に 取り組み、またより若い世代(大学生)が活躍できる場を作っ ていること。「今の授業についていけるようにする」という基礎 的な事を理解させる姿勢がぶれないこと(塾でも遊びでもな く)。弱い立場の子どもたちへの教育という視点を大切にしてい ること。地域に根差したかつ現実に必要な活動を行っているこ と。もっと広がっていくことを期待し、キララ賞を贈呈しました。

なぜ始めようと思ったのですか?



ぞれで、予測していない事態はありまし ―活動を始める準備段階と開始後それ

支援を受けることを必要としていないこと 思われる子どもや自宅で勉強をする環境 また授業についていけず学習支援が必要と に足を運んで講演を行い、興味を持ってく うに集まらず、自ら教育学部のある大学 が整っていない子どもが、逆に個別に学習 れた学生の中からメンバーを探しました。 学習支援ボランティアは、最初は思うよ

> が本当に必要な人に届いてないのではない うに工夫しています。 レットを置かせてもらい必要な人に届くよ かという思いがあります。区役所にパンフ が多いように感じます。まだまだこの活動

のようなことを目指されていたのですか 省を考えていたと知りました。その時はど 新聞の記事で大学卒業後は、文部省入

した。大学三年時にはフィンランドに留学 感じ、教員になることを選びました。 そのために現場を知っておくべきであると も教育行政に携わりたいと思いました。 教育政策に携わった人に自ら取材し、自分 上国支援へつながるという思いを強くしま い」という思いを抱くとともに、教育が途 べての人に平等に教育を受けさせてあげた 子どもたちを見て衝撃を受けました。「す マウンテン」と呼ばれるゴミ捨て場に住む 大学一年時フィリピンへ行き、「スモーキー 小学校の見学、最先端の教育を学び、

のいつですか? **- 吉原さんが学校の先生になると決めた**

二〇一四年東京都内の学校でティーチン



活動の様子

でやっていく」というより、「行政に行くたてやっていく」というより、「行政に行くたべーションでした。初めて現場に行ってみて、ベーションでした。初めて現場に行ってみて、がら教員の経験を行政で生かしたい気持いるし、現場を知りたい、知らなければいるし、現場を知りたい、知らなければいるし、現場を知りたい、知らなければいるし、現場を知りたい、知らなければいるし、現場を知りたい。「先生としだいう気がいる。

ますか? もと接する上で伝えていることはあり ―ボランティアの学生の皆さんに、子ど

に聞いて導くこと、子どもの方から話させに聞いて導くこと、子どもの方から話を丁寧に下がりかねません。子どもの話を丁寧に下がりかねません。子どもの方から話を丁寧に下がりかねません。子どもの方から話を丁寧に下がりかねません。子どもの方から話を丁寧に下がりかねません。子どもの方から話させに聞いて導くこと、子どもの方から話させ

ることを心がけています。

大きく変わったことはありますか?―コロナ以後に

と関わって、子どもに対して支援をするの ロナ禍の中でも「ここにくることで子ども ち同士で出かけることにも規制がかかるつ ともありました。それは高校生の支援者 の自由研究企画などを開催してきました 思いから、これまでも茶道体験や夏休み ちに勉強以外でもたくさんの経験をして 催をストップしたのですが、動画配信等 所にもなっている側面もあります。 感じてくれているようです。支援者の居場 だけれども自分のためにもなっている」と が増えたことです。部活動もない、友だ はやはり辛かったですね。それでもいいこ が、集まれない、企画ができないこの期間 もらい心豊かな人間になってほしいという できることをやり続けました。子どもた 度目の緊急事態宣言中は学習会の開

すか? ですが、他の地域に拡げる計画はありま―現在は川崎市の川崎区、幸区での活動



マンツーマンで学習支援を行っている。

ちに活動を拡げられたらうれしいですね。 を立していきたいと考えています。そのの なのではなく、一つひとつの活動を丁寧に ができたらいいね」とメンバーで意気 に拡げ ができたらいいね」とメンバーで意気 ができたらいいね」とメンバーで意気 がったいとでいるのが、 ができたらいいね」とメンバーで意気 がったいとでいるが、 がったいとでいるが、 がったいとでいるが、 がったいとでいるが、 がったいとでいるが、 がったいとできたいと考えています。 をののにはなく、一つひとつの活動を単に拡げ をがいました。現在は活動を単に拡げ

教えて下さい。―これからやりたいこと、伝えたい思いを

今後やりたいことは主に三つあります。今後やりたいことは主に三つあります。 学校としてはやれることは最大限やったいると思います。 学校としてはやれることは最大限やったいると思います。 学校としてはやれることは最大限やったいると思います。 しかし教員にもゆとりがあって、 先生になりたい人が少なくなっている現状があると思います。 教員にゆとりがあって、 先生になります。 教員にゆとりがあって、 先生にこつあります。 今後やりたいことは主に三つあります。

うちでの関わり方を伝える活動をしていためになると思っています。子どもとのおでうまく出来ないのが当たり前だとも思っています。子どもに聞かれたらどう返すか・どう接するか、そして子どもとのかないます。子どもに聞かれたらどもの

取材を終えて

古原さんのお話は子を持つ母としてとても興味深く、勉強になりました。子して子どもと親のかかわり方について真剣に考えてくれていり方について真剣に考えてくれている先生が存在するのだと嬉しい気る先生が存在するのだと嬉しい活動そんですが、この素晴らしい活動そんですが、この素晴らしい活動をして思いをたくさんの方に伝える活動も是非してほしいと思います。

団体からのお知らせ

きたいです。

- ●私たちは現在川崎市で活動しております! 現在7区中3区での学習室を開催しておりますが、 ゆくゆくは7区すべてで開催したいと考えておりま す!!学習支援を通して川崎市の教育をサポートし てくださる方を募集しております。ぜひウェブサイト からご連絡ください!!
- ●当会の活動を支援してくださる方を募っております!ホームページをご覧いただき、ご寄付いただけると幸いです!!よろしくおねがいいたします!!

つばき学習会

になってほしいです。親にもゆとりをもっ

〒 215-0001

川崎市麻生区細山

TEL 080-6582-2265

HP https://www.tsubaki-gakushukai.com

代表: 吉原 崇徳



ひとりやないで! 加藤 枝里さん

ホッとできる関係性をつくる子どもたち同士の居場所が、精神疾患の親に向き合う

で!_。 の病気はあなたに遺伝しないの?」と聞 所」の活動をしてきた「ひとりやない じようなことで将来の夢を諦めたり、 かれ、怒りと悲しみの念を抱いたこと。 界に就活していた時、 う気づきを得たこと。 二つ目はマスコミ業 **藤さんの二つの経験でした。一つ目は、** 精神病だと言えない子が多いのでは」とい 会する人に同世代がおらず「自分の親が 合失調症で入院中の母への面会の際、 精神疾患の親と向き合う子どもの居場 活動のきっかけは、 面接で「お母さん 代表である加 同 統 面

お母様が統合失調症と伺いました

母の

症状は私が生まれたときから現



オンラインでインタビューに応じ てくださった加藤枝里さん

わり家事を担うことが多かったです。たまにしました。私は幼い頃から母に代ら家事をこなす事が難しく、症状が悪化ら家事をこなす事が難しく、症状が悪化のがまにしました。私は幼い頃から母に代れます。幼少期の頃、母は意欲の低下か

贈呈当時の活動

動についてお話を伺いました

てはいけない」、そういった思いで始めた活い思いをしたりする子どもたちを増やし

の役割と思っていた反面

「自分は子どもな

当

|時は家事をすることが「当たり

前

んだ」という認識が強くありました。

だったのでしょうか。

最近よく耳にするヤングケアラー※

同じ立場の仲間とともに、かながわ県民センターにて 奇数月に1回の頻度で精神疾患の親と向き合う子どもの 「家族会」を開催、偶数月には鎌倉や茅ヶ崎など、神 奈川県内の名所をめぐる「懇親会」も実施。かつてから 存在していた親向けの家族会に参加しても立場が違うた め、孤独感を感じることも多くあった参加者が子向けの 家族会に参加することで「悩んでいるのは自分だけでは ない」とまさに"ひとりやないで!"を実感できる居場所 を提供しています。

贈呈理由

神奈川県内初にして唯一の「統合失調症の親と向き合う子ども向けの居場所」を主催。今まで精神疾患の子どもをもつ親向けの家族会は存在していましたが、子どもに焦点を当てた家族会はありませんでした。月1回、同じ子どもの立場の方に限定した集まりを設けることで参加者同士の共感が得られるようになったこと、子の立場の疲弊・社会的孤立を防ぐ一翼を担うこれらの活動の今後のさらなる展開を期待して、キララ賞を贈呈しました。

気を理解した上で親をケアすることで、 気を理解した上で親をケアすることで、 気を理解した上で親あらしさに触れたとき すので、他の人の母親らしさに触れたとき をうではない子とでは捉え方も大きく分だという自覚がある上で家事をする子とだという自覚がある上で家事をする子とだという自覚がある上で家事をする子とだという自覚がある上で家事を大きく分れるものと想像します。また、親の病

2016年大学での講義の様子 と子』 という感覚 "ヤングケアラー いという方もいる としては、 と思います。 うに思います。 で過ごしていたよ わず、あくまで、母 なんだ』 と気負 面倒を見てきた私 かった頃に母親の 葉が普及していな アラー』という言 自分が 日本

①家族会

他家族会の情報交換

手伝いに来てくれ母方の祖母が家に幼少期の頃は、

代わって家事をしなければならないとき ずオープンにしていました。私も、 の妻はこういう人だから」と周りに隠さ は、友だちを家に呼び、友だちがゲーム ることを伝えるようにしていました。 とについて周りから聞かれたら精神病であ 見が根強く残っていましたが、 う働きかけてくれていたんだと思います。 買い物という私の家事の負担を減らせるよ い物をして帰宅していました。 には、そのまま車で一週間分の食材等の買 しいドライブ気分でした。父の仕事の帰り もだった私にとって、あの時間は父との楽 仕事の車に乗せてくれました。幼い子ど ることも多く、そんな私を気遣って父は やってくれたので、その時だけは子どもら ました。大人が担うような家事を祖母 をしている間に掃除機をかけ、 していたときは、家で私が一人ぼっちにな しくいられました。母が入退院を繰り返 わってから一緒に遊んでいました。 昔は今より精神疾患に対する世間の偏 父は「自 今思うと 家事が終 母のこ

親と良好な関係を築ける方とそうではな

> 下さい。 しかったこと、よかった出来事を教えて―友人三人で活動をスタートした頃の楽

二○一三年に私一人で立ち上げました。 二○一三年に私一人で立ち上げました。 大学のは出せない会の雰囲 で記を分担できたことは非常に助かりま で記を分担できたことは非常に助かりま で記を分担できたことは非常に助かりま で記を分担できたことは非常に助かりま に、また、私一人では出せない会の雰囲 した。また、私一人では出せない会の雰囲 した。また、私一人では出せない会の雰囲

しい活動だと思いました。 ―「家族会」「懇親会」はとても素晴ら

観光名所を巡るなど、みんなで何か時間れないと気づき、そこから神奈川県内のいがあります。家族会は初対面の場なので、いがあります。家族会は初対面の場なので、のなさん緊張してなかなか親睦が深めらいがあります。家族会」のみ、活動三年目から「懇親会」を始めました。いずれは会の招集がなくても個々に子どもの立場同士招集がなく、のみ、活動三年目から

いなと思っています。
いなと思っています。
いなと思っています。
いなと思っています。
いなと思っています。
いなと思っています。
いなと思っています。
いなと思っています。

との声が上がっています。収束後もオンライン家族会は続けてほしい士で集まれる居場所が少ないため、コロナ士で集まれる居場所が少ないため、コロナ者も多いです。地方では、同じ立場の人同「オンライン家族会」は地方からの参加

全国から若い参加者の方がこの会を選 を国から若い参加者の方がこの会を選 を関いるで発信し続けてくれる ishieri さんの で発信し続けてくれる ishieri さんの で発信し続けてくれる ishieri さんの で発信し続けてくれる ishieri さんの で発信し続けてくれる ishieri さんの

演活動をされているそうですね。―子どもたちを支援している方々への講

る職員向けの研修依頼が増えました。ヤ野の協議会から子どもたちを支援していまってからは、行政・川崎市や福祉の分セングケアラーという言葉に注目が集

がけがあります。

いえばそういうことでもありません。いえばそういうことでもあります。家庭や子どもそれぞれで思いが異なるため、これが正解だという一ついが異なるため、これが正解だという一つの関わり方はないと感じます。支援を求めていないのだったら放っておけばよいかとめていないのだったら放っておけばよいかと願う家庭

いう意識、助けを求めていいんだという意いれば、助けを求められる場所があると神疾患や社会資源に関する教育を受けていれば、助けを求められる場所があるといれば、助けを求められる場所があるといれば、助けを求めていいんだという意



最近の活動の様子

だけ母に優しくなれている気がします。

るんだな、

と理解することができ、少し

「A こうないではと思います。二〇二二年度より高校の指導要綱に「精神疾患」が加わりますが、もっと早い時期からの指導が必要ではと考えます。

変化はありましたか?前と現在では、お母様に対する気持ちに一「ひとりやないで!」を立ち上げる以

ていた想いへの理解度が上がったと感じま の方と接したりすることで当時の母が抱い 家族の話を聞いたり、 去、母に酷いことを言ってしまったことも 神疾患に関する知識がなかったゆえに、 と言える立場ではありませんでした。 開いた時も「こういう関わり方もあるよ」 の知識も身についてなかったし、 上げた頃でしたが、当時は精神保健分野 ては当たり前の事実として声が聞こえてい 疾患に関する知識を得た今では、母にとっ と理由が分からず、怒っていました。 す。昔は、 あったのですが、家族会を開くことで他の が大学生のときです。ちょうど会を立ち んで訳の分からないことを言うんだろう」 母の病気と向き合おうと思ったのは、 母の幻聴・妄想症状に対し、「な 母以外の精神障害

すか? ―八年間続けられた原動力はなんで

をお願いするなど参加者全員で創り上げ います。今後は参加者の特技や強みを牛 いたときは、 持てるようになったという参加者の声を聞 気持ちの整理がついて気づいたら結婚した になれなかった方が、会に参加するうちに するあまり、 る運営を目指していきたいです。 ても良いんだと気づいたり、自分の時間を り、親と良好な関係を築けたり、社会に頼っ いると言ってくれること。親のケアを優先 会に来てくれる方が自分の居場所になって 会にお越しいただく参加者の変化です。 活動で実施している勉強会の講師 会を続けてきてよかったと思 自分の生活や将来に前向き

願いや伝えたい思いを教えて下さい。

ヤングケアラーに注目が集まってからは、を抱く子どもの立場の方は実際多いです。もたちですが、一八歳以上でも子どもの立場としてケアをしている人も多くいて、「ヤッグケアラーは定義上一八歳以下の子どもの立場の方は実際多いです。

学、会では「安心安全な場を守り続ける」 と受け手の齟齬が発生することで正しい情を発していただけることは、支援が一人でも多くの子どもの立場の方に届く可能性も多くの子どもの立場の方に届く可能性も多くの子どもの立場の方に届く可能性と受け手の齟齬が発生することで正しい情報が発信されなかったり、一度インターネット上に病の親と過ごした体験談が載るとト上に病の親と過ごした体験談が載るとトナに病の親と過ごした体験談が載るとます。会では「安心安全な場を守り続ける」ことを、今後もより深めていかなければならないと感じています。

取材を終えて

初めて加藤さんにお会いしたのは、取材の約一年前の"オンラインで真名交流会"のり、そしてまたオンラインで再会。しかし一年前とは印象が違い、更に明るくイキイキとした加藤さんが画面の向こうにいらっしゃいました。取材を進めるうちに、らっしゃがかりました。お仕事や活動のでと。そして、心は外に映し出されるのだと。そして、心は外に映し出されるのだと。

と確信しています。 (下妻理智)心安全な場を守り続ける」ことができるめない姿勢には安心感があり、きっと「安く成長させていく姿と、ご自身も勉強を止せの中の変化も味方にして、会をすくす

団体からのお知らせ

奇数月に1回、横浜市または川崎市 内の公共施設にて、統合失調症の親 と向き合う子ども向け家族会を開催。 (詳細は、公式ホームページをご参 照ください)



ひとりやないで!

~統合失調症の親と向き合う子向けの広場~

HP http://hitoriyanaide2525.amebaownd.com/

代表:加藤 枝里



親切ダンスカンパニー(現名称:スタジオ◎きのこ) 品川 桃実さん



親切ダンスカンパニーの集合写真

踊ることが大好きな人たちがたまたま横須賀に集い、つながっていったらとっても個性的なダンスパフォーマンスグループになっていたそうです。 何をどう表現するか…あれこれ考えているよりも、とにかくリズムに乗って体を動かし、踊ってしまえば問題解決。行く先々でみんなを「親問題解決。行く先々でみんなを「親問題解決。行く先々でみんなを「親問題解決。行く先々でみんなを「親間とすう。「だれもがダンス」で全員参加の世界を!ダンス・ヨガで地域活性化をする品川桃実さんの夢企画に性化をする品川桃実さんの夢企画に

贈呈当時の活動

横須賀を中心に参加者は主に横須賀市在住または在勤のダウン症・自閉症といった障がいのある人、高校生、大学生、社会人で構成されています。月1回の活動で障がいのあるなし・年齢・性別・国籍・ダンス経験は関係なく、ダンスや音楽などいろんな表現活動を楽しんでいます。活躍の場は、学童保育・高齢者サロン・作業所といったコミュニティなど地域のイベントにも積極的に参加しています。

贈呈理由

代表者の熱意が強く伝わり人を惹きつける魅力を持っていること。教える・教えられるの関係ではなく自由な自己表現を引き出す声かけを行っていること。参加者が自分のペースで自由に参加できる場であり、世代や障がいを越えたバリアフリーのグループとなっていること。代表者のダンスのスキルを社会に還元していること。看護師という仕事を生かし健康面をふまえて活動していること。大学生や高校生の若い世代も含めて周りを巻き込んで活動していることをふまえ、キララ賞を贈呈しました。

-結成のきっかけについて教えてください。

学のダンスサークルとして活いで三~四年は結成時の活動スタイルで大県立保健福祉大学で生まれたダンスサーク県立保健福祉大学で生まれたダンスサークに入ってからはいったんやめていましたが、中学・高校とずっとダンスを続け、大学

動していました。

ですね。 動スタイルではなかったん

あるイベントで障がいのある人と知り合ってメンバーにる人と知り合ってメンバーにる人と知り合ってメンバーに加わりました。障がい、性別、年齢、国籍、その他諸々と場所を問わず活動していと場所を問わず活動しています。ダンスが好きならことがなど自由な表現活動を親切な仲間と楽しんでいきるができるアーチストでも参加できるアーチストでも参加できるアーチスト

ついて教えてください。―「親切ダンスカンパニー」命名の由来に

創設時にすでに別のダンスサークルがあったので、大学側から「新設さん…」と呼ばれていたのがきっかけなんです。「新設さん」を「親切に置き換えよう!親切は良ん」を「親切に置き換えよう!親切は良いが!」ということで、サークルがあった。

-活動のペースや状況を教えてください。

人ほど集まります。
時には六〜七人のスタッフに参加者が二○九人、スタッフが五〜八人、ワークショップル人、スタッフが五〜八人、ワークショップメンバーは、一○代から二○代の人が八〜メンバーは、一○代から二○代の人がいます。

―活動の魅力について聴かせてください

う、ファシリテーター兼ダンサーズとして活えテージに立つ素敵なダンサーとなれるよまが、なんといってもダンスでつながるコミュすが、なんといってもダンスでつながるコミュすがはいいで立つ素敵なダンスの魅力は語り切れないほどありまダンスの魅力は語り切れないほどありまず、ファシリテーター兼ダンスでつながるコミューをはいるといってもどの場合にありますが、なんといっても、これではいるというでは、これではいるというでは、これではいるというでは、これではいるというでは、これではいるというでは、これではいるというでは、これではいるというでは、これではいるというでは、これではいるというでは、これではいる。これではいるというではいるというでは、これではいるというではいるというではいる。これではいるというではいるというではいる。これではいるというではいるというではいるというではいるというではいるというではいるというではいるというではいるというではいるというではいるというではいるというではいるというではいるというではいるというではいるというではいるというではいるというではいるというではいるというではいるというではいるというではいるというではいるというではいるというではいるというではいるというではいるというではいるというではいるというではいるというではいるというではいるというではいるというではいるというではいるというではいるというではいるというではいるというではいるというではいるというではいるというではいるというではいるというではいるというではいるというではいるというではいるというではいるというではいるというではいるというではいるというではいるというではいるというではいるというではいるというではいるというではいるというではいるというではいるというではいるというではいるというではいるというではいるというではいるというではいるというではいるというではないるというではいるというではいるというではいるというではいるというではいるというではないるというではないるというではないるというではないるというではないるというではないるというではないるというではないるというではないるというではないるというではないるというではないるというではないるというではないるというではないるというではないるというではないるというではないるというではないるとなった。これではないるというではないるというではないるというではないるというではないるというではないるというではないるというではないるというではないますがのはないるというではないるというではないるというではないるというではないるというではないるというではないるといっというではないるというではないるというではないるというではないるというではないるというではないるというではないるというではないるというではないるというではないるというではないるというではないるというではないるというではないるというではないるというではないるというではないるというではないるというではないるというではないるというではないるというではないるというではないるというではないるというではないるというではないるというではないるというではないるというではないるというではないるというではないるというではないるというではないるというではないるというではないるというではないるというではないるというではないるというではないるというではないるというではないるというではないるというではないるというではないるというではないるというではないるというではないるというではないるというではないるというではないるというではないるというではないるというではないるというではないるというではないるというではないるというではないるというではないるというないるというではないるというではないる。これではないるというではないるというではないるというではないるというではないるというないるというではないる。これではないるというないるというではないる。これではないるというないる。これではないるというではないる。これではないる。これではないる。これではないる。これではないる。これではないる。これではないる。これではないる。これではないないではないる。これではないないる。これではないる。これではないないる。これではないる。これではないないないないない。これではないる。これではないないない。これではないないではないないではないる。これではないないではないる。これではないないないないないないではないる。これではないないではないないではないる。これではないないではないないる。これではないではないないないないないではないる。これではないないないないではないではないる。これではないないるではないる。これではないるではな

楽しく踊ることがモットー

こででも踊れちゃうんです。

野しています。これは友人の言葉でもありますが、彼女は決められた枠の中で、与えられた条件の中で「命を燃やす」という表られた条件の中で「命を燃やす」という表現をしました。見る人は踊りではなくその人を見に来ている。どんな人もすごいと思う。だから私の役目は、感性を引き出す、もともと持っていないものも…「ファシリテーション」っていうのかな。私は踊らせるのが好きなんです。言葉よりも身体が動いてしまう。「こうでこうでこ~んな感じ…」とやって見せると仲間たちは受け取って変換してくれる。受け取って投げ返すキャッチボールのように、波動・脈動を伝って創動しています。これは友人の言葉でもありますが、彼女は決められた枠の中で、与えいというでは、



ペアダンスのコラボレーション (後ろが代表の品川桃実さん)

いていく過程が好きなんですね! そりあげていく過程が好きなんですねます。ものすでイメージがわくんです。言っている以上のことを相手が表してくれることもあって、ことを相手が表してしまう。ダンスを創る人たちをつくる。よく人から「品川さんにくたちをつくる。よく人から「品川さんにでする! という。

ヨガも学び、インストラクターの資格を取っ ヨガも学び、インストラクターの資格を取っ る弓型姿勢)と言って人の本来のカーブに 合わせてポーズをとる、身体が固い人でも できる、日本でまだあまり知られていない できる、日本でまだあまり知られていない

いきたいと思っているんです。 人の心を震わせられる身体づくりをして

--ダンスを教えているときに工夫している

しています。 「自然でありのままであること」を大事に「参加型であること」「無理強いはしない」

―どんなダンスを目指していますか。

活動を続けていてダンスに対する概念が 活動を続けていてダンスに対する概念の
ないい、みんなが自分らしく、楽しく、自由
なが自分らしく、楽しく、自由
なが自分らしく、楽しく、自由
なが自分らしく、楽しく、
は最高の褒め言
ながりました。正しく、かっこよくなくて
なんなが自分自身の波をおこす。

だ1。
舞踏家の大野一雄さんの言葉で「でたら 舞踏家の大野一雄さんの言葉で「でたら

-活動で苦労していることはありますか。

学生時代は学業とアルバイトとの兼ね合いで大変でした。卒業後は横須賀に集まることが大変です。オンラインで…ということも難しいですしね。いつも活動で利用させていただいている「横須賀市総合福祉会館」に「福祉団体」として登録させてもらってに「福祉団体」として登録させてもらってに「福祉団体」として登録させてもらっているお陰で、練習場所としてこちらのホーいるお陰で、練習場所としてこちらのホーいるお陰で、練習場所としてこちらの赤ーいるお陰で、練習場所としてこちらの赤口にで大変でした。卒業後は横須賀に集まるの表にです。

―コロナウィルス感染拡大の影響はありま

誰でも楽しくすることができる。でも、今

は仲間が横須賀在住ではない。横須賀に教

ですね。問などの活動に行けないことがとても残念問などの活動に行けないことがとても残念

/ う後の展望についてお話を聞かせてく

ミュニティダンス・ファシリテーターの受講 ことが多いからです。これから個人事業主 残すのか…。今も障がい者の作業所でダン す。記録として身体に残すか、記憶として ビー作成も得意なのでシネマ制作もできま ターとして、また一眼レフカメラでのムー を修了しました。ヨガの資格インストラク をやめ本職としていこうと思っています。コ 護師をしながらでしたが、今後は看護師 としてダンス・ヨガ教室を開き、事業展開 いのあるなし・国籍を超えて、私がいれば 雇用されます。誰でもダンス、年齢・障が ス指導員をしていますが、そちらも正式に をしていこうと計画しています。今まで看 団体ではないのに、福祉団体だと見られる に名称変更)。親切ダンスカンパニーは福祉 、※二○二二年二月に「スタジオ◎きのこ」 実は団体名を変えようかと考えています

室を持つことで横須賀から遠い人を思いき



活動風景

団体からのお知らせ

「親切ダンスカンパニー」から「スタジオ◎きのこ| に改名し(2022年2月)、ダンス・ヨガ・シネマ(他、 代表の思いつきと気まぐれであらゆること)をベースに 活動していきます!

夢は「だれもがダンス!全員参加の世界」を実現。 そのための活動は今までと変わらず、いやさらに加速 していきます!自由に突っ走りつつ、追いつけない人を 出さないしんせつスタイルで。皆さんの参加をお待ちし ています。

- ●しんせつなダンス(コンテンポラリー・創作ダンス WS)
- ●しんせつなヨガ (Bowspring オンラインクラス)
- ●しんせつなシネマ (動画制作)

ご依頼はホームページから。 スタジオだけど studio じゃ なく sutajio です!お間違えのないように(笑)

スタジオ◎きのこ

横須賀市(色々出張スタイル)

メールアドレス

sutajio.kinoko@gmail.com

ホームページ

https://sutajiokinoko.wixsite.com/ sutajio-kinoko

代表:品川桃実



症の人がいて一緒に地域に根差したい。 り呼びたい。メンバーに私と同世代でダウン 用しダンス・ヨガ教室を開き人を寄せ付け そしてここ横須賀を拠点に親切ダンス旋風 れから参加層をもっと広めたい、 をおこしたいんです。 もや高齢の方たちを巻き込みたいんです。 まずは、ホームページを開設してヨガから 特に子ど

たい! いろいろ構想中です。 空き家を借りてオンラインも活

> せてくれるのか今後の展開・活躍を楽し るうちにこちらも次第に身体がうずうず き込まれていく感じがし、 る個性やエネルギーを引き出す能力にも みに応援していきます。 してきます。 活動や彼女の持っている魅力にどんどん引 たけているのだなと感じました。彼女の な…と思うのと同時に、その人の持ってい 品川さんは本当にダンスが好きなんだ これからどんなダンスを見 話を聴いてい (加藤恭子)

あすのち

学び合う場所「あすのち」関わるみんなが

自分の経験から、後輩たちに同じ思い自分の経験から、後輩たちに同じ思いとさせたくないと高校一年生の時に無料とさせたくないと高校一年生の時に無料はさせたくないと高校一年生の時に無料はさせたくないと高校一年生の時に無料はさせたくないと高校一年生の時に無料はさせたくないと高校一年生の時に無料はさせたくないと高校一年生の時に無料はさせたくないと高校一年生の時に無料はさいという。

メンバーと何度も話し合い「こどもが自

う!」と言ってくれた五人と話し始めたの

が二〇一七年五月、

高校一年生の時でし

れない?」と声をかけて、作ろうと思うんだけど、

友だちに「小学生が勉強できる場所

、一緒に「やろ一緒にやってく

は何ですか?―「無料塾」を作るために最初にしたこと



あすのち乾さん

贈呈当時の活動

すのちメンバー」は今も奮闘しています。プロジェクト(コミュニティの場)を作り、「あて、 夕暮れ学級(学習サポート)とさつき分の明日を信じていける社会」を目指し

していくかをとことん話し合いました。

団体で大切にしたいこと、

どういう活動

料塾)」へ話を聞きに行きました。それから、

た。それで夏休みに「八王子つばめ塾

「あすのち」の代表・乾さんは中学生の頃、家庭の事情で塾に通えず、ネットで「学習支援・無料学習」で検索して「無料塾」を知りました。後輩のために「自分でも何かやりたい」と友人と高校生の時に立ち上げたのが「あすのち」です。学習サポートの「夕暮れ学級」、コミュニティの場の「さつきプロジェクト」は、友人と何度も話し合いビジョンから目的・運営方法まで自分たちで決めました。目指していることは、子ども自身が選んだ場所で学んでいける地域です。「あすのち」もそのひとつとなれるよう、現在の活動の継続と子ども自身が興味のあること、生きたい未来に向かって行動できる機会と経験を作りたいと考えています。今は座間市・横浜市に拠点に活動しています。

贈呈理由

- ・自分たちが必要と思ったものを自 分たちで探して作ってきたこと。
- ・SNS やネットで検索し、解決の糸口を見つけ、仲間づくりに活用していること。
- ・年齢に関係ないフラットな関係で 運営されており、また行政や社会 とも繋がっており組織力もあること をふまえ、キララ賞を贈呈しました。



「夕暮れ学級」の様子

会場探しが一番の難関で、訪問したすべての施設から「二〇歳以上じゃないと貸せないです」と言われました。当時、私は一五歳で「あと五年も待てない」と思い、「座間市」「ボランティア」とネットで検索したら、座間市にボランティアセンターがあるとわかりました。そこに「学習支援やりたいんです。どうしたらいいですか?」とわかりました。ボランティアセンターの方たちが親身になってくださり、未成年でも借りることができる場所を提供してくださったおかげで、会場が決まったんでもでもでもたかがでである場所を提供してらださったおかげで、会場が決まったんでも借りることができる場所を提供してくださったおかげで、会場が決まったんでもでもであることができる場所を提供してくださったおかげで、会場が決まったんでもでもであることができる場所を提供してくださったおかげで、会場が決まったができる場所を提供している場所を表している。

教える人の集め方は?

りして募集を始めました。登録したり、社会福祉協議会に登録したを開設したり、ボランティア募集サイトに

たか? ―子どもたちは、どのように集まりまし

最近は口コミや友だち同士で来てくれる堂や市の施設にチラシを貼りました。開校初日は生徒ゼロ人でした。子ども食

高校生中心に運営をしていますが、応 はざした活動をしています。横浜はアクセスが良いので自分で検索して来る子がいます。

援してくれている大人たちはいますか?――高杉生中心に遺営をしていますか 🖟

立ち上げてから、社会福祉協議会の方々や「八王子つばめ塾(無料塾)」さんとの出会いがきっかけで、高校生だけじゃなく社会人、六〇代と幅広い年齢の方々が活動に関わってくれています。メンバーみんなで議論をかさねています。年下の代表である私を尊重し、一緒に活動してくださってる私を尊重し、一緒に活動してくださってる私を尊重し、一緒に活動してくださっています。

できる心がけがあれば教えてください。―どのようにボランティアが集まり、継続

しています。になる場合が多いです。特に高校生が参加になる場合が多いです。特に高校生が参加

うに試行錯誤しています。 ルールを作って個々の状況で継続できるよ験でお互いを知り確認することやスタッフ

無料塾になっていますか?―素敵な理解者と仲間と出会え、理想の

同じ目標に向けて活動できる仲間と出 同じ目標に向けて活動できる中間と出 同じ目標を夢がどんどん出てきています。 ものでした。団体を設立してからその理想 ものでした。団体を設立してからその理想 は叶い続いています。その継続のために新しい目標や夢がどんどん出てきています。 それに挑戦しつづけている感じです。

やりがいを教えてください。―現在の活動への想いや、

うこと。そして勉強や遊びを通じて、「自 うんな人がいる」ことを知ってほしいと思っ 自分の明日を信じていける社会をつくるこ と」です。いろんな世代の人たちの出会い を通じて子どもたちに「そんな学校があ を通じて子どもたちに「そんな学校があ を通じて子どもたちに「そんな学校があ を通じて子どもたちに「そんな学校があ を通じて子どもたちに「そんな学校があ を通じて子どもたちに「そんな学校があ

> ます。 る場所であり続けたいという想いがあり援している人がいる」ことを知ってもらえ援している人がいる」ことを知ってもらえ

大事にしていることは何ですか?―「夕暮れ学級」と「さつきプロジェクト」で

もたちが自分自身で勉強していけるようトをしています。あすのち卒業後も子ど「夕暮れ学級」では個々に合わせたサポー



「さつきプロジェクト」の様子

さつきプロジェクトは「一人ひとりの挑戦の伴走者になる」という目標があります。「小さいことから大きいことまで、全まざまな体験ができるように継続的な地まざまな体験ができるように継続的な地域のつながりを作っています。日常の関わりの中で安心できることが、挑戦しても大丈夫だと思える自信につながると考えているからです。子どもがいろんなことに興味を持てるようなきっかけづくりを企画して一緒に挑戦しています。

さい。一コロナ禍での活動について教えてくだ

で考えています。
で考えています。わからない問題を
クトではオンラインでできる遊びをスタッフ
クトではオンラインでできる遊びをスタッフ

てください。

をいただけたのが嬉しかったです。しさせてもらう機会が増え、応援の言葉取材や交流会であすのちの活動をお話

なサポートをしていきたいです。



活動しているメンバー

しています。」

と満面な笑顔で答えてく

(髙橋多千美)

聞くと「はい、今は楽しいです。学び直

「乾さんは楽しい?学んでいる?」と

ているとのこと。

取材を終えて

が伝わってきました。 代表の乾さんから「あすのち」 一の魅力

ので、 いる理由というのは、 ないと思うけれど、 通い、自分のことを応援してくれる人が がどんどんわからなくなって、 タッフからも学びあう場所」になってき ちを運営することで、メンバーと共に「年 答えが返ってきました。そして、あすの いるだけで頑張ろうと思えたんです。 と質問をした時に「高校生のころ、 下からも年上からも子どもからも他のス 応援したいということだと思います」と 「塾が必要な理由って、何だろうね」 塾が必要な理由の答えになってい あすのちが活動して 一人ひとりの子を 無料塾に

あすのち

HP https://satsuki-yuuguregakkyu. jimdofree.com/

担当:三浦 寧久



たら?」と伝えてほしいです。

- あすのちという場所があるから行ってみ

けになるので、

ぜひ、身近な子どもたちに いろんな人と関わるきっか

勉強ができ、

てください。

―最後に多くの人に伝えたい想いを教え

団体からのお知らせ

いつ来ても帰ってもOK。 ぜひ「あすのち」へあそびに来てください!

対象:小学生·中学生

〈座間教室〉

場所:サニープレイス座間(相武台前駅から徒歩20分) 日時:原則毎月第1土曜日・第3日曜日の10:00~12:30 〈横浜教室〉

対象:小学4年生~6年生・中学生・高校生・16~19才 場所:西区福祉保健活動拠点フクシア

(横浜駅東口から徒歩5分)

日時:毎月2回、土曜日または日曜日の10:00~12:30

百崎佑さん

コーヒーで人をつなぐこどもたちに広げ、市民の感性を

「自分が住む町に関心を持つ」、「いろんな人々と議論したり、協力したりしながら、自分の町に住む」。今の日本社会ではそういった市民としての在り方を子どもたちが学ぶ機会は多いとは言えなさそ

す。コーヒーを通じて、人と人とのつながの活動を展開してきたのが百崎佑さんでたちの町を運営する「ミニヨコハマシティ」議論したり、協力したりしながら、自分を考えたり、その町で子どもたちが、住みたい町そんな中、子どもたちが、住みたい町

りをつくる取り組みも進めています。

町でやりたいことをめぐって対立が起きた

たりします。

まちでトラブルがあったり

町

'を運営する市長・副市長の選挙も行

ことを企画書にまとめて、

お店をしたり

たちが考えます。

こどもたちがやりたい

みやお店など町に関わることすべてこども

まざまな場所で開催しています。

町のしく

ください。 ―まず「ミニヨコハマシティ」について教えて

まちを作りたいかを話し合い、実現してい

ミニョコハマシティはこどもたちがどんな

く取り組みで住宅展示場や区役所などさ



百崎 佑さん

贈呈当時の活動

小学生の時、NPO 法人ミニシティ・プラスで活動を開始。 子どもたちが町づくりに関与する活動「ミニョコハマシティ」の運営に携わり、子どもたちの中で市民自治の感性を育てることに貢献。高校卒業後、コーヒーの専門学校に進学、2019 年コーヒー業界に就職。培ってきた経験を生かして、2019 年にはョコハマコーヒーフェスティバルを開催。フェスティバルを通じて、人と人とのつながりを作り出しました。

贈呈理由

小学生の時からさまざまな社会活動を行い、 周りにいる友人や大人たちをサポートしなが ら活動を展開してきたこと。この活動を通じて、 さまざまなつながりもつくってきたこと。メディ アでの情報発信も積極的に行ってきたこと。 これらの活動をさらに展開していくことを期待 し、キララ賞を贈呈しました。



ミニヨコハマシティでの活動風景

い、解決していくところも特徴です。りしたときも、こどもたち同士で話し合

れたのですか。一ミニョコハマシティで百崎さんは、小学生のときにはじめて市長に立候補し副市長になり、その後中学生の時に市長になり

下民(こども)と一緒に、何をするのか、 毎月一回議論していました。まちをどう 明一回議論していました。まちをどう はうかたちで実現していくのか、みんなで 考え具体化していくのが僕の役割でした。 高校一年生まで市長を務めていました。ミニョコハマシティの取り組みが始まったドイツ・ミュンヘンに行き、学んだことを映像に まとめて伝えました。被災地に出張して、 まこヨコハマシティを開催したこともいい思 い出です。

迷っていたそうですね?れました。進学前は大学に行くかどうか学校に進学し、コーヒーを専門的に勉強さーコーヒー好きが高じて、コーヒーの専門

ヒーに携わりたい」という思いがはっきり高校生の時からコーヒーが好きで「コー

きたので本当に良かったなと思っています。りたいことに早い段階から関わることがであってみて、自分が好きなこと、自分がやもできるよ」と言ってくれたんです。振りなことをやってみたら」「専門学校が合わなことをやってみたら」「専門学校が合わなことをやってみたら」「専門学校が合わなことをも、もう一度大学に進学することなってみて、自分が好きなこと、自分がやりたいことを勉強することをやってみて、自分が好きなこと、自分がやりたいことを勉強する。

ね。コーヒーの魅力はなんですか?―今、コーヒー業界で働いているそうです

コーヒーの美味しさ、コーヒーで生まれる人と人とのつながりですね。今、バリスタとして働いているのですが、お客さんのタとして働いているのですが、お客さんのしかった」といってくれるのが本当にうれしかった」といってくれるのが本当にまれしな。中には常連になって、つながりがして。中には常連になって、コーヒーで生まれ

―扱っているコーヒーにもこだわりがある

僕が扱っているものはスペシャルティコー

連の流れで味わい深いコーヒーに仕上がって 徴です。生産・収穫・買付け・焙煎・抽 の生産者の顔や農園がわかるところが特 います。 出と、コーヒーとして提供されるまでの一 ヒー*というものです。味が良く、コーヒー

仲介業者があまり入らないことも特徴で ですね。また生産者から消費者との間に 回され生活が不安定になることもあるん てコーヒー豆を作っても、先物取引が行わ れる一般的なコーヒーだと市場価格に振り に見合った報酬を農園に還元することを 豆と比べて価格も高くなっています。 大切にしているからです。どんなにこだわっ スペシャルティコーヒーは他のグレードの コーヒー生産者の収入をしっかり確保 貧困を防ぐ意義もあります。 品質

けを教えてください ―コーヒーフェスティバルを開催したきっか

ヒーフェスティバルを開催しました。 喜びを感じてほしいと思って、ヨコハマコー にさまざまな地域の喫茶店を知ってもら なりうると思っているんです。いろんな人 まず友人に「コーヒーフェスティバルをや コーヒーはコミュニケーションのツールにも コーヒーの魅力とお店の人とつながる

> 「それをやるんだったら、僕のお店も出 のオーナーにそのアイデアを伝えてくれて 強かったですね。 るよ」って言ってくれたんです。とても心 そしたらその友人が「やったらいいじゃ りたいんだ」って相談してみたんですよ。 ん!」って背中を押してくれただけではな 友人自身が働いているコーヒー屋さん

ので、魅力的なロゴを作ってくれて本当に ありがたかったですね。 図)。フェスティバルに参加してもらうには の友人に作ってもらいました(左ページ下 ぼってくれて横浜公園で開催できることに いた団体のメンバーに相談したら知恵をし なかったんです。それで、自分が活動して 分で開催したことがなくて、よくわから それがどう見えるかが大切だと思っていた なったんです。ロゴはバリスタ兼デザイナー んですが、こういった大規模イベントを自 次は実際にどこでできるか、考えてみた

たです。 敵 なフェスティバルになったのが うれしかっ 当日は多くの方々にご来場いただき、素

がら活動されてこられたんですね -さまざまな人々とつながり、協力しな

振り返ってみると、中学一年生くらいの



るかもしれません。 くれたり、協力してくれたりする人がい 葉にして伝えれば、それを一緒に考えて いとできないこともあると思うんです。言 りたいことがあっても、言葉にして伝えな いたことは、つながりをつくるうえで大き 葉にして、友人や周りにいる大人に伝えて 的に出会った人とのつながりをつくろうと 中学生ながらも、 時から、自分の名刺を作っていたんです。 かったんじゃないかと思います。たとえや と、自分が「やりたい」と思ったことを言 していたところはあったと思いますね。あ 名刺交換を通じて積極

今後、取り組みたいことはなんですか?

ティバルをもう一度開催したいですね。フェ コロナ禍でできていない、コーヒーフェス

コーヒーを淹れる百崎さん



いですね。

※スペシャルティコーヒーは①品質が優れている

サステナビリティがあること、この三つの条こと、②トレーサビリティがとれること、③

件を満たしているコーヒー豆のこと。市場に流通しているコーヒー豆の中で五%ほどしかない。スペシャルティコーヒーとその他のグレードの豆との違いなど、詳細はTHE COFFEE SHOP「スペシャルティコーヒーがSDGsに貢献できること」https://www.thecoffeeshop.前できること」https://www.thecoffeeshop.向月二○日閲覧)を参照のこと。市場に

取材を終えて

なと感じました。 (荒井喜久美)でからいたくなるキラキラした魅力なのだいた。そのような情熱が、みんなが一緒にした。そのような情熱が、みんなが一緒にいた。そのような情熱が、みんなが一緒にいた。 (荒井喜久美) なと感じました。 (荒井喜久美) なと感じました。 (荒井喜久美) なと感じました。 (荒井喜久美)

「おもしろそう」と感じた取り組みに積いたりしてきた百崎さん。ミニシティヨコハしたりしてきた百崎さん。ミニシティヨコハとがで考え、みんなで議論し、みんなで運自分で考え、みんなで議論し、みんなで運自分で考え、みんなで議論し、みんなで運はました。また「好きなことをやってみたじました。また「好きなことをやってみたじました。

(田中勇輝

PARTNER

認定NPO法人 ミニシティ・プラス

〒 224-0001

神奈川県横浜市都筑区 1-17-22 ガーデンプラザ宮台 402

TEL 045-306-9004

FAX 045-306-9004

HP https://minicity-plus.jp/

代表:藤岡 律江





ヨコハマコーヒーフェス ティバルのロゴ

団体からのお知らせ

認定NPO法人ミニシティ・プラスと活動をともにし てみませんか?

- 一緒になってまちを想い、
- -緒になってまちをより良くするために取り組み、
- 一緒になって子どもに優しい社会を創っていく、 会員・サポーター・賛助会員を募集しています。

詳しくはH Pをご覧ください。 https://minicity-plus.jp/join-and-support/

もりびと NOA

再生と共存の未来につなぐ 地域から

置き換えた時に、 きましたが、 SDGsという言葉自体はなじんで 個人の生活や地域社会に それはどこまで浸透し

ているのかを考えてしまいます。

れからのことを考えることを諦めずに、 考えていく時代。 に向かって守り残すべきものをみんなで い直す必要が見えた時代でもあり、 を得ない状況は、これまでの生き方を問 加えてコロナ禍という、まったく先が見 多くの人が暮らし方を変えざる もりびと NOA もこ

> どこですか? みなさんの活動のスタートは



代表の一石悠さん

との出会いで作業に参加していたので、 考えていたんですが、 兄ちゃん釣りクラブ」です。新型コロナの感 びとNOA」の立ち上げは二○二○年四月 める後押しとなったかなと思います。 で学んだ事が自分たちの活動の方向性を決 O法人「農ある暮らしを広げる会」の方々 染拡大で大学も休講になりバイトも無くな をベースに、 同じ中学の卒業生との「子ども釣り教室 自分たちで何か活動ができないかなと 釣り好きの五人で作った「お 前の年に二宮町のNP

贈呈当時の活動

ています。

向きな気持ちが広がるような活動を探っ 若者としてのパワーを地域に活かし、

前

当時の代表だった金子さんを中心に、中学生や高校生をまきこみながら 自然環境を学び、吾妻山の谷地に埋もれてしまった沢の復元と棚田の 再生、それに続く米栽培、耕作放棄地の開墾など、多くの人との交流 で地域の中を繋ぎ、自然と共生できる町をめざして活動しました。

また子どもの居場所づくりの一環として、「放課後子ども教室」への参 加や川遊びのサポート、釣り教室企画など、多彩な方面で遊びと学び の場を作っています。

メンバーそれぞれの個性と特技を生かして活動を支え、参加者も各自の ペースで自由な参加ができる雰囲気を大切にしていました。二宮という 土地を見直し、その将来につながる課題解決に若者の力を活かしていく という希望が広がりました。

贈呈理由

地域の団体や各世代の人との つながりを築きながら、自然 環境の保全や再生、持続可能 な社会の実現に向けて地元の 若者を中心に活動し、その持 続性や将来性をふまえ、キラ ラ賞を贈呈しました。

―もりびとNOAのネーミングは?

からとりました。人という意味合いも。NOAはノアの方舟もりびとは、森の人であり、同時に守る



山林整備の様子

活動の背景にある町の自然環境につい

て教えてください。

な問題があると教えられました。
でも、一見しただけではわからない環境的でも、一見しただけではわからない環境的であ、温暖で海も山もあるのどかな所で駅

長年放置されて山林は、土の中の環境が 悪化していて、立ち枯れが進み、竹林の状況も悪くなっています。それを放置してい ば大きな災害を起こす危険もあるといわれ でいます。せっかく恵まれた二宮の風土な

違う方向ですね。 ―ところで、釣りから農業とはずいぶん

> との出会いは何をもたらしましたか? ―NPO法人「農ある暮らしを広げる会」

い!という気持ちにつながりました。

里山の再生と自然農での自給を目指している団体なので、自分たちの町の環境の再生に関われるというのは大きな意味があります。こが町に変化をもたらし政治にも刺激になったらいいなぁという気持ちもあります。この町で何かを変えていけるかもという希望も持ちたいですから。

観が変わったということでしょうか?―それでは、活動することで大きく価値

て活動を広げられる喜びがあります。になっていき、地域の人たちに必要とされ代の多くの人との関わりが広がり、点が線この町の価値にも気づきましたし、違う世この町の価値にも気づきましたし、違う世

ますか? ―現在はどんな活動がメインとなってい

山林整備です。昔は薪山としての機能し

代と共に山に手が入らなくなり、沢も埋もれて、耕作放棄地が増えてしまいました。 NPOからの協力要請もあり、沢を掘り起こして棚田を開墾し、米作りに参加しました。とても感謝され頼りがいがあると認めた。とても感謝され頼りがいがあると認められ、頑張った成果が実際に目に見えるのられ、頑張った成果が実際に目に見えるのも嬉しかったです。

ようになる事を目指しています。業化に結びつき、独自で依頼を受けられる林の整備を進めていて、これらの実績が事

-竹林は作業が大変ではありませんか?

を豊かにします。
を豊かにします。
を豊かにします。
に広がる住宅地や畑にも良い効果があり、地域に役立つ大切な事だと教わりましり、地域に役立つ大切な事だと教わりました。地面はつながっていますが、竹林整備はその

いく心地がします。 流し、風を感じる瞬間はストレスが消えてきつい作業ですが、木漏れ陽の下で汗を

―山林整備には技術も必要ですね

進歩してきたと思います。
をありながら道具の実演、実習を行なったり、荒れている状況に心が痛んだりしまたり、荒れている状況に心が痛んだりしまたり、想像以上の倒木や枯木、枯竹に驚いたり、想像以上の倒木や枯木

―その他にはどんな活動がありますか?

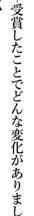
防災イベント用として町のジオラマを作る活動です。ハザードマップでは分かりにくい高境イベントの「カヌー体験&生き物観察」で歩イベントの「カヌー体験&生き物観察」でよの一環で子どもたちをサポートしたり、環境フォーラムの一環で子どもたちを中心にして七メートムの一環で子どもたちを中心にして七メートがのブォローをしたりと、子どもたちとの関わりが多くあり、子ども目線でのやり取りわりが多くあり、子ども目線でのやり取りかりが多くあり、子ども目線でのやり取りかりが多くあり、子ども目線でのやり取りかりが多くあり、子ども目線でのやり取りかりが多くあり、子ども大手でなっと思いました。違う世代が共に大事だなぁと思いました。違う世代が共のブオローをしたりと、子ども目線でのやりないという。

―釣りに関しての活動はないのですか?

活動のルーツなので続けています。生き物とふれ合うことは「五感」を通した貴重な学びの機会です。僕たち自身が環境のことを考えるきっかけにもなった経験を生かして小中学生向けの「子ども釣り教室」は続

て課題は?

町のために何かをしたいという思いは変わらないので勤めながらでも参加できる活わらないので勤めながらでも参加できる活力なぐ事業の柱や、子どもたちが気軽に関われる場も具体的に考えていきます。で次の世代を増やす事が課題です。基本ので次の世代を増やす事が課題です。基本的に有償ボランティアなので資金的には非常的に有償ボランティアなので資金的には非常的に有償ボランティアなので資金的には非常的に有償ボランティアなので資金的には非常ので次の世代を増やす事が課題です。基本ので次の世代を増やす事が課題でも表示といるという状況です。悩みながら模索しているという状況です。悩みながら模索しているという状況でする。



とで年配の方から頑張れよって声をかけら 地域の情報紙や町のホームページに載ったこ れたりします。 価されるようになったのが一番です。 まず周囲からも家族からも見直さ 活動を理解してもらえて評 れ

己肯定感も上がったかもしれませんね。 立体的に捉えられるようになったのかなと れと自分の町をジオラマで見ているみたいに として捉えられるようになり、 僕たち自身も自分の事だけに終始してい 周囲の問題や社会的な事が自分事 、取材対応 一石悠代表 吉野匠さん 主体性も自 そ



団体からのお知らせ

- ・近隣を含めた地域内の方の参加を 募ります。
- ・活動に賛同してくださる方からの ご寄付を熱望!しています。
- ・拠点となる場所(建物)を探して いますので、情報の提供をお願 いします。
- ・竹林整備で竹チップや竹炭など新 たな活用法が見えてきました。関 心のある方はご連絡下さい。

もりびと NOA

Facebook

https://www.facebook.com/wata. antachi

Instagram

https://instagram.com/___moribito_ noa?utm_medium=copy_link

代表:一石悠



ら一緒に活動できたらいいなぁと、 持ちが引き締まり、周りからの評価が高ま 受賞の大きな恩恵を語っていました。 ることで活動の意義も広めやすくなったと 交流が広がって、いずれ価値観も共有しなが した。受賞は大きな励みになり、自ずと気 短所も熟知した良い雰囲気で取材が進みま 培った地元の人間関係と子どもたちとの 中学から続くメンバーならではの、長所も ちょっと

ステキな夢をみせていただけたような時間

(光冨佳子)

キララ賞の歴史

キララ賞は生活クラブ神奈川二○周年事業として一九九一年からスタートしました。創立から約三○年間に三五○件以上の団体・個人の審査を行い、二○二○年度までに五○件の団体・個人にキララ賞を贈呈してきました。キララ賞の受賞団体・個人、キララ賞の選手連・応募基準、キララ賞の配史を振り返っていきたいと思います。

キララ賞の受賞団体・個人

一○四頁をご覧ください。
一○四頁をご覧ください。
一○四頁をご覧ください。
受賞団体・個人で最も多い活動が受賞し
で二五件です。次に多いのが国際交流(八件)、
で二五件です。次に多いのが国際交流(八件)、

キララ賞の選考基準・応募基準

は問わない)などの分野で、未来を切り開平和、環境、福祉、文化、国際交流(分野

人・団体)とする。がりをつくり出す活動をしている若者(個き、身近な地域を大切にし、新しい人のつな

募資格に適応する「若者」と定めてきました。二○二○年度まで「おおむね三○歳」に変更しと設定、その後「おおむね三○歳」に変更し議論を重ねてきました。設立当初は「三○歳」に変更しができる「若者」を何歳までとするかについて、応募すること

ただ「おおむね三〇歳」という規定が「あいまいである」ことから、「何歳までが若者なのかまいである」ことから、「何歳までが若者なのかまいである」ことから、「何歳までが若者なのかまい」規定を応募資格に個人)の応募は受け付けない」規定を応募資格にの個人)の応募は受け付けない」規定を応募資格にの個人)の応募は受け付けない」規定を応募資格に盛り込むことを決定しました。二〇二一年現在、キララ賞の応募基準はした。二〇二十年現在、キララ賞の応募基準はした。二〇二十年現在、キララ賞の応募基準は次のとおりです。

- する。(個人・団体)・神奈川県内の若者(三〇代まで)を対象と
- く。 財源の大部分がまかなわれているものを除 好的な助成や、政治・宗教団体によりその
- ・過去の受賞団体(個人)の応募は受け付け

キララ賞の件数と副賞金

キララ賞の副賞金は次のように変遷してきま受賞者の件数と賞金は次のように変遷してきまらた。

一九九一年~一九九四年(毎年二件)

一九九五年~一九九七年(毎年一件) 賞金各一〇〇万円

第金一〇〇万円 第金一〇〇万円

金の使途を報告する必要はありません。あり、受賞者の活動に使われてきました。副賞あり、受賞者の活動に使われてきました。副賞

の活動をさらに発展させていきましょう。の活動をさらに発展させていきまし、形成外部有識者が時間をかけて議論し、形成外部有識者が時間をかけて議論し、形成の活動をさらに発展させていきましょう。

受賞者紹介

受賞年度	受賞団体・受賞個人名	活動分野	活動地域
1991	十文字 修さん	環境保護	横浜市
1991	橋本 純子さん	福祉/女性への支援	横浜市
1992	インドネシア・湘南若者交流事業	国際交流/国際支援	藤沢市
1992	金子 寿さん	福祉/国際支援	神奈川県全域
1993	小網代の森を守る会 若者グループ	環境保護	三浦半島
1993	木曜パトロールの会	福祉	横浜市
1994	加藤 直司さん	福祉	全国
1995	小貫 大輔さん	国際交流/国際支援	ブラジル
1996	吉田 真美さん	国際交流/国際支援	茅ヶ崎市/ルワンダ
1997	フリースペースたまりば	福祉	川崎市
1998	アベトンフォーラム	環境保護	三浦半島
1999	尾山 篤史さん	福祉	海老名市
1999	エスニック集団	国際交流/多文化共生	神奈川県全域
2000	多文化まちづくり工房	福祉/多文化共生	横浜市
2001	ひよこっち	福祉/表現活動	横浜市
2001	AYA (AWC Youth Association)	人権活動	神奈川県全域
2002	川崎 富川(プチョン)高校生フォーラム"ハナ"	国際交流/人権教育	川崎市・韓国
2002	六浦共同生活舎	福祉	横浜市
2003	鈴木 健さん	福祉/多文化共生	川崎市
2003	和太鼓 昇龍	地域交流	横浜市
2004	すたんどばいみー	福祉/学習支援	横浜市/大和市
2005	帷子ウォッチンググループ	環境保護	横浜市
2006	てのひら~人身売買に立ち向かう会	福祉/多文化共生	神奈川県全域/ 2021 年現在は東京
2006	 井上 昌代さん(有機農園つ・む・ぎ)	農業/地域交流	二宮町
2008	NPO法人 Enjoyment	福祉	横浜市
2008	Peace Peace Peace	平和	神奈川県全域
2009	相原 海さん 相原 佑子さん	農業/地域交流	南足柄市
2009	宮々迫 ナンシー 理沙さん	福祉/多文化共生	横浜市
2010	STEP UP 学習会	福祉/学習支援	藤沢市
2010	Musoke Olutindo 〜虹の橋〜	国際交流/国際支援	川崎市
2011	高城 芳之さん	地域交流	横浜市
2011	石井 衣利子さん	福祉	横須賀市
2012	藤田靖正さん	福祉/文化活動	藤沢市
2012	天白 牧夫さん	環境保護	横須賀市
2013	永岡 鉄平さん	福祉/就労支援	横浜市
2013	福本塁さん	防災/地域交流	相模原市
2014	佐野 真吾さん	環境保護	横浜市
2014	岡 歩美さん	福祉/コミュニティづくり	相模原市
2015	Beijo Me Liga(ベイジョメリーガ)	国際交流/国際支援	厚木市
2015	川岸 卓哉さん	自然エネルギー/原発事故被災者 支援/地域貢献	川崎市
2016	小川 杏子さん	原発事故被災者支援	川崎市
2016	加藤 功甫さん	国際交流	横浜市
2017	学生団体 My Own Place	福祉/学習支援	藤沢市
2017	割田 大悟さん	福祉	神奈川県全域
2018	つばき学習会	福祉/学習支援	川崎市
2018	ひとりやないで!	福祉	神奈川県全域
2019	親切ダンスカンパニー	福祉/文化活動	横須賀市
2019	あすのち	福祉/学習支援	厚木市
2020	百崎 佑さん	市民教育/コミュニティづくり	横浜市
2020	もりびと NOA	環境保護	二宮町

1991 (環境保護)

十文字修さん(横浜市)

横浜市の南部にある里山の保護に取り組む。1993年、「まいおか水と緑の会」の中心メンバーとして、市民が参加・運営する「舞岡自然公園」を開園させた。

1991 福祉/女性への支援

橋本純子さん(横浜市)

女性の自立とたすけあいの場「みずら」のメンバー。DV、セクハラ、パワハラ、外国籍への差別など、女性が直面している課題について、なんでも相談できる場をつくっている。



1992 国際交流/国際支援

インドネシア・湘南若者交流事業(藤沢市)

インドネシアと日本の学生の交流事業を展開。文房具などをインドネシアの 貧困地域にある学校に寄付するなど、国際教育支援を実施している。

1992 福祉/国際支援

金子寿さん(神奈川県全域)

「障がいをもつ人も持たない人も、お年寄りも若い人も、ともに生きる社会」の実現を目指す団体フレンドリー・ライフ・コミュニティーを立ち上げ、障がい者が主体性をもって地域で自立した生活ができるよう、活動を展開してきた。第三世界へ車いすを送る国際支援活動も実践している。

1993 環境保護

小網代の森を守る会 若者グループ (三浦半島)

三浦半島にある小網代の森の保全活動に取り組んだ。また観察会・清掃活動・研究調査なども実施している。2021年現在、「こあじろの森くらぶ」として活動中。



1993 福祉

木曜パトロールの会(横浜市)

横浜・関内駅近くで野宿している人々に毛布、下着、せっけんなどの生活 用品、使い捨てカイロなどの防寒グッズ、粉末のコーンスープ、缶入りクラッカー、魔法瓶のお湯などの飲食物を届ける活動を続けている。

1994 福祉

加藤直司さん(全国)

プロースキーヤーとして活動していた経験を活かし、障がい者のためのスキースクール「ファクトリースマイル」を開設。スキー指導、キャンプ、カヌースクールなどを展開している。



1995 国際交流/国際支援

小貫大輔さん(ブラジル)

チルドレンズ・リソース・インターナショナル(子どもたちのための国際資源)を創設。ブラジルでの保育・学童保育所支援活動とボランティア受入活動を展開。日本でさまざまな文化を体験できるキャンプやブラジル人学校への支援などを行っている。2021年現在、東海大学教養学部国際学科教授。



1996 国際交流/国際支援

吉田真美さん(茅ヶ崎市/ルワンダ)

ムリンディ/ジャパン・ワンラブ・プロジェクト代表。内戦などで身体が不自由になった人々の自立支援を目的に、ルワンダに義肢・装具の製作所を開設。ここで義足製作技術者を養成する活動も展開している。



1997 (福祉

フリースペースたまりば(川崎市)

さまざまな理由によってひきこもりになった子どもや大人たちが自由な時間と場所の中で自分の好きなように過ごしながら、他人と協同することで、ありのままの自分を肯定し、生き方を取り戻していけるフリースペースを運営している。



1998 環境保護

アベトンフォーラム(三浦半島)

三浦半島の大楠山周辺で育った若者たちのグループ。自分たちが育てられた「かけがえのない自然」を次世代に引き継ごうと子どもたちや中高生に自然観察会や動植物相の調査などを行いながら、自然保護を呼びかける活動を展開していた。

1999 福祉

尾山篤史さん(海老名市)

障がいをもっていたり、依存症をもっていたりする人々などが語らい、交流できるフリースペース「たなからぼたもち」、「Who is happy man?」を主宰。自らも統合失調症を発症しながら、障がいをもつ人々の地域生活を支える活動を展開している。



1999 国際交流/多文化共生

エスニック集団(神奈川県全域)

神奈川県在住の外国籍の若者たちが立ち上げた。自分たちの考えを日本 の若者に知ってほしいという気持ちで集まった。年1回、キャンプを開催し、 国籍をこえた若者同士の交流の場を設ける活動を展開していた。

2000 福祉/多文化共生

多文化まちづくり工房 (横浜市)

外国籍の人々が多く住む県営「いちょう団地」で日本語教室や進路相談、 生活相談、そして多文化共生などに取り組んでいる。2010年に国際交流 基金地球市民賞、2014年には総務省ふるさとづくり大賞を受賞した。



2001 福祉/表現活動

ひよこっち(横浜市)

手話パフォーマンス活動を展開している。0歳から40代の聴覚障がいをもつメンバーが在籍しており、「自分たちのことを好きになる」「自分たちの理解者は自分たちの手で作っていく」ことを目標に活動している。

2001 人権活動

AYA (AWC Youth Association)

援助交際や少女買春など、子どもの人権に関わる問題の解決に取り組む若者たち。現在は組織を解消、母体団体のAWC(アジアの女性と子どもネットワーク)の一員として活動している。



2002 国際交流/人権教育

川崎 富川(プチョン)高校生フォーラム"ハナ"(川崎市・韓国)

姉妹都市関係にある川崎市と韓国の富川市の高校生たちの相互交流活動を展開している。日本人・在日コリアン・韓国人のメンバーで日本とコリアの歴史、川崎市・富川市の地域史研究を行う。



2002 (福祉

六浦共同生活舎(横浜市)

不登校や学習障害、引きこもりなどの問題を抱えた若者の緊急避難の場として、また地域の人たちの交流の場として運営・活動を展開していた。現在、NPO 法人コロンブスアカデミーとして活動している。



2003 福祉/多文化共生

鈴木健さん(川崎市)

DV の被害を受けたフィリピン女性たちによる自助グループ「カラカサン」の支援者として活動を展開している。当事者性を尊重した支援を継続的に行っている。また滞日外国人の人権に関わる活動や、入国管理局内の人権侵害をなくすための活動など、滞日外国人のための幅広い支援活動を展開している。

2003 地域交流

和太鼓 昇龍 (横浜市)

太鼓を通じて地域で「人と人をつなぐ」活動を展開している。 $10 \sim 20$ 代前半の若者がボランティアで演奏を実施している。地域の中で若者や子どもが太鼓を通じて成長していく場となっている。



2004 福祉/学習支援

すたんどばいみー (横浜市/大和市)

横浜市と大和市にまたがる県営「いちょう団地」で、外国にルーツをもつ 青少年を中心に学習支援教室、母国語教室、高校受験のための相談会を 開催している。2009年には共著で『いちょう団地発!外国人の子どもたち の挑戦』(岩波書店)を出版し、当事者の声を伝えた。



2005 環境保護

帷子ウォッチンググループ(横浜市)

横浜市・帷子川のさまざまな様子を調査・記録し続けている。地域の帷子小、 星川小、岩崎中学校と連携をはかり、帷子川ボート探検隊として川辺町親 水護岸で流域の環境観察など活動を展開している。

2006 福祉/多文化共生

てのひら〜人身売買に立ち向かう会(神奈川県全域/2021年現在 は東京)

人身売買に関する学習会から活動をスタートさせ、DV 被害者のためのシェルター、人身売買を考えるワークショップを開催してきた。2021 年現在、NPO 法人てのひらとして①困難を抱える外国籍女性へのエンパワメント事業、②ワークショップ事業を中心に、活動を継続している。

2006 農業/地域交流

井上昌代さん(有機農園つ・む・ぎ)(二宮町)

食料自給がグローバリゼーションの問題を解決する一つの方法と考え、有機農園つ・む・ぎを開園。自分で生産した野菜を自分で地域に届ける活動、地域住民との交流イベントを開催してきた。新しい農業と地域の在り方を模索しながら活動を展開している。

2007 年は受賞団体なし

2008 福祉

NPO 法人 Enjoyment (横浜市)

障がいをもった子どもたちの放課後・休日の居場所を確保しながら、障がいを持たない子どもたちも含めた共育のための学童保育事業、子育てに悩む親を支援する事業、コミュニティカフェ、英語教室などの活動を展開している。

2008 平和

Peace Peace (神奈川県全域)

核兵器廃絶と平和な世界の実現を求める『高校生1万人署名活動』を行っている。この運動は被爆地長崎で始まり、2005年から神奈川も「Peace Peace Peace」の名称で参加した。集めた署名を「高校生平和大使」がジュネーブの国連欧州本部へ届ける活動を展開している。



2009 (農業/地域交流)

相原海さん 相原佑子さん(南足柄市)

「農場こぶた畑」を主宰。自然と共存しながら、地域の人とのつながりの中で豚を育て、そのお肉を地域の中で売買する循環型養豚を実践している。



2009 [福祉/多文化共生]

宮々迫ナンシー理沙さん(横浜市)

小学 4 年生の時に生まれ育ったブラジルから来日。ブラジルにルーツを持つ日系人としての経験から、外国籍日系人である子どもたちへ学習支援など、さまざまな支援を行ってきた。

2010 福祉/学習支援

STEP UP 学習会(藤沢市)

学びの楽しさを子どもが知るために地域の子どもたちが安価で学ぶことができる学習の場をつくっている。定期的な学習会、プログラミング教室、出張授業など、地域に住む社会人と大学生が活動している。

2010 国際交流/国際支援

Musoke Olutindo 〜虹の橋〜 (川崎市)

養護学校の生徒・卒業生とアフリカ東部ウガンダの青年たちとの交流を行ってきた。物資支援や現地でのワークショップも実施してきた。活動を通じて、 生徒たちのエンパワメントを高めてきた。

2011 地域交流

高城芳之さん(横浜市)

大学生の時から地域と若者をつなぐ活動を展開している。地域のニーズと 社会人になっても地域の役に立ちたい若者をコーディネートする中間支援 の取り組みを展開している。2021 年現在、NPO 法人アクションポート横浜 で代表理事を務めている。



2011 福祉

石井衣利子さん(横須賀市)

不登校・ひきこもりを経験した当事者として、同じ経験をした人々と書店を 運営し、社会に参与する事業を行っている。2021 年現在、アンガージュマンよこすかの事務局長として「はるかぜ書店」などの運営など、さまざま な取り組みを行っている。



2012 福祉/文化活動

藤田靖正さん(藤沢市)

障がいをもつ人たちがたすけあいながら農業をしたり、芸術活動をしたりする「さんわーくかぐや」を運営している。地域で障がいをもった人が地域住民ととともに交流し、働き、生活していくまちづくりにも取り組んでいる。



2012 (環境保護)

天白牧夫さん(横須賀市)

生物学を専攻する大学生を中心に NPO 法人三浦半島生物多様性保全を立ち上げ、現在 7 か所の谷戸を管理している。里山保全活動を通じて生物多様性の保全に貢献する地域社会づくりを進めており、それらの活動を通して環境教育にも展開している。



2013 福祉/就労支援

永岡鉄平さん(横浜市)

2011 年に児童養護施設等の子どもたち・若者たちへの就労支援を行う、株式会社フェアスタートを起業。子どもたち・若者たちへ「就労教育・就職マッチング・仲間づくり」の機会を提供することで、貧困の連鎖を断ち切り、社会で本来持つ可能性を十分に輝かせ活躍してくれることを目指して事業を展開している。



2013 防災/地域交流

福本塁さん(相模原市)

地域での防災教育活動を行ってきた。自分目線で防災を考えるまち歩きや 勉強会を開催する他、『防災トランプ』を開発する等、多様な世代が楽しく 交流し、近隣の顔を見せ合う場をつくること、災害時に互いを助け合えるま ちづくりを目指して活動を展開。防災への取り組み・研究が評価され 2016 年度「東京大学総長賞」などを受賞。2021 年現在、長岡造形大学助教。



2014 環境保護

佐野真吾さん(横浜市)

ふるさと侍従川に親しむ会で活動。生き物がにぎやかに生きていける自然環境の保全を目指し、大学での研究、水生生物の保全活動、子どもたちへの環境教育を展開している。2021年現在、観音崎自然博物館学芸員として活動中。



2014 (福祉/コミュニティづくり)

岡歩美さん(相模原市)

相模原地域を中心に親子やわかものを対象とし、普段の生活に役立つ情報や技術の交換と交流がもてる「くらしのおやこ教室」や「ゆるりんく」などのイベントを開催。地域、親、子どもそれぞれの目線を大切にしながら、教室を通して参加者自身がいずれは講師になり、親子やわかものが独自に助け合えるコミュニティを作りながら子どもが安心して育つことのできる環境づくりに取り組んでいる。



2015 国際交流/国際支援

Beijo Me Liga (ベイジョメリーガ) (厚木市)

東海大学の学生によって構成されたグループ。厚木市にあるブラジル学校等でのボランティア活動や、「マルチカルチャー・キャンプ」という母国と異なる文化や言語に戸惑い、日本の生活に馴染めていない在日ブラジル人の子どもたちに「楽しい思い出」作りをするキャンプを主催している。Beijo Me Liga とはポルトガル語で「キスして、電話して」という意味。



2015 自然エネルギー/原発事故被災者支援/地域貢献

川岸 卓哉さん (川崎市)

弁護士として市民や働く人に寄り添った活動を展開している。原発事故被 災者の集団訴訟に携わる。「原発ゼロ市民共同かわさき発電所」を発足さ せ、自然エネルギーの普及を進めるとともに地域課題解決にも取り組んで いる。



2016 原発事故被災者支援

小川杏子さん(川崎市)

2011 年東日本大震災をきっかけに福島の子どもたちの保養活動を始め、 川崎市の様々な活動団体と連携し震災経験を風化させない活動を行っている。2021 年現在、NPO 法人パノラマで居場所づくり等を行っている。



2016 国際交流

加藤功甫さん(横浜市)

2016 年 4 月にオープンした築 65 年以上の古民家「カサコ」を拠点として、多世代多国籍の地域交流活動を展開している。世代や属性間で繋がりが無かった地域活動ハブとして、異なる価値観・文化を受容し合い、人と人が出会うことができる場所を目指している。



2017 福祉/学習支援

学生団体 My Own Place (藤沢市)

"成長に愛を"という活動理念のもとに子どもの居場所をつくる。遊び・学習支援、および食事の提供を通じた居場所づくり < MOP HOME >や中高生を対象とした学習支援 < MOP TREE > を開催。単に食事を提供するだけでなく、大人や友人とは異なる大学生という独自の立ち位置(ナナメの関係性)から子どもたちに地域で安心して過ごせる居場所を提供している。



2017 福祉

割田大悟さん(神奈川県全域)

双極性障害を発症し、"ひきこもり"等葛藤の中、"ひきこもり当事者グループ「ひき桜」in 横浜"を設立。月1回、フリートークの交流を中心に居場所の提供。また当事者同士の「体系的に学ぶ学習会」を主催。当事者会「ひき町」のコーディネーターを務め、各地域に安心して過ごせる居場所ができるための取り組みを続けている。ひきこもりに関する理解促進やピアサポートの普及啓発を行っている。



2018 福祉/学習支援

つばき学習会(川崎市)

学習支援を通して、子どもに最低限の学力を保障することと、子の面倒をみる親の負担を減らす。今後は児童養護施設入所者、生活困窮者、その他学校や家庭等では十分な教育が受けられない子どもたちを対象に個別の学習支援を展開する。



2018 福祉

ひとりやないで!(神奈川県全域)

精神疾患の親を持つ子を対象に、集まりを開き、交流活動を展開している。この活動を通じて、この立場の人々の疲弊・社会的孤立を防ぐことに貢献している。



2019 福祉/文化活動

親切ダンスカンパニー(横須賀市)

ダンスの楽しさを地域の人々と共有することで、コミュニティづくりを促進。 ダンスをしに気軽に人々が集まれる機会を作ることで、年齢・性別・国籍・ 障害の有無を問わない多世代の交流、参加者(特に障がい者や高齢者) の運動不足の解消と身体機能の向上、公共施設の活用、参加者の能力の 発揮や新たな自己発見の効果を期待している。



2019 福祉/学習支援

あすのち(厚木市)

多くのコミュニティがあるなかで、こども自身が選んだ場所で学んでいけるよう、現在の活動の継続はもちろん、職業体験など将来の選択肢を広げる活動や、こども自身が企画を立てる挑戦の機会づくりを予定。こどもに多様な方面からアプローチすることで、こども自身が興味のあること、生きたい未来に向かって行動できる機会と経験をつくる。



2020 (市民教育/コミュニティづくり)

百崎佑さん(横浜市)

NPO 法人ミニシティ・プラス会員。子どもたちが子どもたちだけで自分たちの町づくりを行う「ヨコハマミニシティ」の取り組みを実践し、子どもたちの中に市民自治の感性をひろげることに貢献してきた。その後コーヒー業界へ就職、コーヒーを通じたコミュニティづくりも行う。2019 年には横浜コーヒーフェスティバルを開催した。



2020 環境保護

もりびと NOA (二宮町)

自分たちが生まれ育った二宮町で、SDGs の 2「飢餓撲滅、食糧安全保障」、 3「健康・福祉」、8「包摂的で持続可能な経済成長、雇用」15「陸域生態系、 森林管理、生物多様性」を達成するためのさまざまな活動を展開している。



キララ賞を構成する各委員会について

合同委員会)を構成しています。
合同委員会(運営委員会、選考委員会、実行委員会、労の委員会(運営委員会、選考委員会、実行委員会、労の委員会(運営委員会、選考委員会、ま行委員会、当の委員会(運営委員会、選考活動、キララ賞の活動がある活動が、そして年間のの委員会)を構成しています。その活動には、キララーを開る。その活動には、キララーを開る。

運営委員会

営を行い、基本的な方針を決定することです。の検討・決定など、キララ賞に関わる活動全般の運ラ賞の選考活動や贈呈に関わる活動の基本的な方針・運営委員会の役割は、キララ賞活動の運営、キラー

域でより活動しやすくなる利点があるからです。す。行政が受賞者の活動を認知することで、受賞者は地活動の内容を行政に直接伝える活動にも取り組んでいま奈川県知事やその他地方の首長を表敬訪問し、受賞したまた運営委員会では、運営委員長が受賞者とともに神また運営委員会では、運営委員長が受賞者とともに神

更常委員は生活クラブ神奈川と福祉クラブの組合員、運営委員は生活クラブ神奈川と福祉クラブの組合員と外部の有識者は、神奈川県明るい選挙推進協議会、神奈川新聞、テレビ神奈川などに所属しています。組合員と外部の有識者が務めています。運営委員会を務める運営委員は生活クラブ神奈川と福祉クラブの組合員、運営委員は生活クラブ神奈川と福祉クラブの組合員、

選考委員会

キララ賞の選考活動を行うことです。選考委員会の役割は、運営委員会から委嘱された

です。それをふまえ、キララ賞の選考基準として、いる個人や団体をキララ賞の贈呈対象とする、ということラ賞が大切にしてきたことはオルタナティブな生き方をしてキララ賞を贈呈する対象者を選考するにあたって、キラ

①持続性のある活動か②持続性のある活動か②持にしているか③自分たちの身近な地域を大切にしているか③他の人たちが再現し、実行できるか②オルタナティブな生き方の提案があるか②持続性のある活動か

選考しています。の七項目を設け、これらの観点からキララ賞の贈呈対象を

定していきます。現地調査による審査を実施、そして贈呈する対象者を決選考活動では、まず応募書類による審査を行い、その後、

て現地調査を行う応募者を例年四件ほど決定します。 に現地調査を行う応募者を例年四件ほど決定します。 このシートをもとに第一回選考委員会でトを作成します。このシートをもとに第一回選考委員会でトを作成します。このシートをもとに第一回選考委員会の開催前に全応募者に関する選考シーを作成します。このシートをもとに第書類による審査では、キララ賞の選考基準をもとに応募書類による審査では、キララ賞の選考基準をもとに応募書類による審査では、キララ賞の選考基準をもとに

実行委員会

の地域で具体的に推進することです。実行委員会の役割は、キララ賞の活動をそれぞれ

運営などを行います。

運営などを行います。

連営などを行います。

東体的には地域の商店街、大学、教育施設などでのキー具体的には地域の商店街、大学、教育施設などでのキー具体的には地域の商店街、大学、教育施設などでのキー

委員が務めます。外部有識者は実行委員を務めていません。実行委員は生活クラブと福祉クラブの運営委員・選考

合同委員会

です。 「です。 とのです。 とのです。 とのです。 とのです。 とのです。 とのです。 とのです。 とのです。 とのです。

選考委員が参加します。に開催し、そこは外部有識者も含め、すべての運営委員、このことから合同委員会は毎年キララ賞贈呈式終了後

の懇親を行います。 度の活動の方向性を共有、討議、決定したあと、各委員度の活動の方向性を共有、討議、決定したあと、各委員

対象者を決定します。

現地調査による審査では、応募者の活動を訪問したり、

現地調査による審査では、応募者の活動を訪問したり、

現地調査による審査では、応募者の活動を訪問したり、

現地調査による審査では、応募者の活動を訪問したり、

活動を展開してきた方々などがいます。 海外の人々との交流活動をしている方、そして行政で福祉海外の人々との交流活動をしている方、そして行政で福祉有識者には大学教員や、地域で居場所づくりをしている方、運営委員が選考委員を兼任する事例はまれです。外部の福祉クラブの組合員、そして外部の有識者が務めています。選考委員は運営委員と同じように生活クラブ神奈川と選考委員は運営委員と同じように生活クラブ神奈川と

賞の贈呈を行いませんでした。

賞の贈呈を行いませんでした。

さわしい対象者がいなければ、キララ賞を贈呈しないことさわしい対象者がいなければ、キララ賞を贈呈しないことさわしい対象者がいなければ、キララ賞を贈呈しないこと、選考委員会の特徴は選考委員が選考過程で感じたこと、選考委員会の特徴は選考委員が選考過程で感じたこと、

を展開しています。 以上、四つの委員会が連携しながら、キララ賞の活動

記念誌編纂委員会

のもとを取材し、記念誌にまとめてきました。
○□○□年誌は生活クラブ神奈川の組合員が編纂委員を務め、過去の受賞者年の受賞者たち』(□○一年六月発行)を発行しました。一○周年誌、年の受賞者たち』(□○一年六月発行)を発行しました。一○周年誌、北まで一○周年記念誌『若者発見伝』キララ賞一○年の受賞者たち』のもとを取材し、記念誌にまとめてきました。

福祉クラブの組合員も編纂委員に加わり、記念誌の制作にあたりました。(キララ賞三〇周年記念誌では、生活クラブ神奈川の組合員だけではなく)

「かながわ若者生き活き大賞

第三一回キララ賞贈呈式・三〇周年記念フォーラム」を終えて

キララ賞実行委員長・生活クラブ神奈川 副理事長 桜井 薫

ンによる迫力あるパフォーマンスでした。とによる迫力あるパフォーマンスでした。今回のオープニングは和太鼓昇龍(二○○三年度受賞)とた。今回のオープニングは和太鼓昇龍(二○○三年度受賞)とた。今回のオープニングは和太鼓昇龍(二○○三年度受賞)とた。今回のオープニングは和太鼓昇龍(二○○三年度受賞)とた。今回のオープニングは和太鼓昇龍(二○○三年度受賞)といよる迫力あるパフォーマンスでした。

三一回目(二〇二一年度)のキララ賞は二組に贈呈

す。大学を休校してまで取り組むのは、この危機感を伝えるのはに、全国の小中高校を中心に精力的な講演活動を展開していま危機について若者世代の関心を喚起し行動に踏み出せるよう一組目は、環境活動家の露木志奈さん(横浜市)。気候変動の

三〇年の重みを感じるお話でした。針を示してくださる立場でいらっしゃいます。まさに、キララ賞今や西野さんは生活クラブ神奈川の組合員活動にも様々な指

続くパネルディスカッションでは、有機農園つ・む・ぎの井上昌 に二○二○年受賞)を加えて、若者がもっと活躍できる地域社会 でりに向けて、市民ができることとは何かを考えました。 キララ賞を通じて、応援してくれる人が増えたことが継続の支えになっていること。何かやりたいと思った最初の一歩をの支えになっていること。何かやりたいと思った最初の一歩をの支えになっていること。何かやりたいと思った最初の一歩をがあると嬉しい等の意見が出され、今後の活動のヒントが得らがあると嬉しい等の意見が出され、今後の活動のヒントが得られました。

キララ賞の意義とは

キララ賞の応募には自薦と他薦がありますが、毎年多くの組



力に賞賛と期待が集まりました。必要なくなる世の中の実現といいます。そうした、行動力と発信今しかないという危機感からとのこと。目指すは環境活動家が

寄せられました。 二組目は、Plant Pitty(茅ヶ崎市)。茅ヶ崎市で、フードバンク「茅産茅消」を推進している団体です。拠点を構えフードバンク「茅産茅消」を推進している団体です。拠点を構えフードバンクーが産業ができる。 の学習会を開催するなど、地域に食をき込む力が評価され「食を大切にするまちづくり」への期待がある。 これ目は、Plant Pitty(茅ヶ崎市で、フードロス削減・二組目は、Plant Pitty(茅ヶ崎市)。茅ヶ崎市で、フードロス削減・

た」と感想を述べられました。
い咤激励されているようであっ的に展開している姿に感動した。叱咤激励されているようであっち組合員が目指している内容の活動をしなやかにそして精力工組の活動について、生活クラブ神奈川篠崎理事長は、「私た

キララ賞三○年の重みと今後への期待フォーラムで振り返る

夢パーク」の設立につながっていったことについて語られました。り、「川崎市子どもの権利に関する条例」制定、「川崎市子どもけたが、キララ賞受賞をきっかけに行政や周囲の理解につながはたちの居場所づくりを始めた当初は、様々なバッシングを受ば理事長の西野博之さんの基調講演では、不登校になった子どが理事長の西野博之さんの基調講演では、不登校になった子どが出た。

ようう賞は贈呈したら終わりではなく、新たなステップへのスタートであることに意義があります。受賞者と組合員、受賞者と受賞者(過去の受賞者も含みます)のそれぞれのつながりをいっていきます。また、キララ賞実行委員会を通して表敬訪問をがっていきます。また、キララ賞実行委員会を通して表敬訪問をがっていきます。また、キララ賞実行委員会を通して表敬訪問をがっていきます。また、キララ賞は贈呈したら終わりではなく、新たなステップへのスタートであることもあります。

最後に

毎年、受賞者から得る感動は何なのでしょうか。私たち大人毎年、受賞者から得る感動は何なのでしょうか。私たちでは若者のメッセージから、自分たちが何をすべきか問われていると感じているのだと思います。キララ賞贈呈式が若者もベテランも関係なく、「自分も何かやりたい」という思いに向けて一つがやりたくてもできずにいることをしなやかにやってのけていがやりたくてもできずにいることをしなやかにやってのけていると感じているのだと思います。

荒井 喜久美(横浜北生活クラブ)

をさせていただきました。魅力的な方々のお話を聞ける機会に、喜び勇んでたくさん取材をさせていた意の急いでしたが、受賞とめるのは苦渋の決断でしたが、受賞とめるのは苦渋の決断でしたが、受賞とめるのは苦渋の決断でしたが、受賞とめるのお話を聞ける機会に、

眞壁 尚子(横浜北生活クラブ)

皆様ありがとうございました。ちゃの姿に触れることができ、感動し方々の姿に触れることができ、感動しました。想いを伝える作業の難しさを感じましたが、同時に得難い経験とないました。想いを伝える作業の難しさを

七戸順子(横浜みなみ生活クラブ)

を通じて広く伝わると嬉しいです。として頼もしいリアルな声が、記念誌がありました。同じ時代を生きる仲間がありました。同じ時代を生きる仲間がありました。同じ時代を生きる仲間がありました。

指宿 久美子 (かわさき生活クラブ)

下妻 理智(かわさき生活クラブ)

キララ賞の一ファンとしては、受賞者のキララ賞の一ファンとしては、受賞者のによう! と取材まではウキウキ楽しいひと時でした。・・・ その後の産みの苦しみも知らずに呑気だった自分を叱っしみも知らずに呑気だった自分を叱ってやりたい。

加藤恭子(湘南生活クラブ)

加できたことに感謝です。思うことばかり。活動でこんなにも素思うことばかり。活動でこんなにも素思うことばかり。活動でこんなにも素思うことばかり。活動でこんなにも素思うことばかり。活動でこんなにも素思うことばかり。活動でこんなにも素思うことに感謝です。

光冨 佳子 (湘南生活クラブ)

取材でした。 キララ賞の持つ意義を改めて認識した は周りの意識をも変えつつあります。 るようにみえました。そして、生まれ り、進むべき道への勇気につながってい キララ賞の受賞は若者たちの自信とな 育った土地で環境の課題に取り組む姿

佐藤英二郎 (さがみ生活クラブ)

きれなかったのが心残りです。 都合で、その内容を皆さんにお伝えし 今回がはじめて。伺ったお話がすべてお 人柄を表す貴重なものに思え、字数の プ起こしをするという本格的作業は

質問表を作り、インタビューをし、テー

(生活クラブ神奈川・副理事長)

てきた。三〇周年の機会に、途切れる 超えて様々な人に感動と勇気を拡散し ことだから今やる」という言葉を聞い ある受賞者の「今でなくてはできない 記念誌は編集委員の皆さんのキララ賞 ことなく記録できたことに感謝。この くべきと聞こえた。キララ賞は世代を 突き動かされたときにこそ躊躇なく動 た時、それは老いも若きも関係なく への愛情の賜物だ。

整して下さり感謝しています。

みなみ)の七戸さん。日程など全て調

に取材担当になった生活クラブ(横浜

そんな不安を解消してくれたのが一緒

福祉クラブからたった一人の編纂委

、プレッシャーと責任感で眠れない

原静江(福祉クラブ)

髙橋 多千美(さがみ生活クラブ)

ぶしく見えました。いや、見習わないと。 も大きく成長していく姿が、私にはま 倒されました。関わる全ての人たちを と解決策のための行動力と持続力に圧 自分たちが気づいた社会問題への想い

田中勇輝(政策調整部)

見するきっかけとなれば幸いです。 ることを強く感じました。この記念誌 が、読者の方にとってキララ賞を再発 に心より感謝申し上げます。キララ賞 そして取材にご協力いただいた受賞者 てご尽力していただきました編纂委員 の財産はこの賞に関わる人々の中にあ の皆様、原稿をお寄せいただいた皆様 キララ賞三○周年記念誌の完成にむけ 企業組合エコ・アドの皆様

未来をつくる若者のチカラ

キララ賞(かながわ若者生き活き大賞)設立30周年記念誌

発行日 … 2022 年 6 月 1 日

発行……………… 生活クラブ生活協同組合・神奈川、福祉クラブ生活協同組合

企画・編集······ キララ賞 30 周年記念誌編纂委員会

発行部数……… 1,800 部

編集・表紙デザイン …… 企業組合エコ・アド

印刷……… 佐藤印刷所

キララ賞公式ホームページ https://kanagawa.seikatsuclub.coop/activity/kirara/

